

事項二 中国改革借款一件

一三〇 六月五日 在中國小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

第二次改革借款第三回前貸一千万円借換契約

成立ノ件

附屬書 支那政府民国七年甲号大藏省証券借換契約

機密第二四三号

大正八年六月五日

在支那

特命全權公使 小幡西吉(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

第三回一千万円前貸借換契約成立ノ件

客年七月財政総長ト横浜正金銀行代表者トノ間ニ訂立セラレタル第三回一千万円前貸契約ハ追々期限満了ニ近キタル処先方ヨリ更ニ一箇年償還延期方要請有之候ニ付過日来当事者間ニ商議ヲ重ネタル結果第二回前貸借換契約ノ条件ニ遵拠シ別添借換契約ヲ協定シ本月四日当事者間ニ調印ヲ了シ候委細ハ別紙ニ就キ御査閲相成度此段申進候也

旧証券ノ償還ヲ完了シタルトキハ旧証券ヲ日本駐劄支那公使ヲ經テ支那政府ニ還付スヘシ

本条第一項ノ大藏省証券ハ証券發行ノ日即大正八年七月七日ヲ以テ日附セラレ支那政府民国八年「即日本大正八年」甲号大藏省証券ト称セラル

第二条 本大藏省証券ノ償還期限ハ其ノ發行ノ日ヨリ起算シテ滿一箇年トス

第三条 本大藏省証券ハ日本ニ於テ百分ノ七ノ割合(即發行券面額百円ニ付手取九拾三円ノ割合)ヲ以テ割引發行セラル

第四条 本大藏省証券ハ支那ノ塩稅收入ニシテ已ニ之ヲ担保トセル従前ノ諸債權殘高ニ対スル分ヲ除キ支那塩稅收入全部ヲ以テ優先ニ担保セラル

第五条 支那政府ハ本大藏省証券償還基金トシテ在横浜銀行ニ回金スル為メ塩稅收入ヨリ毎月五日ヲ以テ 中華民國九年一月ヨリ 中華民國九年五月ニ至ル五ヵ月間日本貨幣金 日本大正九年五月 日本大正九年六月ニ於テハ日本貨幣金一百七十万円又 中華民國九年六月 日本大正九年六月ニ相当スル上海規銀又ハ国幣ヲ在上海銀行ニ交付スヘシ

(附屬書)

支那政府民国七年甲号大藏省証券借換契約

中華民國七年七月五日 北京ニ於テ支那政府ト横浜正金銀行 日本大正七年七月五日 トノ間ニ締結シタル日本貨幣金一千万円(以下銀行ト称ス)トノ間ニ締結シタル日本貨幣金一千万円第三回前貸契約ニ依リ日本ニ於テ發行シタル支那政府民国七年(即日本大正七年) 甲号大藏省証券(以下旧証券ト称ス)ハ 中華民國八年七月拾日ニ於テ償還期限ニ達スル処支那政府ハ該契約第九条ニ依リ右証券ノ償還期限ヲ延長センコトヲ欲シテ之ヲ銀行ニ通知シ銀行ハ新ニ一ヵ年期限ノ大藏省証券ノ發行ヲ引受ケ以テ其ノ借替ノ手續ヲナスコトヲ承諾シタルニ付財政総長ハ支那政府ヲ代表シ銀行ハ日本銀行團ヲ代表シテ北京ニ於テ本契約ヲ締結ス其ノ条項左ノ如シ

第一条 支那政府ハ銀行ニ対シ旧証券償還期限三日前ニ日本ニ於テ支那政府大藏省証券額面日本貨幣金一千万円ヲ發行シ之ニ対スル支那政府ノ純手取額及第七条所定ノ資金ヲ以テ旧証券償還資金ニ充当スルコトヲ承諾ス

銀行ハ前項ノ規定ニ依リ旧証券ノ償還期日及其後ニ於テ

右換算相場ハ交付当日又ハ一箇月前ニ於テ銀行ト協定シタル日本向電信為替相場ニ依ルモノトス

在横浜銀行ハ前項ノ回付基金ニ対シ其ノ電信為替を受記シタル当日ヨリ本大藏省証券償還期限前十日迄年五分ノ割合ヲ以テ利息ヲ付スヘシ

第六条 銀行ハ旧証券ヲ本大藏省証券發行ノ日ニ於テ其ノ券面金額ノ平価ヲ以テ本大藏省証券ノ代リ金トシテ受入ル、コトヲ得

第七条 支那政府ハ本契約第三条ノ割引料並ニ第九条ノ手数料及本大藏省証券印刷費用約金三千円合計金八十万三千円ヲ旧証券満期ノ十日前ニ日本ヘ回金スル為メ之ニ相当スル上海規銀又ハ国幣ヲ在上海銀行ニ交付スヘシ其ノ為替相場ハ回金ノ当日若シハ其ノ一箇月前ニ於テ銀行ト協定スヘシ

第八条 銀行ハ本大藏省証券ヲ發行シ旧証券ヲ償還シタル後遲滞ナク本大藏省証券ノ支那政府ノ純手取額第七条所定ノ回金額及旧証券償還ニ関スル勘定書ヲ作成シテ之ヲ支那政府ニ提出スヘシ

第九条 支那政府ハ本大藏省証券發行ノ手数料トシテ総券

二 中国改革借款一件 一三一

面額ノ百分ノ一即チ金十萬円ヲ証券發行ノ当日ニ於テ銀行ニ交付スヘシ

第十条 財政総長ハ支那政府ヲ代表シ本契約第一条ニ依リ日本ニ於テ大蔵省証券發行ノ当日先ツ額面金一千萬円ノ大蔵省大証券一通ヲ發行シテ銀行ノ北京支店ニ交付スヘシ此大証券ハ日本ニ於テ發行スル大蔵省証券全部ノ作成ヲ畢ルト共ニ之ヲ銀行ヨリ財政部ヘ返付スヘシ
日本ニ於テ發行スル本大蔵省証券ノ様式文字及各証券額面金額ハ銀行ニ於テ従来日本ニ於テ發行セラレタル外国大蔵省証券ノ例ヲ参酌シ日本駐劄支那公使ト之ヲ協定スヘシ

本大蔵省証券面ニハ財政総長及日本駐劄支那公使ノ署名及官印ヲ印写セシメ以テ本証券ノ發行カ支那政府ノ許可ニ依ルコト及支那政府ヲ拘束スルコトヲ証明シ銀行頭取亦本証券發行取扱者トシテ該証券ニ記名調印スヘシ
支那政府ハ本契約調印ノ当日ニ於テ本件ノ実行ニ必要ナル訓令ヲ日本駐劄支那公使ニ電達スヘシ

第十一条 本大蔵省証券ハ第二次善後借款成立ノ場合ニハ該借款手取金内ヨリ優先ニ償還セラルルモノトス

ハ仏国側ニ於テモ異議ナキニ付不日承諾ノ通知ヲ發スル管ナリト語レル由

一三二 六月十二日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

正金代表者ニ於テ現行借款團規約ノ有効期間
延長協定ニ調印ノ件

第七九四号

在倫敦正金支店發本店宛ノ電報ニヨレバ現借款團規約ハ六月十八日ヲ以テ期限満了ノ処目下新団体成立セントシツアル際ナレバ更ニ向フ一カ年若ハ新団体成立ニ至ル迄同団体規約ヲ延期スルコトト致度旨 Addis ヨリ提議アリタルニ付正金代表者ニ於テ差支ナシト認メ右契約文ニ調印シタリ尤モ露国目下ノ状態ニ鑑ミ同国団体ノ調印ハ取除キタル趣ナリ

一三三 六月十八日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国政府ノ財政逼迫ニ対シ政費融通ノ必要ニ
関シ具申ノ件

二 中国改革借款一件 一三二 一三三

一〇八

第十二条 本契約ノ条項ハ外交部ヨリ正式ノ公文ヲ以テ之ヲ北京駐劄ノ日本公使ニ照会セラルルモノトス

第十三条 本契約ハ日支両文各四通ヲ作成シ支那政府及銀行ハ各其ノ二通宛ヲ保存ス本契約ノ解決ニ関シ疑義ヲ生シタル場合ニハ日本文ヲ以テ之ヲ決ス

中華民國八年六月四日 財政総長 龔 心 湛
日本大正八年六月四日 横浜正金銀行代表

横浜正金銀行
北京支店支配人 小貫 慶治

一三一 六月十一日 在仏国松井大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

現行ノ对中国借款團規約ノ有効期間延長ニ関シ
仏国側異議ナキ件

第一七八号

(六月十五日接受)

現対支借款團規約ノ有効期間ハ六月十八日ニテ満期トナリ、其前新借款團成立覚束ナキニ付過般「アデス」ハ日仏銀行團ニ対シ延長ノ提議ヲナセシ次第ハ已ニ御承知ノコトト存ゼラルル所六月十日「シモン」ハ小田切ニ対シ右ニ関シテ

第八八八号

(六月十九日接受)

当国政局ノ近状ニ関シテハ迭次ノ具報ヲ綜合シ推知セラルル通り上海會議ノ頓挫ニ伴フ政局ノ行詰リト山東問題ニ関連シ惹起セラレタル風潮トハ互ニ相抱合シテ極メテ憂慮スベキ不安ノ状態ト危険ナル傾向ヲ現出スルニ至リ加フルニ政府ノ財政ハ弥々逼迫ノ極ニ達シ殆ド收拾スベカラザル破綻ノ情勢ニ陥リ其窮乏ハ時ニ數万ノ支出ニスラ窮スルヲ得ザル実情ニ在リテ現ニ僅ニ政府ノ依頼シ得ル確實ナル財源ハ唯ダ塩税ノ一有ルノミ然モ之トテモ最モ切詰メタル政費ノ一半ヲ漸ク充タスニ過キザルヲ以テ過去數カ月間ニ亘リ民間ヨリ強イテ總計二千萬円余ヲ借上ゲ之ガ融通ニ依リテ辛ウジテ一時ヲ凌ギ来レル様ノ実情ナル処此上民間ヨリ所要資金ノ調達ヲ計ルガ如キハ到底其見込ナキノミナラズ上記二千万円ノ如キモ猶ホ久シキニ亘リ償還ノ途ナキニ於テハ金融市場ニ甚大ナル恐慌ヲ来タス虞ナシトセズ、殊ニ一面軍隊ノ給料ハ政府ニ於テモ最モ意ヲ用ヒ苦心ノ末、今日迄ノ処幸ニシテ其ノ支払ヲ停滯セシムルガ如キコトナク以テ漸ク其動揺ヲ防止シタルモ今後トモ満足ナル支払ヲ持續シ得ベキヤ否ヤハ上記財政ノ現状ニ顧ミ頗ル疑ナキヲ得ザ

一〇九

ル処ニシテ、当局ノ最モ苦慮ノ存スル所モ亦専ラ茲ニ存スルヤニ確聞ス、然ルニ一方過日來ノ学生運動ノ風潮モ尚未ダ全ク終熄セズ何時其余焰ノ再燃スルヲ保シ難ク剩ヘ過激派思想ノ宣伝動モスレバ其間ニ乗ジテ擡頭セントスルヤノ風潮伝播セラレ人心危惧ノ念ニ侵サレツツ有ル此際万一軍隊ニ対スル給与意ノ如ク成ラサルニ於テハ、サラデダニ危険性ニ富メル軍隊ノ動揺ハ何時如何ニ爆發スルヤモ計リ難ク、現ニ最近保定ニ於テ小兵変ヲ見タルヤノ風聞モ有リ旁々今後政府ノ財政如何ニ依リテハ軍隊ノ動揺ハ絶無ヲ期スルヨリ寧ロ其危険ヲ考慮ニ入レ置クノ至当ナルヲ感得スル次第ニ有之、而シテ万一不幸ニシテ一朝斯ノ如キ事態ニ立至レバ前陳ノ如キ内情ニ顧ミ単ニ軍隊ノミノ動揺、騷擾ニ止マラス更ニ大ナル禍乱ヲ惹起スルナキヲ保シ難キモノ有リ、觀ジ來レバ当国目下ノ形勢ハ甚ダ樂觀ヲ許サザルモノ有ルカ如シ、而シテ事態右ノ如クナル以上、寧ロ外間ヨリ相当財政上ノ援助ヲ与ヘ以テ現在大總統ノ地位並ニ其政府ノ基礎ガ頗ル薄弱ナル状態ニ在ルヲ援助スルニ非ザレバ南北ノ統一其他万般ノ施設モ將又外交モ之ヲ遂行スルヲ得サルノミナラス何等異常ナル出来事ノ發生スルニ会ヘバ忽チ

ノ現状ヲ救済スル為政費ノ補助トシテ一時的借款ニ応シ得ヘキ旨申出アリタルニ付錢ハ財政総長トモ篤ト協議ノ上何分ノ挨拶ニ及フヘキ旨答ヘ置キタルガ其後学生運動等統廃シタルガ為其儘トナリ錢亦辭職ノコトトナレル次第ナリトノコトニテ右袁良ノ報道ノ実否如何ニ就テハ未ダ米国公使ニ確ムルノ運ニ至ラサルモ多分事実ニ相違ナカルヘク果シテ然ラバ既ニ米国公使ニ於テモ斯ノ如キ行動ニ出デツツアル以上我對支外交ノ關係上ヨリ言フモ帝国政府ニ於テ前陳卑見ヲ酌量セラレ此ノ際何等新方針ニ出デラレ局面ノ展開ヲ企図セラルルノ必要無之ニアラザルカト信ズ

一三四

六月二十六日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

現行借款團規約ノ効力延長協定ニ露国團署名

ニ 関スル件

第八五三号

往電第七九四号ニ関シ

六月十三日在倫敦正金支店発本店宛電報ニヨレバ仏国団体ハAddisニ對シ仏国外務省ハ目下露国ニ對スル連合国ノ態

物論ヲ喚起シ立所ニ政府ノ更迭、政局ノ波瀾ヲ捲起スガ如キ有様ニシテ斯テハ南北ノ統一ハ遠ク実現ヲ期シ得ルノ時無カルヘク、然カモ万一此ノ状態ヲ放任傍觀スルニ於テハ国内統一ノ実現前矢以テ北方政府ノ倒壊ヲ來タシ茲ニ時局收拾ノ責任主体ヲ失ヒ為ニ帝国ガ支那ノ隣邦トシテ被ムル絶大ノ影響蓋シ寒心ニ堪ヘザルモノ有ルベキハ必然ノ數ト謂ハサル可ラズ、叙上ノ情勢ニ顧ミ將又何時迄借款ヲ中止セルモ当初予期ノ如ク南北統一ヲ實現シ得ザルノミナラス借款ノ中止ハ偶々以テ中央政府ノ崩壊ヲ誘致セントスルモノナルノ実情ニ照ラシ此際帝国政府ニ於テ關係各國政府ニ斡旋シ新財團成立ニ至ル迄絶対必要已ムヲ得サル政費ノ歳出限度即チ例ヘバ月額五、六百万円ヲ限リ一時融通ノ途ヲ講セラルルコトニ御審議ヲ得バ頗ル好都合ト存ズ

實ハ過般陸宗輿本使ヲ來訪ノ折、米国公使ヨリ錢總理ニ對シ政費融通方提議セル趣内聞セル旨述べタルコトアリタルニ付最近國務院參議袁良ヲシテ總理ニ事實ノ真相ヲ確メシメタル処五月中旬頃徐恩元、米国公使ノ内意ヲ含ミ錢ヲ來訪シ米国側ニ於テ相當額ノ借款前渡ヲ引受クルニ異存ナキ旨申出アリ更ニ其翌日米国公使自ラ錢ヲ來訪シ米國ハ支那

度ニ鑑ミ露国團ノ署名ヲ除外スルコトニハ不同意ナル趣ニテ露国團ニモ署名セシムルコトト致シ度旨並ニカ為メ新団体成立ト同時ニ露国側ニ於テ之ニ加入セントスルノ口実ヲ与フルヲ避クル為メ十五日前ノ通知ヲ以テ現団体ヨリ脱退スルコトヲ得ルノ權利ヲ各団体ニ於テ留保シ置クコトトシテハ如何トノ申出アリタルカ異ハAddisト会见シ露国團署名ノ件ニハ同意スルモ前記仏国團提案ニハ賛成スル能ハス寧ロ露国團ニ對シ同団体ノ新団体加入ニ関シテハ五月十一日巴里會議決議第三項ニ決定セル通りニシテ延期文署名ノ結果ハ毫モ同団体ノ地位ヲ變更スルモノニアラサル旨説明シ置クニ如カズトノ意見ヲ申出タル処Addisハ之ニ同意シ此ノ旨仏国團ニ通告スルコトト成リタル趣ナリ

一三五

七月十二日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

中国政府ヨリ四国銀行團ニ緊急前借申出ニ對

シ採ルベキ態度ニ付請訓ノ件

第九九三号 (至急)

(七月十三日接受)

支那政府ヨリ四国銀行團ニ對シ専ラ緊急ノ行政費、軍隊給

与、辺境及地方費並償還期ニ迫レル地方銀行ニ対スル債務支払ニ充ツル為一カ月四百万弗ヲ向フ六カ月間即チ通計二千四百万弗前貸融通ヲ得度ク之カ償還資源トシテハ横浜正金銀行ヨリノ前貸ニ対スル完済ヲ待チ塩税剰余ヨリ支弁スヘキ旨提議シ来リタル結果七月十一日急遽日英仏三国銀行団代表者會議ヲ開キ意見ノ交換ヲ試ミタル処英國側代表者ノ意見ハ本件ノ如キ前貸ノ実行ハ目下ノ処未タ其時機ニ非スト信ズルモ然リトテ此際断然之ヲ拒ムニ於テハ第一次改革借款契約第十七条塩税収入担保ニ関スル「オブション」問題ニ影響スルノ虞アリ何レニセヨ本件商議ハ近ク成立ヲ告ケントスル新借款団ノ考慮ニ委スルコト穩当ナル可シト言フニ在リ仏國側亦之ニ賛同シ結局倫敦本部ニ前記ノ趣旨ヲ当地銀行団代表者ノ意見トシテ打電シテ其指揮ヲ求ムルコトニ評議一決セル趣ナリ

尚当日ノ會議ニ露國側代表者ヲ除外セルニ付テハ若シ本件商議ヲ新借款団ニ引継クコトトナルニ於テハ差向キ露國側ハ直接關係ヲ有セサルニ付兎ニ角当日ノ會議ニハ露國側ヲ召集セサル方可然トノ、主トシテ英國側ノ裁量ニ基キタルモノナリトノコトナリ

殆ンド窮乏ノ極ニ達セル支那財政救済方ノ問題ニ付テハ曩ニ卑見上申ニ及ヒタル次第モ有之今回上記支那側ヨリノ提議ニ対シテハ前記英國代表者意見ノ如ク簡單ニ論シ去ル訳ニモ参リ難キヤニ存セラレ今回ノ提議ヲ新借款団ニ引継カントスルカ如キハ同借款団ノ前途未ダ尚明瞭ナラザル今日事實ニ於テ支那財政ノ急迫ヲ見殺シニセントスルニ等シク旁此際慎重考慮ノ必要アリト思考ス就テハ其辺篤ト御舍ノ上我方ノ採ルヘキ態度ニ関シ急速審議御決定ノ上何分ノ儀御電報ヲ請フ支那政府ヨリノ提議全文写郵送ス

一三六 七月十四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

四國銀行団代表者會議ニ露國側ヲ除外シタル

ニ対シ露國側抗議ノ件

第九九六号

往電第九九三号ニ関シ露亜銀行代表者七月十二日小貫正金支配人ヲ来訪シ十一日ノ銀行団代表者會議ニ露國側ガ除外セラレタルハ頗ル意外トスル処ニシテ露國側トシテハ之ヲ黙過スルコト能ハス第一今回支那政府ノ提議ガ現在ノ借款

団又ハ新借款団將タ香上銀行支配人ノ何レニ向テ為サレタルヲ問ハズ現借款団ハ未ダ解散セラレザルノミナラズ新借款団亦未ダ成立ヲ見ルニ至ラザル今日支那政府今次ノ提議ハ之ヲ現借款団ノ各員ニ対シ一律知照セラレザルベカラサルモノナルニ顧ミ今回香上銀行代表者ノ執リタル措置ハ頗ル專断ト云ハザルヘカラズ旁本月十一日ノ會議ニ於ケル露國側除外ニ対シテハ抗議ヲ提出セザルヲ得ザルニ依リ右ノ次第既ニ露國公使ニ陳情スルト同時ニ一面在巴里露國銀行団本部ニモ伝達セル旨ヲ述ヘ右ノ要旨ヲ説述セル覚書ヲ小貫ニ手交シテ本使ニ伝達方ヲ依頼シタル上、目下賓黒鉄道問題等ニ関シ頗ル緊密ナル關係ヲ有スル日本側ニ於テモ本件露國側除外ヲ容認セラレタルヲ頗ル遺憾ニ堪ヘザルヤノ口吻ヲ洩ラシタルニ付小貫ハ右露國側ノ主張ハ一応尤モニシテ実ハ当日會議ノ席上ニ於テ特ニ自分ヨリ露國側除外ノ事由ニ関シ質問ヲ試ミタル次第ナル旨輕ク挨拶シ置キタル由ニテ同露亞銀行代表者ノ覚書ハ英仏兩國公使及兩國銀行団代表者ニ対シテモ同様送致シタルヤノ趣ナリ右露國側ノ抗議ハ飽ク迄モ他關係國ト對抗力争セントスルノ真意ニハ非ズシテ此際英國側從來ノ專横的措置ヲ糾弾セントシタル

ニ過ギザルベキハ上記小貫ニ対スル談話ノ口吻ニ依ルモ大体察知スルニ難カラザル処元来上述露國側ノ主張ハ理由アル次第ニシテ特ニ賓黒鉄道問題ノミナラズ当地ニ於テ露國側トノ間ニ親善ナル關係ヲ保持シ置クコト我方ニ取り得策ト認メラルルニ付テハ進ンデ露國側ノ抗議ヲ支持スルガ如キコトハ勿論之ヲ避クヘキモ本件ニシテ關係國公使乃至銀行団ノ討議ニ附セラルル節ハ我政府トシテハ露國側ノ主張ニ対シ好意的態度ヲトルコトニ致スベキニ付右御含ミ置キアリタシ

一三七 七月十七日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

改革借款独逸分利權ヲ中国銀行団ガ繼承シタ

キ旨ノ申出ニ対シ貴官及各国公使ノ意見回電

方訓令ノ件

第九四〇号

貴電第八九七号ニ関シ

倫敦發正金着電ニヨレバ北京英國団体代表者ヨリ「アディス」ニ対シ支那政府ヨリ改革借款独逸分利權ヲ支那銀行団

ニ於テ繼承シタキ旨申出アリタルニ付団体側ノ意見ヲ問合セ来リタル趣ナルカ右ニ対シ「アデイス」ハ将来支那政府ト交渉スヘキ借款団体ニ支那銀行團ヲ加入セシムルハ多大ノ困難予期セラレ又如何ナル利権ヲ提供シ来ルヤモ分明ナラズト雖是等ノ理由ヲ以テ右加入ヲ拒絕スルハ目下ノ場合得策トモ考ヘラレス依テ意見発表ニ先チ支那銀行團ヲシテ加入ノ条件ヲ提議セシメ且団体ニ対シ正式ニ申込ヲナサシムル様支那政府ニ回答スヘシトノ意見ナリトノコトニテ正金ヨリ当方ノ意向問合セ来レル処貴電第八九八号支那政府申出ニ対シ關係各國公使ニ於テ如何ナル意見ヲ有シ居レルヤ貴見ト共ニ回電アリタシ。

一三八 七月十九日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛（電報）

对中国財政援助及南北妥協統一問題ニ関シ我
对中国政策ノ重点ヲ徐總統支持ニ置クヲ可ト
スル旨ノ青木中将ノ内話等ニ牽連シ小幡公使
ノ意見提示方訓令ノ件

第九四六号

支那財政逼迫ノ現状ニ対スル貴電第八八八号御電票ノ次第ハ目下慎重考慮中ナル処更ニ貴電第九九三号ニヨレバ愈々支那政府ヨリ財政援助ノ申出アリタル趣ナルカ先之、先般歸朝ノ青木中将来省本大臣ニ対シ恰モ貴電第八八八号御票申ノ如ク支那軍隊給与費融通ノ緊切ナル所以ヲ説キ且徐總統カ目下行詰リ居レル時局收拾ノ方途ヲ講センカ為ニハ日本ノ援助ヲ希望シ居レルコト並陸軍当局タル靳雲鵬亦此ノ儘形勢ノ推移ニ委スルニ於テハ禍源ハ軍隊ニヨリ発スヘキヲ説キ居ルコトヲ述ヘタル上、就テハ徐總統側ニ於テハ此際支那軍隊給与費及其他ノ政費融通ノ途ヲ啓キ之ヲ北京政府ニ交付スルト共ニ其ノ一部相当額ハ南方側ニモ引渡スコト恰モ先般関稅剩余引渡ニ付テ行ハレタルカ如キ実例ニ従フコト致度希望ニテ右費用ハ一ヵ月約五百万弗南方側百万弗トスレバ計六百万弗日本貨約一千万円、一ヵ年一億二千万円ニ達スル見込ナル趣ナルガ右融通ニ依リ一面支那政局ノ此ノ上動揺スルコトナキ様予メ之ヲ防クト共ニ他面徐總統ハ夙ニ裏面ニ於テ唐紹儀トノ間ニ十分連絡アルノミナラス今ヤ同總統ハ南北ヲ分タス支那全土ヲ通シ漸次中心の實際勢力ヲ把握セムトシツツアル事実ニ顧ミ益々同總統ノ

地位モ確立シ其ノ中心勢力タル実ヲ拳ケシムルハ其ノ和平統一ノ素志ヲ完フセシムル所以ニ付我對支政策ノ重心ヲ茲ニ置キ徐總統ニ於テ妥協成立ノ為各方面ヲ懷柔スルノ資ニ供スヘキ二三萬元ノ額ヲ内帑金トシテ必要ニ応シ内密可然方法ニヨリ同總統ノ手ニ与フルコトヲ得ハ容易ニ妥協成立ノ見込アリ右ハ總統ニ於テ切望シ居レル所ナル旨内話シ又曩ニ陸軍次長張志潭ハ驚沢与四二ニ対シ此ノ上妥協順調ニ運ヒタル曉ハ最後ノ機会ニ相当額ノ總統内帑金ヲ日本ヨリ内密徐總統ニ供給セラルルコトヲ得ハ妥協成立ノ甚ダ容易ナルコトヲ述ヘ更ニ去ル四月驚沢帰朝ノ際張ヨリ重ネテ前記徐總統ノ内帑金調達ニ付日本朝野ノ間ニ斡旋セムコトヲ依嘱シタル趣ニテ徐總統ガ唐紹儀其他南方側トノ間ニ連絡ヲ有スルノ事実ニ関シテハ高木陸郎亦唐紹儀側ヨリモ殆ト同様ノ消息ヲ得居リタルヲ以テ旁當時右兩人ニ於テ本大臣ニ会见ヲ求メ来リ会谈ノ際本大臣ハ真ニ妥協成立ノ望アル次第ナラバ右兩人等ノ間ニテ右徐總統所要資金ニ付相当額ヲ斡旋シ得ル確信アルコトノ印象ヲ徐總統ニ与フル位ハ差支ナカルヘキ旨述ヘ置キタルカ六月中高木ハ上海ヨリ北京ニ又驚沢ハ直接北京ニ赴キ更ニ先方ノ意嚮ヲ確メ其ノ模

様ハ當時驚沢ヨリ詳細貴官ニ報告シタル趣ニテ要スルニ支那側ニテハ益々日本ニ信賴シテ時局ノ收拾ヲ図ラムトスル意向ナルカ如ク徐總統ハ張志潭（孫潤宇張ノ使者トシテ驚沢来訪）ヲシテ驚沢（青木中将列席）ニ対シ日本ノ朝野有力者中ニ徐總統ノ統一方針ヲ擁護シ且所要資金調達ノ意向アルヲ承知シ感謝ニ堪ヘス切ニ其ノ尽力ヲ希望ストノ趣旨ヲ伝ヘシメタル趣ナリ

他ノ一面ニ於テ御承知ノ通帝國ハ從來支那ノ時局ヲ傍觀スルニ忍ヒスシテ積極の方策ニ出テタル結果却テ果ヲ醸シタル事例ニ乏シカラサル次第ナルニ付其ノ辺亦慎重考慮ヲ要スル所ナルカ徐總統ハ今ヤ支那全土ヲ通シテ漸次中心の勢力ヲ形成セムトシ（殊ニ本省宛有吉来電第三二二二号ニヨルモ南北妥協ニ付テハ再ヒ双方漸次其端緒ヲ啓キ来レルヤニ推察セラル）且徐總統ハ現ニ元首タリ又支那ニ於テ一般ノ尊敬ヲ受クル人物トシテハ他ニ比儔スヘキモノヲ求ムルヲ得ス從テ徐總統自ラ南北ヲ包容シテ統一ノ業ヲ就スノ成算アリ且依然日本ニ信賴スルノ態度ヲ持スルニ於テハ貴電第八八八号御票申ノ次第モアリ場合ニヨリテハ此際軍隊給与等ニ必要ナル行政費ヲ借款團ヨリ供給スルノ途ヲ啓クコト

ニ尽力ヲ辞セサル内意ニシテ前記徐總統希望ノ内帑金ニ付テモ例ヘハ日本資本家ヨリ供給ノ形ト為ス等適當ナル融通ノ途ナキニ非サルベク、斯クノ如クニシテ徐總統ヲ中心トスル支那統一ノ行ハルル形勢トナラバ山東問題ノ如キモ兩國ノ間ニ円満ナル解決ヲ見ルノ端ヲ発見スルコト容易トナルニ至ルベシ就テハ本件詮議ノ先決問題トシテ左ノ諸点ニ付貴見至急詳細ニ回電相成度シ

(一) 徐總統ハ真ニ日本ニ頼リ時局收拾ノ途ヲ啓カムトスル決意アリヤ、殊ニ山東問題ノ紛糾セル今日ニ於テモ右決心ニ變更ナキヤ

(二) 徐總統ノ地位並実勢力ハ果シテ南北ヲ包容シテ中心勢力ヲ形成スルニ堪ユルヤ

(三) 前記二種ノ資金供給ノ可否得失殊ニ右供給ニヨリ果シテ統一ノ実ヲ挙げ得ル見込アリヤ又右供給ニヨリ資金ノ窮乏減スル結果却テ時局ノ紛糾ヲ加ヘ又ハ之ヲ永引カシムル虞ナキヤ

(四) 資金供給ニ応スルコトト決定スル場合右二種ノ資金中軍隊給与費等ノ行政費供給ニ付テハ貴電第九九三号支那政府申出ヲ機トシ日本ニ於テ主動的ニ米國及四國団ノ間

見込アルヤ

(五) 參戰借款ハ靳陸軍總長ノ手ニヨリ軍隊編成ノ資ニ供セラレ徐樹錚一派ノ自由使用ニ委セラルコトナキヤニ聞及ヘル処他ノ一面ニ於テ同借款ハ徐樹錚ノ命ノ儘一部ハ安福俱樂部ノ經費、同派議員ノ給与及広東ニ於ケル旧國會議員買収費等ニ融通セラレ武断派活躍ノ資源ト成リ延イテ和局ノ進展ヲ阻碍スル有力ナル原因ヲ成シ居レリトノ説アリ果シテ孰レカ真ナリヤ

(六) 斯ク日本ニ於テ徐總統ヲ中心トスル方途ニ出ツルニ於テハ事実ニ於テ自然再ヒ北方軍閥派ヲ擁護スルカ如キ結果ニ終ルコトナキヤ

上海ニ転電アリ度シ

註 右電報ノ冒頭余白ニ左ノ書入アリ

「大正八年七月十八日閣議決定(内田外相印)」並
「大正八年七月二十一日外交調査会ニ報告済」

一三九 七月二十三日

中村正金銀行副総支配人ヨリ
埴原政務局長宛

六国団体規約延期ニ関スル件

附屬書一 六月四日附アデイスヨリ在倫敦橫濱正金銀行

二 中国改革借款一件 一三九

ニ斡旋シ其融通ヲ図ルノ方途ニ出ツルヲ可トスルヤ或ハ裏面支那政府ヲシテ米國及現借款団ニ提議セシメ日本ハ關係諸國ト協同シテ之ニ応スルノ形式ヲ採ルコト得策ナルヤ又右何レノ方法ニヨルトスルモ關係諸國ヲシテ之ニ同意セシムル見込アリヤ

(四) 右資金供給ニ付テハ予メ唐紹儀ニモ内話シ支那全体ノ潰崩ヲ防止セムカ為ニハ本件財政援助ノ已ムヲ得サル所以ヲ篤ト設示シ且其ノ供給セラルヘキ資金ノ一部ハ南方側ニモ分配セラルル様、南北双方ノ間ニ相当ノ了解ノ成立ヲ図ルハ從來帝國政府ノ声明セル方針トモ両立スルモノニシテ大局上望マシキコトナルモ果シテ前記了解ノ成立ニ至ルヘキ見込アリヤ

(六) 青木中将等ノ意見ニヨレバ從來徐樹錚一派ガ動モスレバ日本軍部ノ後援ヲ装ヒ專横ノ行動アリタル形跡ナキニアラザル趣ノ処果シテ然リトセバ同中将意見ノ如ク從來ノ關係アル日本軍部ヨリ徐樹錚一派ニ対シ徐總統ノ平和統一主義ニ服従スルコト緊要ニシテ若シ同一派ニ於テ其ノ統一策ヲ阻碍スルカ如キ措置アラバ日本朝野ノ同情ヲ失フニ至ルヘキコトヲ嚴ニ警告セバ徐一派ヲ抑制シ得ル

支店宛來翰写

二 六月五日附巽取締役ヨリアデイス宛往翰写

大正八年七月二十三日

橫濱正金銀行 副総支配人 中村錠太郎(印)

政務局長 埴原正直殿

拜啓 六国団体規約延期ニ関スル C. S. Addis ト弊行倫敦支店間往復文書写及巽取締役調印契約文写到達仕候間更ニ写調製茲許供御高覽候 敬具

(附屬書一)

六月四日附アデイスヨリ在倫敦橫濱正金銀行支店宛來翰写
六国団体規約延期ニ関スル協定案送付ノ件

COPY.

Hongkong & Shanghai Banking Corporation,
9, Gracechurch Street, E.C. 3.
4th June, 1919.

Dear Sirs,

As it appears improbable that we shall have heard from all the Governments concerned in the formation of the new Consortium before the existing

agreement expires, namely on the 18th June, I have had a further temporary agreement drawn up resuming, as between the British, French and Japanese Groups, the provisions of the Sextuple Agreement for one year or until a new Consortium Agreement is signed.

The present anomalous position of the Russian Group seems to preclude, as I think you will agree, their inclusion for the present in this Agreement.

If you approve of its terms, I shall be glad if you will sign each of the enclosed three copies and return them to me in order that I may obtain the signatures of the French Group, when one copy will be returned to you.

Yours faithfully,
(Signed) C. S. ADDIS.

Yokohama Specie Bank, Ltd.,
7, Bishopsgate, E.C.

(原 稿)

5th June, 1919.

Sir Chas. Addis,
The Hongkong & Shanghai Banking Corporation.
9, Gracechurch Street, E.C.

Dear Sir,

I beg to acknowledge receipt of your letter of the 4th instant, and have duly signed the further temporary agreement drawn up with a view to extending the provisions of the old Consortium agreement, which expires on the 18th instant, until the new agreement be signed.

Kindly let me have a copy of the temporary agreement when received by you.

Yours faithfully.

一四〇 七月二十三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

徐總統ノ時局收拾ニ対スル技倆及山東問題ニ
対スル態度並对中国財政援助ノ必要性其他ニ

六国団体規約延期ニ関スル協定案等

C O P Y.

The Agreements of the 18th June, 1912, the 18th June 1917, the 18th June 1918, having ceased and determined, the British, French and Japanese Groups hereby agree:

To resume among themselves the provisions of the Agreement of the 18th June, 1912, for a period of one Year commencing on the 18th June, 1919, or until the new Consortium shall have been formed, whichever period shall be the shortest.

Dated 18th June, 1919.

(附屬書11)

六月五日附翼取締役ヨリフデイス宛往翰等
規約延期協定案ニ署名ノ上返送ノ件

C O P Y.
7, Bishopsgate,
London, E.C. 2.

関シ意見具申ノ件

第一〇四六号 極秘(七月二十四日乃至二十六日接受)
本使力過日往電第八八八号ヲ以テ電稟ノ次第ハ財政状態ノ
危険ヨリ来ル北方政府ノ難局ヲ指摘シ此際適當ノ援助ヲ与
フルニアラズンバ中央政府ノ政局ハ紊亂終ニ收拾スルニ由
ナキニ至ルベキヲ上申セルニ外ナラズ此ノ援助ヲ以テ南北
統一妥協ヲ促進シ得バシトノ趣旨ニアラザルコトハ該電報
ニテ充分御承悉ノ儀ト存スル処貴電第九四六号ヲ通覽スル
ニ此際ニ於ケル徐總統及其政府ノ援助ヲ以テ直ニ南北統一
妥協ヲ促進スベシト考ヘ居ラルルカ如キモ是本使ノ全然想
到セザル所ナリ本使ニ於テハ唯北方ノ現政局ヲ崩潰スルニ
放任セバ其收拾ノ極メテ困難ナルヲ痛言セルニ止マルニ付
此ノ点篤ト御一考ヲ請フ

元来南北妥協統一ハ昨年現陸軍大臣ガ尚參謀次長在任ノ
頃當時政務局長タル本使ヲ来訪痛論セラレタルコトアリ当時
本使ハ種々ノ論理ニ依リ到底其ノ不可能ナルヲ一時間余
ニ涉リ論議シ妥協勧告ヲ阻止シタルコトアリ其ノ後本野外
務大臣薨去ノ後、後藤男爵外務大臣ニ親任セラレ其ノ就任
ノ劈頭西比利出兵問題ト支那南北妥協勧告問題トヲ提ケ外

交ノ局面ヲ展開セントセラルルニ当リ本使当時政務局長トシテ西北出兵問題ノ実行ハ或ハ可ナランモ支那南北妥協勸告問題ニ至リテハ到底成功ノ望ナク偶之ヲ敢テスルモ終ニ失敗ニ終ル所以ヲ縷説シ後藤男ハ終ニ本使ノ意見ヲ容レ其提議ヲ思止ラレタリ

次イテ現内閣ニ至リ本使駐支公使就任前南北妥協勸告ヲ決定標榜セラルル所アリ、本使赴任前閣下並原首相ニ対シ本問題カ從來ノ沿革、感情關係有力者ノ人物主義閱歷趣味利害關係等ニ顧ミテ到底成功ノ望ナキ旨縷陳セルニ拘ラス兎モ角實地ニ於テ最善ノ努力ヲ試ムヘキコトヲ懇囑セラレ昨年当地ニ來任爾來既ニ六閱月關係国公使トモ意見ノ交換ヲ行ヒ支那政府有力者ト來往シ幾分ノ努力ヲ試ミタルニ拘ラス上海會議ハ兩回モ停頓シ其進行ニ付テハ今ニ何等ノ曙光ヲ認メ得サルノミナラズ現ニ北方代表者中本使ノ接触セルモノノ全部ハ何レモ上海會議ハ幾回継続スルモ到底成功ノ望ナキヲ断言セリ現ニ北方代表中ノ徐公蘇ノ如キハ南北統一ノ姑息の妥協ヲ断念シ新ニ南北自治論ヲ提議シ既ニ広ク印刷物ヲ以テ世ノ公論ニ訴フル所アリタルカ如キ將又北京政府部内ニ於テモ曾毓雋ノ如キ久シク既ニ此論ヲ唱ヘツ

同音彼ノ優柔不斷無為無策ヲ訴ヘサルモノナキ有様ニシテ彼カ信用声望ハ日々失墜シツツアリト云フモ不可ナク總統就任當時ニ多大ノ期待ヲナシタルモノハ今日ノ政局ニ顧ミ何レモ失望ノ声ヲ漏ラサザルナク中ニハ前清以來今日程政府ノ威嚴ヲ失墜シタル事ナシト迄極言スルモノアリ、当国昨今ノ形勢ヲ親シク目睹セル本使等モ亦実ニ此感ナキニアラズ之ヲ要スルニ一年以來ノ政治ノ実績ニ徴スレバ彼ハ余リニ八方美人主義ニシテ定見ヲ欠キ又輕々シク人言ニ動カサレ断スベクシテ断セズ常ニ責任ノ衝ニ立ツヲ避ケ只管糊塗弥縫ヲ以テ政治ヲ行ハントスルカ如キ感アリ

即貴電第九四六号中今ヤ同總統ハ南北ヲ分タス支那全国ヲ通シ漸次中心の實際勢力ヲ把握セントシツツアル事実ニ顧ミ云々トアルハ事實ニ反スルガ如ク徐世昌ノ信用声望実力ハ總統就任當時ニ比シ事實減退シツツアルモノト認ム以上縷陳スル所ニ付判断スル時ハ徐世昌ハ真ニ日本ニ依リ時局收拾ノ途ヲ開カントスルノ鞏固ナル決意ヲ有スルモノト信ズルヲ得ズ固ヨリ彼ハ支那ノ政治家トシテ日本ヲ無視シテ支那ノ外交ヲ運用シ得ザルコトヲ最明確ニ了解セル一人ナルベキガ故ニ進ミテ日本ヲ嫌惡排斥スルガ如キ量見ハ

ツアリト云フ何レモ南北妥協ノ到底不可能ナルヲ看破シタルノ結果ニ外ナラズト信ズ、帝國政府カ南北統一ヲ希望シ其ノ達成ニ努力ヲ惜マレザルハ一応尤ノ次第ナルモ支那ニハ支那固有ノ事情、歴史、感情等ノ在ルアリテ其ノ一々我方ノ思惑通ニ參ラザルハ特ニ御諒察ヲ煩シタク本使当地ヘ就任以來既ニ半年益々南北統一妥協ノ至難ニシテ当初ノ確信ノ益々誤ラザルヲ知り得タルニ付テハ前記ノ成行並貴問ニ対スル左記卑見篤ト御査閱ノ上慎重帝國今後ノ方針ヲ定メラレンコトヲ祈ル

(一) 徐總統ハ一見寛厚老實ナル長者ノ風アルモ其天性ハ到底支那人ニ通有ノ習性ヲ脱却スル能ハス其人ニ接シテ容易ニ本心ヲ吐露セズ又輕々シク意見ヲ述ヘテ言質ヲ捉ヘラルルカ如キ事ヲナサズ隱忍周到極メテ用心深キ性格ナリ從テ袁世凱ノ如ク胆力氣魄ナク憑國璋ノ如ク縱横ノ機略ナク僅ニ前清以來重職ニ當リタル閱歷ガ幸ニ一頭地ヲ拔クヨリ僅ニ現地位ヲ贏得タルニ過ギズ一言ニシテ尽クセハ円満老成ナル平凡政治家タリト云フノ外ナク彼ガ当初朝野ノ重望ヲ荷ウテ總統ニ就任シ在職未ダ一年ナラズ其政治上ノ成績事毎ニ機宜ヲ誤リ殆ト失敗ノミニテ現ニ其昵懇者スラ異口

固ヨリ之無カルヘキモ元來決断ニ乏シク責任ヲ負フノ勇氣ヲ欠キ極メテ胆力氣魄ナキ人物ナルガ故ニ世間ノ手前外国人側ノ思惑等ノ自己ニ不利ナルモノアレバ必ズ其ノ態度ヲ曖昧ニシ首鼠兩端ヲ持スルニ至ルベク旁々本使ハ徐世昌ガ飽迄モ真ニ日本ニ頼リ時局收拾ノ途ヲ開カントスル鞏固ナル決心アリト断言スルニ甚ダ躊躇セザルヲ得ザル次第ナリ偶々日本ノ好意ニ感奮シ一時我ニ頼ルノ態度ヲ示スガ如キコトアランモ一朝世間ノ物議外人ノ批難等アラバ忽チ其ノ去就ヲ變ズルニ至ルベク從テ山東問題ニ対スル彼ノ態度モ又同様ニシテ一定ノ信念方針ニ依ルモノニアラザルカ故ニ今後彼ノ態度ハ其一時ノ形勢ニ依リ動揺止マザルモノト見ルヲ安全ト信ズ之蓋シ彼カ巴里全權委員ニ対シテ取りタル態度ニ徴シテモ自ラ明ナルベシト信ズ

(二) 徐世昌現在ノ地位ハ前清以來ノ虛名ト比較的適任者無キト將又彼ノ性格カ円満人ト爭ハズ割合ニ敵ヲ作ラザルカ為就任以來何等成績ノ見ルニ足ルモノ無キニ拘ラズ其地位ハ割合ニ鞏固ニシテ政治上幾度ノ危機ニ遭遇シタルモ何等ノ動揺ヲ見ザリシ次第ナルモ其勢力ニ至リテハ内ニ安福派アリ時ニ反噬ニ爪牙ヲ露ハシ又別ニ憑國璋一派ノ乗ズ可キ

虚ヲ窺フアリ段祺瑞又徐ノ優柔不斷ニ満足シ居ラザル口吻ヲ漏シ殊ニ徐樹錚ノ如キハ表面ハ兎モ角内心好感ヲ有セズ僅ニ參戰軍ニ直接關係セル靳雲鵬等カ徐樹錚ニ對スル反感ヨリ大總統ニ近接シ居ルノ実情ニシテ北方各省督軍モ各自ノ利益上元首タル大總統ニ敢テ反對スルモノ無キモ衷心ヨリ徐世昌擁護ニ努力セントスルモノアリヤ頗ル疑ハシク然カモ外ニアリテハ西南ノ過激派アリ從テ徐總統自身ノ現在ノ地位勢力技倆ニテハ到底積極的ニ南北ヲ包容シテ鞏固ナル中心勢力タリ得ヘシトハ認ムルヲ得ザルモ前述ノ如キ前清以來ノ情性的名望、其円満ナル性格、其八方美人主義並ニ現在彼以上ニ超越セル人物無キコト等ノ事情ガ自然ニ彼ヲシテ統一ノ事業ヲ完成セシムルニ至ルヤモ計リ難キモ之レ彼ノ積極的技倆智力ニ依ルニ非ズシテ已ムヲ得ザル自然ノ事情ガ致ニ至ラシムルモノト觀察スルノ外ナシ

(三) 本使カ往電第八八八号ヲ以テ財政援助說ヲ稟議シタルハ決シテ之ニ依リ南北統一ノ形勢ヲ促進シ得可シト為シタルカ為ニ非ズ北京政府カ財政上非常ノ危機ニ瀕シ此儘ニ放任シ置カバ或ハ政局之ヨリ紊亂シ秩序ノ崩潰ハ終ニ收拾ス可カラザルニ至ルヲ憂ヘタル為ナルコト既述ノ如クニシテ

南北統一ノ問題ハ經費ノ如キ簡單ナル問題ノミニ依リ決セラル可キニ非ズ從テ此際南北政府ヲ崩潰ヨリ救ヒ両者ヲシテ徐ニ妥協統一ヲ商議セシムルヲ目下ノ急務ト信シタルカ為ナリ旁財政援助ニ關スル貴問ニ關シテハ關係各國政府ヲ説キ公然且公平ニ必要欠ク可カラザル政費ヲ調達シ以テ一時ノ急ヲ救ハントスルハ可ナルモ、隱密ノ手段ニ依リ所謂内帑金ヲ交附スルカ如キハ斷シテ得策ニアラズト信ズ、之ヲ以テ南北妥協ヲ策シ得ント為スハ二、三支那人ノ口車ニ乗ル短見者流ノ僻說ト為サザルヲ得ズ、複雑ナル幾多ノ原因ニ依ル南北今日ノ乖離ハ斯ク簡單ニ解決シ得ヘシトハ信スベカラズ況ヤ万一此ノ事外間ニ暴露スルニ至ラバ又復日本ハ再ヒ陰險ナル政策ニ立戻レリトノ非難ヲ招クコト火ヲ賭ルヨリモ明ニシテ而モ支那ノ現狀ニ於テ如何ナル事柄モ秘密ヲ保チ得タルノ例ナキニ鑑ミ公然各國ト共同ニテ調達スル政費以外斯カル機密ノ取計ヲ為スハ帝國ノ信用上極メテ危險ノ措置ト信ズ、此事ハ驚沢ニ對シテモ懇々本使反對ノ意表ヲ申含メ置キタル次第ナリ、次ニ右ノ如キ必要ナル政費ノ供給ガ却テ時局ノ紛糾若クハ之カ解決ヲ長引カシムルコトナキヤ否ヤノ点ニ關シテハ七月二十一日本使財政總

長ニ面會ノ機會ニ夫レトナク探知セル所ニ依レバ南方ニ銀百萬元モ調達セバ現政府トノ諒解ハ容易ニ為シ得ヘク又夫ハ中央政府ニ於テ責任ヲ以テ諒解ヲ遂ケ得ルノ見込アリトノコトナレバ我方ノ周到ナル用意如何ニ依リテハ之カ為意外ノ紛糾ヲ來タス様ノコトハ之ナカルヘシト思料ス少クトモ今日迄半年以上モ資金ノ供給ヲ絶對ニ杜絶シタルニ拘ラズ統一ノ事業カ依然トシテ何等ノ進行ヲ見ザルニ徴スレバ南北ノ妥協ハ資金供給ノ如キ單純ナル問題ニ依リ解決シ得ヘキニアラザルヲ知り得ヘキト同時ニ我方朝野ノ人士ガ考フルガ如ク南北統一カ爾ク一挙手一投足ノ勞ニテ簡單ニ取運ビ得ベカラザルガ故ニ寧ロ南北妥協問題ハ南北政府相互ノ基礎根底ヲ固メシメ徐ニ其商議ヲ熟セシメ以テ鞏固ナル永遠ノ統一ヲ達成セシムルヲ要シ帝國政府隨時ノ都合ノ為ニ陰險隱密ノ手段ニ依リ無理ヤリニ統一ヲ促成セシメントスルモ是独リ統一妥協ヲ益々困難ナラシムルノミナラズ永遠ノ自然ナル統一ヲ達成スル所以ニアラザルヘシト思料ス

(四) 必要政費供給(即チ第一種ノ資金ノミ)ニ關シテハ支那政府ヨリ四國団ヘ申出ノ機會ニ我方カ主動的ニ他四國ヘ斡旋シ然ルヘシト思考ス目下關係國公使避暑ノ為不在ニ付

一々其意見ヲ聽クニ便ナラザルモ財政部ヨリハ既ニ幾度モ窮狀ヲ彼等ニ訴ヘ彼等モ略危險ナル情態ヲ承知セルモノナラント信ズ、米國公使カ曩ニ錢總理ニ財政援助ヲ申込メルガ如キ(往電第八八八号)英國公使カ從來中央政府ヘ資金ノ融通ヲ強硬ニ阻止シ來レルニ不拘關稅剩余三百萬兩ノ引渡ニ卒先同意斡旋ヲ試ミタルノ事情(往電第九五一号)ニ顧ミレバ此上財政部ヲシテ財政上ヨリ來タル危險ニ付実情ヲ直接關係公使ニ縷陳セシメ同時ニ帝國政府ヨリ米國其他ノ政府ヘ新借款団成立迄必要政費調達方交渉セバ或ハ各國ニ於テモ同意スルニ至ランカト思料セラル尤モ愈々右方針ニ御決定ノ前一応本使ヨリ英米仏三國公使ノ意見ヲ尋ヌル事ト致スベキ

(五) 本使ハ帝國政府カ從來兎角唐紹儀ニ重キヲ置キ過グルノ嫌ナキヤヲ俱ル、当地中央政府ハ同人ヨリモ寧ロ陸榮廷、唐繼堯、岑春煊等ノ南方ニ於テ実力ヲ有スルモノヲ主トシ寧ロ唐紹儀ハ從トセリ、從テ本問題ハ帝國政府ヨリ唐紹儀ニ話シ出シ同人ノ反對ニ逢ヒ行惱ノ情態ヲ生スルヨリモ寧ロ中央政府ヲシテ南方軍政府ト直接商議了解ヲ遂クルノ責任ヲ執ラシムル方得策ナラズヤト思考ス曩ニ松井中佐

参謀本部訓令執行事件ノ例モアリ旁事件ノ熟セザルニ当リ唐ニ右様ノコトヲ漏ラスハ偶々彼ニ逆用ノ機会ヲ与ヘ全体ノ問題ヲ破壊スルカ如キ事ナキヤヲ懸念ス、此点ハ上海総領事ノ意見ヲモ徴セラレタシ

(戊) 従来徐樹錚一派カ動モスレバ日本陸軍ノ後援ヲ装ヒ自己ニ有利ニ振舞居レル形跡アルハ本使モ青木中將同様疾ク之ヲ認メ居レリ、独リ徐樹錚カ外間ニ対シ我陸軍ノ声援ヲ吹聴シ其立場ヲ利シツアルノミナラズ同時ニ東少將カ頻繁ニ同人ト往復シツツアリ事實ハ徐ノ右ノ立言ヲ裏書スルモノトシテ一部外人ノ注目ヲ惹キツツアルハ過日「タイムス」通信員「フレーザー」ガ本使ニ明言スル処ニ依リ明カナリ然ルニ徐樹錚ハ霸氣満々機略縦横ノ才子ニシテ而モ目下北方政局ニ於テ最モ有力ナル安福俱樂部ヲ操縦スル唯一ノ人物ナルカ故ニ同人ニ対スル応接ハ帝國政府トシテ自ラ周到ナル用意アルヲ要ス、青木、坂西ハ徐樹錚ト感情上大猿齧ナラザル關係アルモ輕々シク之等ノ言ノミニ重キヲ置キ露骨ニ徐樹錚排斥ノ鋒鋷ヲ顯ハサバ彼ハ直チニ反噬ノ拳ニ出デ帝國ノ為極メテ不利益ナル情態ヲ現出スヘント信ス旁徐樹錚一派抑制ノ策ハ余程慎重ニ且ツ漸ヲ以テ之ヲ行フ

ト思考スルニ付テハ本省当局ニ於テ之等ノ意見ヲ聴取セララルニ当リテハ常ニ中正不偏ノ立場ニ在リテ取捨宜シキヲ得ズンバ容易ナラザル失錯ヲ演ズルニ至ルコトナキヤヲ恐ル。

尚本項ノ内情ニ就テハ追テ別ニ御内報ニ及ブ処アル可シ
(二十六日)

上海へ暗号ノ儘郵送セリ。

一四一 七月二十三日 在上海有吉総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ南北妥協問題、財政問題等ニ関シ所見

稟申ノ件

第三二七号 (七月二十四日接受)

公使宛電第九四六号ニ関シ
之迄ノ拙電報告ノ意味徹底致シ居ラサル廉モアルヤニ考ヘラルルニ付心付ノ諸点左ニ稟申ス

(一) 拙電第三二二二号ニ依リ南北妥協再ビ双方其端緒ヲ開キ来レルモノト推測セラルトアル処同電ハ錢能訓代表説ニ対スル章行廠等ノ意向ヲ示スノ材料トシテ報告セルニ止マリ

ヘク早急露骨ニ之ヲ決行スルハ北方ニ強大ナル帝國政府ノ敵國ヲ作ルカ如キ危険ニ陥ルベシ

(乙) 参戦軍借款ガ安福俱樂部ノ経費其他ニ流用セラレ武斷派活躍ノ資トナリ延テ平和ノ進局ヲ阻害スル有力ナル原因ヲ為シ居ルヤノ説ニ関シテハ本使ノ承知スル処ニテハ安福派操縦等ノ秘密費ハ多ク寺内内閣時代ノ借款金及關係督軍ヨリ醸出セル経費ニテ支弁シ来レルモ目下殆ト使ヒ尽シ将来ノ出所ニ窮シ居ル趣ナリ。

参戦借款ハ坂西ノ手ニテ靳雲鵬ヲ通シ嚴重其出納ヲ取締リアレバ徐樹錚一派ヲシテ之ヲ流用セシムルガ如キコトハ全然無根ノ風説ニ過ギザル可シ

元來靳、徐兩人不和ノ原因モ主トシテ靳ガ徐ヲシテ余リ之等ノコトニ容喙セシメザルニ基クトノコトナレバ参戦借款濫用ハ事實ニ非ズト信ズ。詳細ハ参謀本部若クハ陸軍省ニ於テ承知ノ筈。

(丙) 最後ニ青木中將ガ徐世昌中心主義ヲ主張シ驚沢又其旨ヲ受ケテ諸方ニ奔走遊説ヲ試ミ、坂西ガ靳ヲ助ケ徐ヲ押ヘ東ガ徐ノミニ偏スルノ主張ヲナスハ或ハ其ノ好ム所ニ偏スルニ非ズヤ。幾分私交私情私恩ニ捕ハレ居ル節モアル可シ

元來章等政学界派又ハ之ニ近キ者ノ和議ニ関シ常ニ余リニ樂觀説ヲ唱ヘ其所説ノ割引ヲ要スルハ最近ニモ六月八日発拙電第二六四号末段ニ申添ヘ置キタル処ニシテ其後汪、王兩代表ノ南下及錢能訓ノ旨ヲ受ケタル于宝ノ唐紹儀トノ会见等ガ何等ノ効果ヲ齎サザリシ事實ニ顧ミ若ハ唐ガ徐樹錚ノ跋扈ノ止マザル限リ和議ノ覺東ナキヲ斷言シ居レル等ニ見テ現状ノ儘ニテハ和議ハ因ヨリ終熄ニ至ラザル迄モ再ビ端緒ヲ開キ来レルモノト認ムル能ハズ

(丁) 財政逼迫ニ基ク兵變ハ寧ロ大ニ歡迎スベキ処ナリトハ往電第三二四号報告ノ如ク唐紹儀ガ本官ニ明言セル処ニシテ南北統一近キ将来ニ実現シ難ク列強財政上ノ援助ノ望ミ難キニ於テハ或ハ兵變ヲ生ズルノ恐レモアルベク列強ハ遂ニ默視シテ已ム能ハザル場合モ發生セザルヤヲ以テセルニ対シ唐ハ昨年日本ヨリ多大ナル財政上ノ援助アリタルトキスラ兵士ノ給料ハ概ネ三四ヵ月ノ予備ナク借款ノ大部分ハ軍閥一派ノ私腹ヲ肥シ又ハ其地位ヲ擁護スルノ資ニ供セラレタリシモノ若シ此際更ニ他ヨリ財政上ノ援助アルモ再ビ同一ノ歴史ヲ繰リ返スニ過ギズ國家トシテハ為ニ何等ノ利益スル処アラザル次第ニシテ之ノ自分ノ極力軍閥推倒、軍隊

裁撤ヲ唱フル所以ニ外ナラズ軍閥一派ハ必ス兵変ノ避クヘカラサルヲ口実ニ借款ヲ要請スル場合アルヘキモ自分ノ考ヘニテハ兵変ノ虞ハ之アルマジク何トナレバ他日帰郷ノ準備ニ供サントシ居ルモノ多キヲ以テ給料ノ到底支払ハレザルヲ見極ムルニ於テハ軍隊ヲ去リテ帰還スル場合多キヲ予想シ得ベキヲ以テナリトナシスノ如クシテ兵変ノ代リニ自然ニ裁兵ノ実ヲ挙げ得ル望ミアルノミナラズ仮ニ兵変アリトスルモ亦軍閥ノ勢力ヲ殺グノ好機トナルベキヲ以テ自分ハ日本ヲ去ルニ当リ原首相ニ対シ、日本トシテ資金及武器ノ供給ヲ停止セラルルニ於テハ統一ハ容易ニ実現シ得ベキ旨切言シ置キタル次第ニシテ日本ノ方針ニシテ昨年ヨリ今日ノ如クナラバ既ニ統一ヲ見タリシヤモ亦知ルベカラズ、自分ハ今日尚當時ノ如ク支那ノ統一ノ為ニハ北方ニ資金ノ供給ヲ停止シ置クコトノ必要ヲ確信シ居ルモノナリト申述ヘ居タル次第ニシテ彼ハ平素軍閥ノ弊ハ南北相等シトシ共ニ之ガ推倒ヲ唱ヘ居レルニ顧ミ譬ヘ借款ノ一部ヲ殺ギテ南方ニ与フルモ右ハ陸榮廷等ノロヲ塞クニ或ハ効アルヘキモ唐等ノ了解ヲ得ヘキ見込ミハ殆ド之ナシト認メラル。

(三) 徐世昌ト唐紹儀トノ連絡ニ関スル高木ノ得タル消息ト

居ルヤヲ疑フ口吻ヲ洩セルニ付相当ノ辯解ヲ与ヘ置キタル次第ニシテ徐樹錚ノ勢力ニシテ依然タル間ハ如何ナル形式ニ於テスルヲ問ハス北京政府ニ対スル財政上ノ援助ハ徐及其一派ヲ後援スルモノト解スヘキハ必然ノ傾向ト認メラル尚徐樹錚ハ唐ノ話ノ如ク当地方ニ於テハ極メテ不人望ニシテ所謂万人ニ忌ミ嫌ハレ居ルコトハ事実ナリ

(四) 北京ニ於ケル政界ノ実情ガ或程度迄南方側ニ筒拔ケ報道セラルル模様ナルハ累次報告ノ通ニシテ孫文ノ如キハ徐總統ハ表面日本ニ近ツキ裏面其消息ヲ英米側ニ伝ヘツツアリト迄申居リ同人ノ言ノ如何程迄信ヲ得ヘキヤハ問題ナルモ現ニ本日ノ英字新聞ハ小幡公使ハ来タルベキ列国借款中ヨリ一千万円ノ前渡調ヘ得ヘキ旨ヲ政府ニ通知セリトノ路透電報ヲ掲載シ居リ、本日ノ民国日報其他ニハ日本政府ハ寺内内閣當時ノ如ク武断政策ニ復帰セントスト報シ本件ノ消息ト何等カノ関係アルヤニモ疑ハル、旁々總統ヘノ内帑金供給ノ如キ若シ実行セラルルトセバ到底秘密ヲ保チ得ベカラズシテ物議ノ因タルハ是ヲ予想シ置クヲ要スベシ要スルニ徐樹錚及其機関ヲ以テ目セラルル安福系ノ活躍ガ延イテ我方ニ対シ一般ノ注意ヲ惹起シ居レルニ当リ資金ノ

ハ如何ナル種類ノモノニシテ如何ナル方面ヨリ得タルモノナルヤハ承知セザルモ唐ガ当初本邦ヨリ帰来シ和議ノ衝ニ当リタル當時ニ比シ徐ニ対スル感情カ大ニ冷却セルハ之ヲ認ムヘク其旧誼ニ基キ徐ヲ援助シ同時ニ自己将来ノ立場ヲ求メムトスル素志ニ至リテハ今尚差シタル変化ナカルヘキモ徐ノ遣口ノ煮切ラサルニハ大ニ愛想ヲ尽カシ常ニ其薄志弱行ヲ咎メロヲ極メテ非難ヲ試ミ最近ニ至リテハ徐樹錚ノ跋扈、安福系ノ統領スラ其責徐ニアリト極言シ居レル様ノ次第ニシテ相互ノ間例ノ支那一派ノ使者ノ交換書面ノ往復ヲ利用セムトスルモノ等ノアルハ勿論ナルヘキモ其感情ノ和平會議以來若干疎隔シ来レルハ事実ト認メラレ殊ニ朱啓鈴北上後北京ノ内情徐ノ動靜等ヲ詳報シ来レル後ニ於テ其然ルモノアルガ如キハ本官ノ同人ト対談シテ感知セル処ニシテ彼ハ徐世昌ノ南方ニ於テモ比較的和合ノ(脱)ナキハ其文人出身タル点ニ基キ人物伎倆等ニ依ルニアラズト観測シ居レリ

(四) 徐樹錚ガ我軍人一派ノ後援ヲ利用シ跋扈シ居レル事実ハ拙電第三二四号報告ノ如ク唐紹儀等モ亦知悉シ居レル処ニシテ唐ハ當時我方ヨリ同人ニ対シ財政上ノ援助ヲモ与ヘ

供給又ハ其斡旋ハ政局ニ大ナル変化ナキ限り重大ナル政策ノ變更トシテ中外ノ耳目ヲ聳動スヘク従来我對支政策ハ其根本ニ於ケル是非ハ之ヲ別トシ動モスレバ周囲ノ事情ニ制セラレテ之カ徹底ニ至ラザルニ先チ早キニ臨ンデ中止又變更ヲ見却ツテ禍因ヲ残セルガ如キ感ナキニアラズ就テハ本件ハ尚慎重ナル御考慮モ是アルヘキ次第ト存ジ不取敢御參考迄ニ。

在支公使ヘ転電セリ

一四二 七月二十五日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ財政及時局ニ関シ意見提示方訓令以前
ニ於テ我政府ノ方針決定セラレタル次第ナリ
ヤ問合ノ件

第一〇五二号

(七月二十七日接受)

貴電第九四六号御下問ニ対シテハ往電第一〇四六号ヲ以テ卑見大要申進メ置キタルガ本件ハ右御下問ニ先ダチ青木中将等ノ意見ニ基キ政府ノ御方針大体既ニ決定シ外交調査会ノ賛成ヲモ得ラレタルモノナルヤニ承リ新聞記事以外確聞

ノ次第モ有ルハ本使ノ甚ダ意外トスル処ナルガ事実果シテ然ルヤ心得ノ為メ拝承致シ置キ度シ

一四三 七月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

中国ノ財政及時局ニ関スル訓令ノ閣議決定ハ

貴官ノ意見提示方ニ関シテノミ行ハレタル件

第九八七号 (極秘)

貴電第一〇五二号ニ関シ政府ノ方針大体既ニ決定シタリトノ風聞ハ全然誤ナリ往電第九四六号前段青木中将及鷺沢ノ本大臣ニ内話セル所ハ貴官ニ於テモ篤ト承知シ居レリトノ事ニテ貴電第八八八号及第九九三号電稟ノ次第モ有之本大臣ニ於テ相当考慮ヲ加ヘザルベカラザル場合ニ立至レル処兎モ角斯カル重大ノ件ニ関シ何等政府ノ決定ヲ見ルニ先チ貴官ノ意見ヲ徴スルノ必要ヲ認メ右問合セノ電訓ヲ発スルコト丈ニ付閣議及外交調査会ノ賛同ヲ得タル次第ナリ然ルニ貴電第一〇四六号ニ依リ青木中将等ノ説ク所南北妥協ニ対スル觀察ニ多大ノ相違アルヲ初メトシ其他ノ点ニ於テモ必スシモ貴見ト符合スルモノニアラザルコトヲ確メタルニ

依リ本件ハ更ニ慎重熟議ノ上ナラデハ政府ノ方針ハ何レトモ決定セザルモノト御承知アリタシ

尚過日青木中将帰任ニ際シ本大臣ハ前記往電第九四六号ヲ同中将ニ内示シ右ハ帝國政府方針ノ決定ヲ意味スルモノニアラズ右決定ノ為ニ必要ナル事実及意見ヲ徴スル趣旨ナルコトヲ懇説シ帰任ノ上ハ貴官トモ十分協議ヲ尽シ帝國政府ノ意向如何ヲ仄カス事ナク全然個人ノ立場ヨリ此上トモ支那側ノ実情ヲ精探スルコトニ尽力方依頼シ置キタルニ就テハ貴官ハ右ノ御含ニテ同中将カ支那側ニ手ヲ入ルルニ先チ貴電第一〇四六号ノ趣旨ヲ内話シ適宜所見ノ交換ヲ行ハレ尚御気付ノ点ハ可然同中将ニ注意セラルルト共ニ随次当方ニ電報アリタシ

本電貴電第一〇五二号ト共ニ上海ニ転電アリタシ。

一四四 七月二十九日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

对中国財政援助問題ニ関シ米国公使ト会谈ノ

件

第一〇七三号

(七月三十日接受)

支那財政援助問題ニ付テハ累次卑見電稟ニ及ヒタル次第モ有之処七月二十八日本使米国公使ト会见本件ニ談及シ支那政府ヨリ二千四百万弗前貸ノ提議ニ関シ其後更ニ財政総長ヨリ親シク四国団代表者ニ懇談ノ次第アリタルコトヨリ説起シ右ノ機会ニ財政総長カ述ヘタリトシテ日本銀行団代表者カ本使ニ報告セル所並本使自身カ親シク財政部員其他ニ接触シテ得タル印象ニ依レバ支那政府ノ財政ハ今ヤ殆ント窮乏ノ極点ニ達セルモノト認メラレ列強ニシテ此際何等ノ措置ニモ出ヅルコトナク空シク其成行ニ放置スルニ於テハ軍隊ノ暴動等モ起ルヤモ保シ難ク国内ノ秩序更ニ紊乱シ勢ヒ中央政府ノ崩潰ヲ来シ極メテ寒心スヘキ事態ヲ現出スルコトナキヤヲ恐ル就テハ此際關係列強ニ於テ新借款団成立ニ至ル迄上記焦眉ノ急ヲ救フ為何等カ積極的措置ヲ講スルコト然ルヘント思考スル旨説述シテ米国公使ノ所見ヲ叩キタル処同公使ハ財政上ヨリ来ルコトアルヘキ危険状態ニ関スル本使ノ所説ニ対シ全然同感ノ意ヲ表シタル上自分ノ密ニ懸念スル所ハ關係列強ニシテ進テ支那財政援助ヲ期スル場合ニ於テ(一)之カ為却テ南北ノ乖離ヲ助長スルノ虞ナキニシモアラズ(二)資金濫用ヲ防ク為金額ノ費途ヲ明確

ナラシメ且之カ監督ヲ嚴密ナラシムルノ必要アルヘキノ二点ナリト答ヘタルニ付右ニ対シ本使ハ上記(一)ニ付テハ自分ニ於テモ其ノ感ヲ同ジウセザルニ非ザルモ中央政府ノ崩潰ハ更ニ支那全土ヲ挙ケテ全ク混乱ニ陥ラシムルノ結果ヲ齎スヘキノミナラズ本件借款額ノ如キモ之ヲ過般引渡ヲ了セル関稅收入ト同様其ノ一部ハ之ヲ南方側ニモ配分ノコトトセバ之カ為南方側トノ間ニ又復論争ヲ生ズルカ如キコトモナカルヘク現ニ其ノ辺ニ付テハ我銀行代表者カ財政部側ヨリ承知セル所ニ依レハ既ニ南北兩者ノ間ニ相当諒解ヲ有スルモノノ如ク將又(一)ニ付テモ元ヨリ同感ナルモ支那当局ヨリハ四国団ニ対シ費途ノ詳細ナル説明書ヲ提出シ居レル旨ヲ告ゲ過日銀行団ヘ送附越シノ費途明細表参考ノ為供覽スヘキ旨ヲ約シタル上或ハ借款前貸ノ実行ハ之ヲ新借款団成立後ノ考量ニ附スヘントノ議論アルヘキモ前陳ノ通中央政府ニ対スル財政ノ援助ハ最早一日モ緩ウスベカラザル情勢ニアルヤニ察セラルルノミナラズ万一機会ヲ逸失シ為ニ更ニ国内ノ紛乱ヲ来スニ於テハ他日成立ノ新借款団ノ借款商議ノ相手方ヲ失フカ如キ結果トナリ終ニ新借款団組織ノ目的其物モ全然無意義ニ終ルモノト云ハザルベカラ

ズト詳述シタルニ米国公使モ本使ノ説明ヲ諒トシ尚ホ篤ト考慮ヲ尽シタル上本件ニシテ愈更ニ具体的問題トナレル場合ニハ自分ニ於テモ本國政府ニ好意的進言ヲナスヘキ旨答ヘタリ尚同公使ハ本使ノ質問ニ答ヘテ同公使カ曩ニ去ル五月中錢總理ニ対シ行政費融通ヲ同公使一箇ノ責任ヲ以テ提言シタルコトアルハ事實ナルモ其ノ後本國政府ヨリ右ノ如キハ近ク成立ヲ告クヘキ新借款團ニ於テ商議セラルヘキ問題ナリトノ訓令ニ接シ尔来其ノ儘トナリ居レル旨ヲ言明セリ

上海へ暗号ノ儘郵送セリ

一四五 八月六日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
福田参謀次長宛(電報)

徐總統段祺瑞ノ協力ニ依ル政權ニ財政援助供

与方意見具申ノ件

坂特電第二六号

(八月二十四日接受)

坂特電第二五号ニテ靳雲鵬ヨリ願出ノ件ハ苟モ徐世昌ヲ大總統トシテ一先ツ支那ノ政權ヲ統一セシメントスル為ニハ現下ニ於ケル良策ノ一ナリト認ム從テ帝國トシテモ支那ノ統一ヲ希望スル以上之ニ応スルヲ必要トシ就中支那政權ノ

中心ニ深く帝國ノ權威ヲ留ムルノ利益ハ争フ可カラサル事實ナルモ是レ英米ノ齊シク忻ハサル所ニシテ之カ決行ニハ我カ外相ノ言ノ如ク慎重ニ考慮ス可キハ勿論ナルモ若シ又英米ト協調ヲ保ツカ為苟モ彼等英米ノ言フ所ノミニ汲々タル如キ氣色ノ外觀ニ現ハルルカ如キコトアランカ仮令事實ハ然ラストスルモ帝國ノ支那ニ於ケル權威ハ永久ニ滅亡シ去ル可シト断言スルヲ憚ラス近ク山東ニ関シ青島ニ共同居留地ヲ認メントスルカ為考慮シアリトノ声明ノ如キハ既ニ其ノ一例ニシテ支那ニ於ケル排日派、就中其ノ煽動者タル米國浪人ヲシテ其ノ成效ヲ誇ラシムルノ恐アリ故ニ此ノ際仮令事實上帝國トシテ英、米トノ國際關係上支那問題ニ関シ多少讓歩ノ余義ナキ点アリトスルモ支那ヲシテ帝國ハ英米ノ為ニ決スルノ已ムナキニ至レル如ク覺ラシメズ寧ロ帝國トシテハ支那ノ主權ヲ尊重シ其ノ獨立保全ヲ維持センガ為ニ重大問題ノ解決ヲ希望スル所以ヲ明ニスルヲ必要トス仮令ハ万々一ニモ帝國カ米國ノ不利益ナル關係上勢力ノ打算ヨリシテ青島ニ共同居留地ヲ許ササル可カラサル立場トナルニ至ルヲ察知セバ帝國トシテハ寧ロ其ノ事前ニ於テ更ニ一步ヲ進メテ支那政權ノ統一其ノ效ヲ奏シ(脱字)スヘ

キ共同居留地タラシムヘキヲ宣言シ支那自ラヲシテ速ニ統一ノ目的ヲ達スル如ク啓發指導スルヲ必要トス。

要スルニ帝國ノ対支那政策カ既ニ支那ノ混乱ニ乘シ武力的ニ解決スルヲ以テ本旨ト為ササル以上常ニ温情アル指導者ヨリノ態度ヲ以テ之ニ臨ミ英米人若クハ其ノ政府ノ如ク自己ノ利權ヲ獲得センカ為ニ支那及支那人ヲ愛シ然ラサレバ妄リニ法理ヲ振リ翳シテ弱音ヲ苛ムル如キ態度ヲ為サザルヲ要ス

就中徐總統ヲ中心トシ段祺瑞之レヲ援助シツツ統一ノ目的ヲ達センカ為帝國ノ援助ニ依ラントスルコトニ於テ殊ニ然リトス、然ルニ之レカ為差向キ必要ナルハ財政援助ニシテ帝國トシテハ

第一、自ラ誘導者トナリ旧銀行團ヲシテ其必要額ヲ交附セシメサルヘカラス

第二、旧銀行團之ニ賛成セサレバ帝國ハ少クモ旧銀行團ヲシテ其主義ヲ認メシメ自ラ其受渡シヲ決行セサルヘカラス

第三、旧銀行團ニ対スル交渉若クハ米國ノ意向如何ニ論ナク帝國ハ東亞ニ於ケル日支兩國特別ノ關係ヲ説キ支那財政窮難ヨリ生スル秩序ノ紊乱ノ影響ヲ直接感受スルハ帝國ノ

ミナル所以ヲ明カニシ此際毅然トシテ借款打切りヲ止メ公然タル援助ヲ与フ

第四、銀行團トノ關係上大借款ノ形成ヲ履ム能ハサレバ数多ノ小借款ニ応スルコト最近発行ノ米國借款ニ於ケルカ如クスルカ或ハ支那ニテ発行セル公債ヲ購入スルコト最近熊希齡ノ斡旋ニ依リ米國慎昌洋行カ行ヒタリト称スル法ニ依ルカ或ハ欧米各國ト全ク事情ヲ異ニスル米穀ニ対シ兩國政府間ニ公然タル売買若クハ輸出入契約ヲ締結シ支那政府ヲシテ所要ノ収入ヲ得セシムル等ノ手段ニ依ラサルベカラス苟モ支那政治ノ中心決定シ之ニ対シ僅カニ月額四、五百万弗ノ援助ヲ与フルニ依リ支那統一ノ端緒ニ就キ得ルニ見込アリトセンカ由来其ノ統一ヲ希望シ又其ノ治乱興亡共ニ直接影響ヲ受ケ易キ位置ニ在ル我帝國トシテハ以上何等カノ手段ニ依リ彼等中心人物ノ求メニ応セサル可カラズト思惟ス敢テ閣下ノ御配慮ニ待ツヤ切ナリ。

右総長、大臣へ御伝へ乞フ。

一四六 九月九日 閣議決定

中国財政援助ニ関スル件

支那現下ノ政況ヲ一瞥スルニ中央政府ニ在リテハ南北ノ妥協尙成立セザル為メ其政令南方ニ及バザルノミナラズ財政ノ窮迫亦甚タシク軍隊ノ給与並ニ一般行政費ノ支弁等ニ至テハ糊塗百端辛フシテ一日ノ安ヲ偷ムノ状態ナルモノノ如シ過般陸軍總長靳雲鵬陸軍次長張志潭等カ交々青木中將坂西少将等ニ借款ノ希望ヲ申出デタルモ徒ニ私利の動機ニ出デタルモノニ非ズシテ財政ノ窮迫尋常ナラザルカ為ニ由ルモノナルベキコト敢テ問フ俟タル所ナリ從テ若シ此ノ儘事態ノ推移ヲ自然ノ成行ニ放任センカ兵乱又ハ過激主義ノ浸潤混乱等日ニ加リ其ノ結果測リ知ルヘカラサルモノアリ蓋シ今日ノ如ク財政ノ紊乱ヲ来シタルモノ或ハ歴代財政当局ノ措置宜シキヲ得サルニモ由ルヘク或ハ政況常ニ安定セズ事變踵ヲ接シテ至ルガ為ニモ由ルベク其原因多々アルヘキモ兎ニ角過去ノ積因ハ別問題トシテ財政ノ窮迫ハ現下ノ事實ナル以上当面ノ問題トシテ此事實ニ基因シテ帝國ノ利害ニ及ホスヘキ影響如何ヲ攷ヘ次テ此ノ影響ニ對スル善後策ヲ講スルコト当然ナリト謂フヘシ支那財政ノ永久的改革ニ至テハ最も重要ナル問題ニ相違ナキモ右ニ付テハ既ニ關係國間ニ幣政改革顧問ノ人選ニ付商議中ノ次第モ有之ニ付

今茲ニ言及スルノ必要ナカルヘク前記当面ノ問題ニ至テハ一日モ速ニ之ヲ解決スルコト帝國ノ為メ得策ナリト信ズ惟フニ支那ニ於ケル我人口、船舶ノ出入、投資額其他一般ノ通商ハ一二ノ点ヲ除キ大体ニ於テ遙ニ列國ニ超越セルコトハ今更贅述ヲ要セサル所ニシテ之レ實ニ帝國ノ支那ニ於ケル特殊利益ナルモノノ単ニ一片ノ空言ニ止ラザル所以ナリ然リ而シテ支那ノ現状更ニ惡化シ兵變掠奪等諸所ニ起リ交通杜絶シ南北ノ反目一變シテ全國無政府ノ状態ニ陥ルカ如キコトアランカ如上帝國ノ各利益ハ多大ノ打撃ヲ受クヘク之ヲ收拾スルノ途頗ル困難ナルモノアルヘシ從テ支那現下ノ政局ヲシテ此上不安定ヲ加ヘシメサル様可得出来丈努力スルコト此際最も必要ナリト思考ス

徐總統並ニ徐總統統率ノ下ニ在ル現内閣ニシテ借款ノ希望ヲ有シ且其希望ニシテ四囲ノ事情ニ顧ミ真摯ナリト認メ得ヘキニ於テハ我方ニ於テ可成之ニ応スルコト勿論得策ナリ蓋シ徐總統ノ人物タルヤ世評或ハ優柔不斷ト云ヒ或ハ老獪無責任ト云ヒ或ハ八方美人ト云フモ惡事ヲ行ヒ又ハ日本ヲ排斥セントスルカ如キ人物ニ非ザルコトハ何人モ異存ナキ処ナルノミナラズ由来親日論者タルハ北京政界ノ事情ニ通

スル者ノ等シク之ヲ承悉セル処ナリ其閱歴ハ措テ問ハズトスルモ兎ニ角南北相乖離セル現下ノ支那ニ於テ大總統トシテ最も適任者ヲ求メントセハ先ヅ彼ヲ以テ第一人者ト為サザルヲ得ズ將又其統率ノ下ニ在ル現内閣ニ至リテハ総長ノ椅子四五ヲ欠キ殆ト内閣ノ形態ヲ失フヤノ觀アルモ決シテ排日ノ傾向アルニ非ズ唯無力ノ結果トシテ時トシテ排日運動ヲ看過スルノ已ムヲ得サルカ如キ場合アルノミ從テ我方ニシテ徐又ハ其政府ニ對シ其切望ニ応シ適當ノ方法ニ拠リ直接又ハ間接ニ財政的援助ヲ与フルニ於テハ中央政府ノ權威ヲシテ今少シク上進セシメ又少クトモ支那ヲシテ此上不安定ヲ加フルカ如キコト無カラシムルハ勿論徐總統並ニ其政府ヲシテ我日本ニ對スル感謝ノ念ヲ強カラシムル結果一層支那ニ於ケル我地歩ヲ固ムルコトナルヘシ目下支那ニ於テ最も勢力ヲ振フハ全國中等以上ノ各學校在学生ヨリ成立セル所謂學生團ナルカ是等學生ハ兎ニ角多少新知識ヲ有シ志操亦比較的純潔ナルヲ以テ其努力ハ固ヨリ輕視スヘカラサルノミナラス我方ニ於テモ今後相当之ヲ考慮ニ入ルルノ必要アリト認メラルルモ彼等ノ運動努力ハ彼等自身ノ発意ニ基クモノノ外林長民、熊希齡、汪大燮ノ如キ政客ノ使

嗟乃至米英二國人ノ煽動ニ拠ルモノアルノミナラス其為ス処今日ニ於テハ尚排日ノ如キ消極的方面ニ偏シ支那復興ノ大宗旨タル一般政治改革ノ建設的範圍ニ指ヲ染メザルニ顧ミ國家ノ休戚ヲ負フノ抱負アルモノトハ断定シ難ク旁々帝國トシテハ差向キ彼等ノ努力ニ同情スル能ハザル次第ナル以上各國ノ等シク之ヲ認メテ中央政府乃至大總統ト為ス者ニ對シ公正ノ基礎ニ於テ借款ヲ為シ之ニ援助ヲ与フルコト最も得策ト信ス

唯茲ニ考慮スヘキ点二アリ即チ

一、北京政府ニ對スル借款ハ對支外國借款方針ニ反スルコトナキヤ

二、我金融情況ハ對支借款ニ応シ得ル程度ナリヤノ二問題ナルモ第一問ニ付テハ先般既ニ関稅剩余金ノ交附ヲ承認シテ支那政府ノ財政窮迫ヲ救ヒタルコトアリ是レ借款ト種類ヲ異ニスト雖財政的援助タルニ至リテハ何等差別アルコトナシ將又帝國政府トシテハ既定方針ノ通り苟モ支那ノ平和及統一ノ回復ヲ阻碍シ同國ノ政局ニ紛糾ヲ加フルノ虞アル借款ハ之ヲ避クヘキコト勿論ナルモ支那ノ財政窮迫シ其結果寒心スヘキモノアル次第ハ前陳ノ通りニテ此儘

二 中国改革借款一件 一四六

事態ノ推移ヲ監視センカ却テ同国ノ平和統一ヲ害シ政局ヲシテ益々紛糾ヲ加ヘシムルコトナルヘク從テ此際支那側ノ希望ニ応シテ借款ヲ提供スルコト必ズシモ我既定方針ニ反セザルノミナラズ不得已ノ情勢ニ属スルモノト謂フヘシ次ニ第二問ニ付テハ支那側ノ借款希望額毎月五六百万弗ナルモ右ハ目下ノ為換相場ニ顧ミ非常ノ多額ニ上リ我金融上多少懸念ノ廉ナキニ非ザルヲ以テ我方ニ於テ支那ノ希望額全部ヲ引受ケ難キ場合ニハ之ヲ引受ケ得ヘキ程度ニ於テ之ニ応スルコト可然ト思考ス

次ニ本件借款ニ関スル支那側ノ希望ハ我方ヨリノ直接借受ケニ在ルモノノ如キモ性質上政治借款ニ属セル借款ヲ他ノ關係国ニ協議スルコトナクシテ貸付クルガ如キハ固ヨリ背約ノ行為タルノミナラズ表面他ノ名義ヲ附シテ窃ニ政治借款ヲ為スカ如キハ最モ避クヘキ所ナリトス旁々本件ハ支那政府ヲシテ公然唯一現存借款団タル四国団ニ申入レシムルコトスル方可然幸ヒ先般支那政府ヨリ四国団ニ対シ月額四百万弗即チ半ケ年二千四百万弗ノ借款申入アリテ尚ホ懸案中ニ属スル次第二付右申入額ノ内我方ニ於テ之ヲ引受ケ得ヘキ程度ニ於テ引受クルコトシテ其旨支那側ニ内意ヲ

一四七 九月十日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国財政總長ヨリ四国団ニ対シ借款供与方申
出ニ関シ確答方督促ノ件

第二二二七号

(九月十一日接受)

支那政府財政ノ窮狀ニ関シテハ累次ノ報告ニテ略ボ御承悉ノ義ト存ズル処九月九日財政總長親シク四国銀行代表者ヲ招待ノ上財政ノ窮狀ヲ訴ヘ特ニ軍隊ニ対スル給料不払ノ為最近ニ至リ各省ノ軍隊ニ兵變ヲ見ル等、前途頗ル寒心ニ堪ヘザルモノ有リ今日迄ハ僅ニ弥縫ノ為大變事ヲ出来セシムルニ至ラサリシモ今後何処カノ軍隊ニテ反乱起リ他ニ知レ渡ルガ如キコト有ラバ偶々多數軍隊ニ叛乱ヲ促ス烽火トナリ全軍隊ニ渡ル甚タシキ動揺ヲ見ルニ至ルモ保シ難ク然カモ今日迄ノ財政ノ遺繰リハ約二千万ノ資金ヲ民間支那銀行ヨリ無理算段ニテ用立テシメタルモ今後ハ殆ド絶対ニ民間ヨリ融通ヲ受ケ難キノ外曩ニ借上ゲノ分モ追々返済期限ニ達スルモノアリ此等ニ対シテハ相当始末ヲ為スニ非サレバ民間ノ金融業ニモ頗ル憂慮スヘキ恐慌ヲ惹起スルノ虞ナキ

二 中国改革借款一件 一四七 一四八

一三四

示スト同時ニ一面支那政府ヲシテ更ニ四国団ニ督促ヲ加ヘシムルト同時ニ我方ニ於テモ四国団ニ可然説得ヲ試ムルコトスヘシ尚ホ借款金ノ使途監督方法ノ如キハ一々四国団ノ協定ニ委スルコトシ又曩ニ関稅剩餘金ヲ交附シタル際ニ於ケルカ如ク本件借款ノ一部モ之ヲ南方側ニ頒与セシムルコトスル等一切ノ協定ヲ公正ナル基礎ニ樹立スルニ於テハ世間ヲシテ批難ヲ容レシムルノ憂ナカルヘク我方出資者タルニ於テ何等懸念ナキニ至ルヘシ

先般本件借款ニ付小幡公使ヨリ在支米国公使ノ意見ヲ尋ネタル節同公使ハ個人トシテ主義上異存ナカリシ關係モアリ米國カ四国以外ノ國タルニ不拘我在支公使ヲシテ前回ノ会谈ニ由來シテ今一応米国公使ノ意向ヲ確メシムルコト可然要スルニ可成各國側ノ協調ヲ成立セシメテ徐々ニ本件ノ成立ヲ図ルヲ以テ万全ノ策ト認メラルルニ付本件ハ如上ノ方針ヲ以テ兎ニ角話ヲ進ムルコトニ取計ヒタシ

(欄外註記)

「本書ハ大正八年九月九日ノ閣議ニ提出シ其ノ諒解ヲ得タルモノナリ但シ目下支那財政ノ窮迫ヲ救フ為メノ応急借款ニ関スル方針ハ簡条書トシテ別ニ作製シ閣議及外交調査会ノ決定ヲ求ムルコトナレリ(内田外相印)」

ニ非ズ、旁々目下支那政府ノ財政ハ最早ヤ一刻ノ余裕モ成リ難キ危急ニ瀕シ居ル次第二付過般四国銀行団ニ対シ融通方要求シ置キタル二千四百万弗一時借款ノ件(往電第一〇五五号)ハ如何相成リタルヤ確答ヲ得タント述べ最後ニ支那政府ハ四国銀行団ガ優先權ヲ有スルニ鑑ミ即チ此提議ヲ為ス次第ナルヲ篤ト諒察シ至急本件借款ニ対スル確答ヲ求ムル旨ヲ附言シタル趣ナリ、
右ハ本日ノ会合ニ列席セル武内ノ内報ニシテ本日午後四国代表者更ニ会合決定シ倫敦本部ニ請訓スル筈ナリ。

一四八 九月十一日 田中陸軍大臣ヨリ
在北京坂西陸軍少將宛(電報)

中国財政援助問題ニ関連シ徐世昌、段祺瑞、
靳雲鵬日中協同ノ決意確メ方訓令ノ件

陸第四五〇号

貴官ハ青木ト相談シテ左記意味ヲ徹底のニ徐世昌、段祺瑞、靳雲鵬ニ伝ヘ先方ノ適確ナル意見ヲ求メテ直ニ電報セラレタシ但シ此事ハ小官個人ノ意見ナルモ首相外相ハ之ヲ承知シ居ルニ付小幡公使ノミニ内話スルノ外貴官ト青木ノ

一三五

外何人ニモ洩ラスヘカラズ、而シテ此事ガ成立スル場合ニハ公然公使ノ手ヲ経テ交渉セラルベシト雖モ此事ハ我政府ノ政策ヲ決定スル為ニ最重要ナル關係ヲ有スルカ故ニ予メ支那当局ノ責任アル且腹藏ナキ意見ヲ知ルコトノ必要アルガ故ナリ

支那現在ノ状態及財政切迫ノ次第ハ日支共存ノ厚誼ニ考ヘテ出来得ル丈ノ協力ヲ与ヘタキハ十分ナルモ、我現内閣カ支那南北統一セラルル迄ハ双方ニ物質的援助ヲ与ヘサルヲ主義トシテ累次内外ニ声明シタル行掛リト講和会議ニ於ケル山東問題ニ関スル支那ノ態度ト從テ各所ニ起リタル排日運動トハ我國民ヲシテ支那ニ対スル不安ノ念ヲ起サシメ一面開戦以來我國ト欧米連合諸國側トノ情義モアリ且相互的ノ利害關係ニ顧ミ彼等ト協調ヲ保ツノ必要アルニ因リ今日迄支那ヲ援助スルコトニ躊躇シタルハ余儀ナキコトニシテ亦已ムヲ得サル次第ナルハ支那当局モ亦諒解シアルコトト信ズ然レトモ支那目下ノ財政困窮状態ハ直接小官ニ日本ノ援助ヲ待ツ旨ヲ伝言セラレ間接ニ貴官等ヲ経テ披瀝セラレタル事情ニ徴シ且日支兩國ノ特別ナル關係ヲ考フレバ如何ニモ坐視スルニ忍ヒサルモノアリト信ズ、去リナガラ昨今

ノ模様ニテハ日本如何ニ周旋スルモ四國借款團若ハ之ニ米國ヲ加ヘタル団体ヨリハ支那ノ請求ニ応シテ財政援助ヲ与フルニ至ル見込ナシ畢竟日本単独ニテ援助スルニ至ルモノト覚悟シ其額ハ少クトモ当分ノ間毎月五百萬元位ハ支出スルモノト思ハザルヘカラズ而シテ日本カ之ヲ断行スルトスレバ第一前ニ述ヘタル如ク現内閣ノ對支方針ヲ根本ヨリ變更スルコトトナリ国内ニ對スル我政府ノ苦痛ハ実ニ甚大ニシテ支那ハ常ニ我ニ惡意ヲ挟ムモ我ハ何故ニ好意ヲ以テ之ニ報イザルヲ得ザルカト國民ノ一部ニハ寧ロ之ヲ以テ屈辱トナシ政府反對ノ勢力ハ大ニ氣勢ヲ添ユルニ至ルヘク外ニ對シテハ日本ハ連合与國間ノ協調ヲ破ルモノトシテ我國國際關係ハ之カ為ニ大ナル困難ニ遭遇スルニ至ルヘク遂ニ内外ノ状態相待テ内閣ノ更迭ヲ促スニ至ルナキヲ保セズ而シテ是ハ独リ日本ノミナラズ支那ニ於テモ日本カ単独ニ財政援助ヲ為シタリトセバ到底之ヲ秘スル能ハサルカ故ニ各地ニ於テ更ニ猛烈ナル排日運動起リ英米ハ之ニ乗シテ益煽動ノ歩ヲ進メ随分困難ナル事情發生スベキモノト考ヘザルヘカラズ然レトモ徐世昌、段祺瑞、靳雲鵬等日支協同派ノ人々ハ飽ク迄是等ノ困難ニ打勝チ世論ニ惑ハス山東問題ノ如キ

モ日支兩國間ニ直接交渉シテ互讓円満ニ解決ヲ遂ケ益兩國ノ關係ヲ緊密ナラシムルノ抱負ト固キ決心ヲ有セラルルヤ否ヤ若シ果シテ支那側ニ此ノ如キ大決心アリトスレバ小官モ亦我政府ヲシテ前述ノ如キ内外ノ困難ヲ排除シテ最後ニハ単独ニ援助スルコトノ決心ヲ為サシムルコトニ就キ責任ヲ帯ヒテ尽力スベシ唯支那当局ノコトナレバ何時決心ヲ翻シテ英米ト共ニ日本ヲ排斥スルノ拳ニ出ヅルヤモ知レスト

ノ疑念ハ我上下ヲ通シテ對支政策ヲ不徹底ナラシムル原因ナリ若シ日支協同派ノ人々ニシテ終始變ラズ我政府ヲシテ支那当局ニ堅キ決心アルコトヲ確信セシムルニ足ル証言ヲ与フレバ小官モ支那当局ニ對シ我政府ヲシテ主義ヲ變更スルコトニ決心セシムルコトヲ誓フベシ小官ハ段祺瑞、靳雲鵬等ノ人格ニ徴シテ堅キ決心ヲ有スルコトヲ信シテ疑ハサルモ此際改メテ腹藏ナキ意見承知シタシ。

以上ハ青木ト共ニ小官カ從來ノ厚誼ニ顧ミ極メテ率直ニ少しモ腹藏ナク申述フル次第ナリトテ先方三人ニ伝ヘ之ニ對スル先方三人ノ確實ナル返答ヲ求メラレタシ其返電次第ニテ我吉報ハ間モナク貴官等ノ手ニ入ルコトト信ズ尚貴官等ノ先方ト談合スル場合ニ於テ望ムベキハ支那当局等ハ目下

ノ苦境ヲ脱スル為一時逃レニ堅キ決心ヲ有スルカ如キ言辭ヲ弄スルヤモ計リ難シ其辺ハ支那人ノ特性ヲ吞ミ込ミアル貴官等ニ於テ大ナル注意ヲ払ハレタシ。

一四九 九月十二日

在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中陸軍大臣宛(電報)

四國銀行團ニ對スル二千四百萬弗ノ前借要請

容レラレザル場合、中國三氏ノ對日協同決意

堅キニ於テハ日本ハ単独融資決行ヲ辞セザル

ノ態度ヲ示スヲ得策トスル旨回申ノ件

坂極秘電第八十六号

九月十一日陸第四五〇号極秘貴電敬承、青木中將ト協議ノ結果ハ左ノ如シ

去ル九日總理代理龔心湛カ四國銀行團代表ヲ招キ支那財政困窮ノ狀況就中此ノ數月來軍隊給料不渡リノ為、各指揮官ハ其ノ取締ヲ保証シ得ズ何時如何ナル變乱ヲ見ルヤモ計リ難ク政府ニ於テハ既ニ予算内ニテ出来得ル限りノ融通ヲ為シ尽シタル実狀ヲ述ヘ此ノ儘放任シ置ケハ此等金融方面ヨリモ大恐慌ヲ来スヘシトテ救助ヲ求メタルニ四國團ハ前回

ノ冷淡ニ似ズ頗ル同情シ此ノ險惡ナル状況ヲ救済スル為ニ
取敢支那側七月十日請求ノ如ク二千六百万元ノ前借ヲ為ス
必要アリトノ決議ヲ為シ倫敦ノ本部ニ電報シタルコトハ一
昨日既ニ小幡公使モ之ニ同意シ同公使及当地正金ヨリ貴
地ヘ電報セシ筈ナリ、該電ハ外務省ニツキ見ラレタシ

就テハ此際帝國トシテハ第一着ニ倫敦ノ四國銀行團本部ヲ
シテ北京決議ノ如ク成ルヘク速ニ前貸ヲ実行セシムヘク相
当ノ手段ヲ執ラルレバ今日ノ金融關係上結局帝國側ヨリ其
ノ資金ノ供給ヲ為スノ外ナカルヘキヲ以テ不取敢此ノ法ニ
抛ラシムル事帝國目下ノ對外關係上有利ナリト思考ス

又支那側ヨリハ北京銀行團ノ決議ヲ成立セシムル如ク運動
スヘク小官ヨリ直ニ注意スル積リナリ、而シテ貴電ノ趣旨
ハ帝國政府ノ立場ニ對スル徐綏統、段祺瑞、靳雲鵬ノ明カ
ナル諒解ヲ求メ仮令四國銀行團ノ前貸不成立ニ終ルモ苟モ
徐綏統等ニシテ世論ニ惑ハズ万難ヲ排シテ日支兩國ノ結合
ヲ図ルヘキ堅キ決心ヲ有スル確証ヲ示サバ貴大臣トシテ責
任ヲ帶ヒ帝國政府ヲシテ単独の援助ノ政策ニ出テシムヘシ
ト云フ堅キ決心ノ諒解ヲ与フル意味ニ於テ機會ヲ見テ之ヲ
伝ヘ我好意ヲ示ス様徐ロニ彼等ニ安心ヲ与フルヲ得策ナリ

依テ小官ハ右兩氏ノ意見ヲ本電報ニ附記シタキ旨申出デシ
ニ公使ハ之ヲ快諾セリ御参考迄

一五〇

九月十二日 東在中国日本公使館附陸軍武官ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

中国ハ財政窮乏ニ依リ兵變ノ虞アルニ付日本

ハ單獨借款供与ノ要アル旨意見具申ノ件

支極秘第三八七号

(九月十三日接受)

南北統一ノ前途尙遠遠ニシテ未ダ其曙光ダモ見ル能ハス多
数党首領王揖唐總代表ニ任命セラレ諸準備ヲ整ヘ充分ナル
犠牲ト讓歩トヲ為スノ覚悟ヲ以テ方ニ上海ニ向ツテ出発セ
ントスルニ當リ南方軍政府ハ王揖唐ノ總代表ヲ忌避シ来ル
此ノ如キ情況ニ於テ妥協成立スルヤ殆ド予測ス可ラサルナ
リ若シ他人ヲ以テ王ニ代フルカ如キ事アランカ縦ヘ上海會
議ニ成立スルモ安福派ノ反感ヲ受クルヲ以テ殆ド其実行不
可能ニ終ル可ク若シ強ヒテ之ヲ実行セントセバ北方ノ分裂
ヲ来スコトナキヲ保セス、昨年末日本カ率先シテ南北妥協
ヲ勧告シ其成立ニ至ル迄借款及兵器供給ノ停止ヲ宣言シタ
ル際上海會議カ九ヶ月以上ノ日子ヲ費スコトヲ予期セシニ

ト信ズ

右ハ貴電力銀行團ニ関スル当地ノ電報ト行違ニ発セラレタ
ルモノト考ヘ不取敢愚見ヲ陳ス尚貴電ト共ニ小官等兩人協
議ノ結果即チ以上ノ電報ヲ小幡公使ニ示シタルニ公使ハ曰
ク、予ハ北京銀行團ノ希望ハ恐ク倫敦本會議ニテ「サイ
ン」ヲセサル可シト判断スルコトヲ得、帝國トシテハ此際
倫敦方面ニ對シ、抑モ支那ヲシテ擾乱ニ陥ラシムルハ歐洲
各國ト立場異レル帝國ガ直接其惡影響ヲ蒙ル次第ナレバ帝
國ノ自衛上是非共支那財政窮迫ヲ救ヒ軍隊變乱、金融ノ恐
慌等ヲ予防セサル可カラサル所以ノ理ヲ明ニ説明シ若シ四
國側ニシテ前貸ヲナサザレバ帝國ハ不取敢單獨ニ之ヲ援助
ヲ決行スヘシト云フ態度ヲ示ス必要アリ殊ニ近來英國公使
ノ如キハ四國借款不日成立ニツキ旧銀行團ヨリ前貸ノ必要
ナク然モ新借款團不成立ノ責任ハ滿蒙除外ヲ主張スル帝國
ニアリトセリ帝國トシテハ對支政策上必要ナリト信スルニ
拘ラス今俄ニ旧銀行團ヨリ前貸ヲナサシム可シト主張スル
能ハザル今日幸ニモ在北京四國團カ支那ノ要求ニ對シ著シ
キ同情ヲ有シタルハ蓋シ新借款團ノ成立以前ニ於テ財政援
助決行ヲ主張ス可キ最良ノ機會ナリト思フ云々

アラサル可シ今ヤ北方政府ノ財政危急ニ瀕シ軍隊及官吏ノ
俸給停滯スルコト三ヶ月以上ニ及ヒ四月以來保定、湖南、
張家口、南京等ノ軍隊ニ於テ俸給不払ニ関スル小騷擾アリ
幸ニ大事ニ至ラサリシモ来ル旧歴八月ノ勘定日前ニ至レバ
如何ナル兵變惹起スルコトナキヤ測ラレサルノミナラズ政
府ハ本年二月以來一時ノ融通ヲナス為メ中法銀行及其他ノ
外國銀行ヨリ借入レタル外、支那銀行ヨリ短期借入ノ額
ハ二千万弗以上ニ及ヒ其返済期限逐次到来シツツアリ若シ
其返済不可能ナレバ金融市場ヲ攪乱スルコト決シテ僅少ニ
非スト信ズ、曩ニ旧借款團ノ囑財政總長ヨリ二千四百万円
ノ借款申受ケシモ未ダ諾否ノ回答ヲ与ヘス蓋シ倫敦ニ在ル
借款團本部理事等兵變ニハ敢テ痛痒ヲ感ゼザレバナリ
兵變ノ為最モ損害ヲ被ムルモノハ日本タルコトハ多言ヲ要
セズシテ明カナリ故ニ旧借款團ニ於テ借款ニ応セサレバ日
本ハ斷然單獨ニ之ニ応スルヲ要ス蓋シ列國ノ認メアル北京
政府ノ危急ヲ救フハ當然ノ責務ニシテ且ツ我利權ヲ保護ス
ル所以ナリ、然レトモ滿蒙除外ヲ以テ新借款團ノ成立ヲ遲
延シ乍ラ一方ニ於テ單獨借款ヲ為スハ列國ヲシテ日本ハ野
心ヲ有スルモノナリト疑ハシムルノ苦キ立場ニ在ルハ小官

二 中国改革借款一件 一五一

モ亦之ヲ知レリ、然ルニ去ル九日襲財政総長ハ再ヒ旧借款団ノ委員ヲ招キ財政ノ危急並ニ兵変ノ憂アルコトヲ説明シ彼等ノ再考ヲ求メタリシカ委員等ハ多少諒解スル所アリ同時ニ委員会ヲ開キ借款ニ応スルヲ可トスルノ意見ヲ倫敦本部ニ打電セリ然レドモ英國公使ノ切ナル希望ニ依リ南方ハ之ニ反対シアル旨ヲ其末文ニ附記セシ由ナリ而シテ本問題ノ如キハ独リ借款団ノ意見ニ依リテ決スルモノニ非サルヲ以テ日本ハ可否ヲ借款団本部ノ理事会ノ判断ニ一任スルコトナク自ラ關係国政府ノ間ニ斡旋シテ兵変ノ避ク可ラサル理由ヨリ彼ノ立場ヲ説明シ關係国政府ガ之ニ応セザレバ日本ハ单独之ニ応スルノ決心ヲ示スモ可ナリ、若シ關係国政府カ更ニ日本帝國ノ野心ヲ疑フモノアラバ帝國ハ其主張ヲ放棄シ成行ニ放任シ兵変ノ責任ハ彼等ヲシテ之ニ任セシムル様此二者何レヲカ明確ニ為シ置クノ要アリト信ズ玆ニ御参考ノ為申述ヘタキ一事アリ、夫ハ(脱)能ハス目下ノ如ク赤貧ノ政府ニ於テハ俸給停止シアルモ所謂「無イ袖ハ振レナイ」主義ニ依リ何等カ平穩ニ維持シツツアリト雖一度借款成立セバ左ノ弊害統出スト云フモノアリ一、餓鬼カ少量ノ食物ニアリ付キタル如ク其奪合ノ為却テ

一四〇

一悶著ヲ起ス憂アリ
二、借款ノ大部分ハ軍隊ノ俸給ニ使用セラレズシテ当路者ノ懷中ヲ肥スカ或ハ運動費等ニ使用セラルルノ憂アリ三、南方ニ交付スヘキ金額比較的ニ少カルヘキニ依リ此ノ利ヲ以テ北方ニ服(不明)セスシテ運動費ニ使用セラルルノ憂アリ
然レドモ兵変ニ応スル為ノ準備金ヲ必要トスルコトハ彼等一派ト雖モ同一ナリ而シテ以上ノ杞憂ハ或ハ之カ分配率ヲ定メ又ハ相当ノ財政監督ヲ置ク等ノ手段ヲ以テ各派間ヲ調節シ又ハ之カ濫費ヲ制限スルコトヲ協定(シ得ベシ)
以上北方政府ノ現状維持ノ為其財政窮乏ヲ救済スルノ要アル意見ハ屢々提出シ又青木、坂西兩閣下ヨリモ屢々提出セラレアルヲ以テ今更必要ナキニ似タルモ兵変ニ対スル顧慮アルコトハ小官ノ職責上明確ニスルノ要アルヲ以テ閣下ノ御考慮ヲ煩ハス

一五一 九月十三日 閣議決定

中国財政援助二関スル件

一、目下支那財政ノ窮迫ニ顧ミ北京政府ノ希望ニ応シ先ツ

一ヶ年ヲ限り月額五百万円内外ヲ同政府ニ貸渡スコト
二、右貸渡ハ従来ノ行懸ニ顧ミ四国借款団及出来得ヘクンバ米國ト協調ヲ保チ可成共同貸付トナスコト
三、前項ノ協調行ハレ難キ場合ニ於テハ支那ニ対スル帝國ノ特殊關係ニ顧ミ单独貸附ノ途ヲ講スルコト

註 右文書ノ冒頭余白ニ左ノ記入アリ

「大正八年九月十三日閣議決定(内田外相印)」

尚右同文案ハ「九月九日外交調査会決定」ヲ見タリ

一五二 九月十三日 内田外務大臣ヨリ
在中國小幡公使宛(電報)

对中国財政援助決定ニ関シ訓令ノ件

第一一五一号

貴電第一二二〇号ニ関シ

支那政府ニ対スル財政援助ノ件ニ付テハ曩ニ往電第九八七号ヲ以テ申進シ置キタル次第有之其後政府ニ於テ慎重詮議ノ結果今回別電第一一五二号ノ通り方針決定シタル処右ハ支那財政ノ窮迫甚タシク此ノ儘事態ノ推移ヲ自然ノ成行ニ放任スルニ於テハ兵乱又ハ其ノ他不幸ナル事端發生シテ其ノ結果測リ知ルヘカラザルモノアルガ為ニ外ナラズ今回右

二 中国改革借款一件 一五二 一五三

ノ如ク支那政府ニ資金ノ供給ヲ為スコトニ決定シタル結果世上或ハ我對支借款方針ノ變更ヲ疑フモノナキヲ保セザルモ帝國政府ニ於テハ従来ノ通支那ノ政局ニ紛糾ヲ加フルノ虞アル借款ハ之ヲ避クヘキコト勿論ニテ且ツ曩ニ関稅剩余金ヲ交附シタル際ニ於ケルガ如ク今回ノ方針ニ抛ル借款ノ一部モ之ヲ南方側ニ頒与セシムル様致シタシ
尚別電第一一五二号第三項規定ノ次第アルモ第二項ニ抛リ最善ノ努力ヲ為スヘキコト勿論ニ付右ニ含ミ置カレ度シ
將又右帝國政府ノ意嚮ヲ支那側ニ通スル時機方法ニ関シテハ更ニ電訓スル筈ニ付ソレ迄ハ本電ノ次第ハ貴官限りノ含ト承知アリタシ

註 別電第一一五二号ハ之ヲ省略ス該電報ハ前出ノ九月十三日閣議決定ト同文ナリ

一五三 九月十四日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中陸軍大臣宛(電報)

中国財政援助問題ニ関シ靳雲鵬ニ我方ノ意向ヲ伝ヘタルニ對シ同將軍意見開示ノ件

坂極秘電第八七号 (九月十五日接受)

一四一

陸四五〇極秘貴電ニ対シ青木中将ト協議ノ結果ハ既電ノ如ク小官ハ一昨日靳雲鵬ト親シク熟話ヲ遂ケ貴電ノ意ヲ伝ヘタルニ彼ノ腹藏ナキ意見トシテ語ル所在ノ如シ

今日ノ情況上貴國カ単独の財政援助ニ決心スルノ至難ナルハ吾人能ク之ヲ諒解スルモ支那トシテハ一日モ速ニ援助ヲ得ルニアラザレバ中央政府ノ威信ヲ失フニ至ルヘク北京政局ニシテ更ニ動搖セハ此ノ機ニ乗シテ如何ナル陰謀行ハレムモ計リ難ク真実日支ノ結合ヲ必要ナリト確信シ之ヲ断行セントスル一方如何ナル運命ニ陥ルヤ計リ難シ股鑑遠カラズ曹汝霖、章宗祥ノ今日ヲ見テ明カナリ 彼ノ米國ガ嘗テ北清事變ノ賠償金ヲ以テ精華学堂ヲ起シ或ハ青年會ヲ組織シ支那青年教育或ハ力ヲ慈善事業ニ尽シ多数ノ人ト金トヲ費シテ衆人操縦ヲ企テタル結果茲ニ所謂根拠アル親米派ノ基礎ヲ作り上ゲタルニ依リ最近ノ如ク排日熱ヲ高メ各方面ニ活動スル事トナレリ吾人カ決心固ヨリ堅固ニシテ終始不變然カモ貴國政府ヲシテ之ヲ確信スルニ足ルヘキ条件ヲ呈出スルカ如キ又容易ナルヘキモ若シ夫レ吾人ノ呈供セル条件ニ権威少ク其実行ノ保証確實ナラサレバ何等ノ価値ナカルヘシ若シ貴官ト共ニ參戰軍即チ今日ノ辺防軍ヲ編成ス

ルノ主旨ハ既ニ貴官ノ審ニ諒知セル如ク所謂中央政府ノ權威ヲ増シ大總統始メ吾人ノ鞏固ナル決心ニ基キ呈供セル言質並ニ条件ヲシテ權威アラシメ其実行ヲ保証セシメントスルニ外ナラズ

予素ヨリ他ナシ陸相閣下ノ支那ニ対スル好意就中、内外ニ対スル貴國政府ノ困難ナル立場ナルニ拘ラス苟モ吾人ノ堅固ナル決心ヲ確實ニ表示スル事ヲ得バ万難ヲ排シ貴國政府ヲシテ単独の財政援助ヲ決行セシムヘシトノ責任アル言ニ対シ滿腔ノ謝意ヲ表シ吾人ノ施設上一種ノ安心ヲ感スル所以ナルモ予ヲシテ更ニ腹藏ナキ意見ヲ吐カシメハ徐總統始メ吾人ノ有スル堅固ナル決心ヲシテ終始一貫渝ルコトナカラシメ然カモ之ヲ事實ニ現サシムヘキハ吾人自ラニアラズシテ實ハ貴國カ日支ノ結合ヲ為スニ最モ適當ナル人材ヲ選拔シ此人材ヲシテ支那ニ於テ（不明）ヲ施スコト恰モ米國ノ（不明）如クナランニハ吾人ノ堅固ナル決心ニ基ク言動ハ直ニ之ヲ事實上ニ顯ス事ヲ得ヘク特ニ外交団ノ手ヲ經テ条件の取極メヲ為スガ如キ必要ナルヘシト信ス是即チ予カ少クトモ參戰軍即辺防軍ニ要スル經費ノ要求ヲ貴國ニ於テ真面目ナル（不明）ヲ為サシメツアル所以ニシテ

其要求ハ既ニ自ラ進ンテ誠実ナル貴國ニ一任セントシツアルナリ云々。以上斬ノ意図ヲ約言スレバ帝國政府今日ノ立場並ニ政策變更ノ容易ナラサルコトヲ知り從テ之ヲ為スニハ何等カ帝國政府ニ対シ日支ノ結合ヲシテ堅実ナラシムルニ足ルヘキ条件ヲ呈供セザルヘカラズト信シツアルモ支那政局ノ不安定ト共ニ彼等ノ位置モ亦不安定ヲ感シツアルヲ以テ帝國政府ニ対シ有効切実ナル表示ヲ為シ得ヘキ事項ト方法ノ発見困難ナリト云フニ帰着ス依テ貴電中ニ所謂我政府ヲシテ確信セシムルニ足ルヘキ条件トハ例ヘバ如何ナルモノナリヤ、彼等指導ノ必要上先ツ小官ニ内示セラルルヲ得バ好都合ナリ。

一五四 九月十五日

在北京坂西陸軍少將ヨリ
田中陸軍大臣宛（電報）

財政援助問題ニ対スル徐總統ノ意向ニ付報告
ノ件

坂極秘電第八九号

（九月十六日接受）

青木電

陸四五〇号貴電ノ趣旨ヲ充分明瞭ニ理解セシムル為去ル十

シテ之ニ依リ我誠意ハ既ニ明瞭ニ表示サレアルニ非ズヤ
今日西伯利ノ状態ト云ヒ西北辺境ノ形勢ト謂ヒ東亞ハ実ニ
危急ニ瀕シツツアリ日支関係ノ密接ナルヘキハ勿論東亞全
体ヲ一致セシメ事ニ当ラザルベカラザル状態ニ在リ比ノ上
ハ我が誠意ノ表明ヲナスハ無用ノ事ナラズヤト云ハヌ計リ
ノ態度ヲ示セシヲ以テ青木モ強イテ之ニ反対セズ右ノ件ニ
就テハ田中大臣ニ問合セアルコトモアル故其ノ返答ヲ待チ
更ニ談合セントテ話頭ヲ転シ単ニ借款問題ニ移リシニ徐総
統ハ日本カ単独借款スル場合其外交関係ニ及ホスヘキヲ頗
ル憂慮シ此ノ分ハ實際止ムヲ得サル場合ノ一種ノ便法トシ
成ルヘク倫敦ニ於ケル四国銀行団ニ於テ支那ノ希望ヲ容レ
借款ヲ成立セシムルコトニ尽力スヘキ様國務院ニ命シ在英
支那公使ニ電報セシメタリト語リ貴大臣ノ今次ノ好意的御
尽力ヲ感謝スルト共ニ青木ニ対シテモ亦謝意ヲ表セリ
右徐總統ノ態度ヲ見ルニ我好意ヲ徳トスル裏面ニ於テハ一
国カ国際借款ヲ起スニ際シ債權国力實際止ムヲ得サル立場
ニ在リトハ云ヘ債務國ノ元首ニ対シ夫々条件ヲ求ムルハ余
リニ苛酷ナラスヤトノ意ヲ懷キアルヤニ疑ハレタリ、御参
考迄ニ附言ス

第一二六三号 極秘

(九月十八日接受)

往電第一二五九号ニ関シ

九月十五日青木中將大總統会見ノ顛末ニ関シテハ同中將ヨ
リ既ニ田中陸軍大臣ニ報告済ノ由ニ付詳細ハ同大臣ヨリ御
承知アリタシ、
青木ガ大總統ト会見ノ結果ニ付キ本使ニ内報シタル所ニ依
レバ大總統ハ支那政府ニ対スル財政援助ニ関シ陸軍大臣ノ
尽力ハ衷心感謝シテ措カサル所ナルコトニ付其旨同大臣ニ
伝ヘラレタシト述ベタル由ナルモ同大臣ガ今回ノ財政援助
ニ伴ヒ大總統ニ対シ求メタル例ヘハ山東問題調印ノ如キ日
支提携ノ確証ナルモノニ付テハ大總統ハ内心頗ル憐焉タル
モノアルガ如ク見受ケラレタルヤニテ大總統ハ債權國ガ債
務國タル支那ノ大總統ニ向ヒテ債權ノ形ニ何等カノ質言ヲ
求メラルルモ大總統ハ到底斯ルコトヲ為スヲ得ズト述ヘタ
ル上、支那ト日本ガ東洋ニ於ケル地位ハ到底離レント欲ス
ルモ離ル可カラザル関係ニ在リ從テ自分ハ今日迄又將來ト
モ此考ニテ誠実ニ日本ト提携ヲ期スルモノナルガ故必ズシ
モ此際右様ノ確証ヲ求メラルル必要ナカルヘシトノ意味ヲ
述ベタル由、右ハ多少間違ノ嫌アルモ保シ難キニ付キ青木

一五五

九月十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国借款問題ニ関スル英國公使ノ煮切ラザ
ル態度ニ付報告ノ件

第一二五八号

(九月十七日接受)

九月十五日英國公使ニ面会ノ序ヲ以テ支那政府ノ財政窮乏
ニ談及シ意見ヲ交換セリ同公使ハ支那財政ガ「デスペレ
ト」ナル状態ニアリテ外國ノ援助ヲ要スルコト急ナルモノ
アリトノ本使ノ所見ニ同感ヲ表シタルモ一面右援助ガ軍閥
ニ濫用セラレランコトヲ虞ルト云ヒ最後ニ本件ハ当然新
借款團ノ事業ニシテ自分トシテ何等的確ノ意見ヲ表示スル
コト能ハズ過日ノ支那政府申出ニ付テハ自分ヨリモ本國政
府ヘ電報シ置キタレバ倫敦ニ於ケル決定ヲ待ツノ外ナシト
述ヘ同公使ノ態度ハ甚ダ煮切ラサル様見受ケラレタリ。

一五六

九月十六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国財政援助問題ニ関スル青木中將及徐總統
間会见ノ不成功ニ付稟申ノ件

陸軍大臣宛電報ハ取寄セ一覽ヲ請ヒタキモ兎ニ角前段申
上ゲタル通り斯ル外交上重要ナル事柄ニシテ然モ関係スル
所頗ル大ナル問題ヲ外交機關ヲ出シ抜キ一国ノ元首ニ向ヒ
テ輕々ニ外交上ノ質言ヲ取ラントシ却テ淺薄ナル我が政治
家ノ了見ヲ見透サレ嫌味ヲ言ハレ折角帝國政府ノ示サント
スル誠実ナル好意モ夫レ程有難味ヲ以テ迎ヘラレザルガ如
キ結果ニ終ラントスルハ本使ノ深ク遺憾トスル所ナリ

(九月十六日)

一五七

九月十七日 在北京坂西陸軍少將ヨリ
上原參謀總長宛(電報)

四国団本部ガ对中国借款供与ヲ承認セザル場
合ニ対スル方策ニ付具申ノ件

坂特電第三七号

去九日財政總長ノ四国銀行団北京代表ニ対スル声明ニヨリ
該代表等モ支那現状ノ險惡ナルヲ知り去ル十日倫敦本部宛
前貸ノ必要ナルコトヲ打電シタルモ該電報ノ末文ニハ英國
公使ノ注文ニヨリ南方ヨリ英國公使宛ノ借款反對電報ヲ附
記シタルニヨリ著シク代表者ノ意嚮ヲ弱メタルヲ以テ支那

側ニ於テハ頗ル其成立ヲ疑ヒ寧ロ不可能ナルヘシト憂慮シ
目前二十日以内ニ迫レル旧歴八月十五日ノ節句即チ十月八
日迄ニハ是非四、五百万弗ヲ得ルニアラザレバ軍隊内ニ於
ケル事変若シクハ民間金融界ニ如何ナル恐慌ヲ来スヤ測リ
難キ情況ニアリ此際帝國トシテハ支那ニ於ケル兵卒若クハ
金融界ノ大恐慌ヨリ受クヘキ影響ノ欧米ニ比シ直接且ツ大
ナル所以ヲ明確ニ声明シ

第一、速ニ四國團ノ前渡ヲ旧歴八月十五日ノ節句即チ十月
八日以前ニ實行セシムヘク決議セシムル事

第二、同時ニ四國團ノ決議若クハ前渡手續ヲ右十月以前ニ
實行シ得ザレバ帝國ハ不取敢四國銀行團ノ名ヲ以テ帝國ニ
於ケル該団代表ヨリ一ヶ月分ノ前渡ヲ實行セシム

第三、倫敦ニ於ケル四國団本部ノ決議ニシテ前渡ヲ承認セ
ザレバ帝國ハ更ニ北京政府トシテ兵變若クハ金融界恐慌ノ
為今日以上困難ナラシメハ昨年十二月英米仏伊ト共ニ支那
ニ希望セル南北妥協ノ歩ヲ進ムヘキ能力ヲ失フベキ所以ト
帝國ノ惡影響ヲ受クヘキ所以トヲ説明シ帝國ハ北京政府ノ
現状ヲ消極的ニ維持セシムル為四國銀行團北京代表ノ認メ
タル範圍内ニ於テ單獨的財政援助ヲ与フヘキヲ声言シ十月

八日以前其一部ヲ決行スヘク通告ス
要スルニ此際帝國ハ毅然トシテ欧米各国ニ對シ支那ノ南北
統一政府ノ成立ヲ速カニ可能ナラシメ支那財政ヲシテ今日
以上ニ困難ナラシメサルハ帝國ノ自衛上頗ル緊要ナル所以
ヲ明確ニ声言スルヲ必要トシ所謂欧米ヲ指導シテ東亞問題
ヲ解決スル一動機ヲ作ルヘキ絶好ノ機會ナリト信ズ

一五八 九月二十日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

中国政府ヨリ四國団ニ對スル借款供与方申出
ニ付右応諾ノ精神ニテ行動スベキ様異ニ申含
メ方指示ノ件

第三一五号

帝國政府ニ於テハ支那政局ノ不安定ニ伴ヒ最近同國財政ノ
窮迫殊ニ甚シク此儘事体ノ推移ヲ自然ノ成行ニ放任スルニ
於テハ兵乱又ハ其他不幸ナル事端發生シテ其結果測リ知ル
ベカラサルモノアルベキニ顧ミ、先般來篤ト考慮ノ末此際
四國団ヲ經テ(可得出來バ米國側ヲモ加フルコトトス尚我
方引受額ハ月額五百万円内外ニシテ先ツ一ケ年ニ限ル)支

那政府財政ノ援助ヲ為スコトニ方針ヲ決定シタル処偶々別

電第三一六号^(註)ノ通り今回支那政府ヨリ再応督促ノ次第アリ

其結果四國団代表者ヨリ貴地銀行団幹部ニ請訓シタル趣ニ
テ同幹部ニ於テ目下協議中ノコトト察セラルル処帝國政府
ニ於テハ前記方針ノ範圍内ニ於テ可成支那政府ノ申出ニ応
シ度キ精神ニ付異ニ於テモ此意ヲ体シ行動スヘキ旨同人ニ
申含メラレ度尤モ前記帝國政府ノ方針ハ単ニ同人限りノ含
ニ止メ置クベキ旨並ニ財政援助ノ必要ヲ説明スルニ当リ何
等我方ニ野心アルガ如キ誤解ヲ与フルコトナキ様注意スヘ
キ旨併セテ申聞ケラレタシ
右為參考米仏ニ転電アリタシ。

註 別電第三一六号ハ之ヲ省略ス該電報ハ前掲九月十日在中国
小幡公使發内田外相宛電報第一二二七号全文ナリ

一五九 九月二十二日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国財政援助問題ニ關連シ靳雲鵬ヨリ同人及
徐總統段祺瑞ノ日中協同ノ決意ニ付坂西少將
ニ披瀝ノ件

第二二八〇号 (九月二十三日接受)

二 中国改革借款一件 一五九 一六〇

往電第一二五九号ニ関シ

坂西ヨリ靳雲鵬ニ伝ハ靳ヨリ徐總統ニ進言ノ結果九月二十
一日靳ハ坂西ニ對シ

(一)日支協同ニ關スル段祺瑞及自分ノ決心頗ル固キコト
(二)徐總統モ同感ニシテ自分ハ保証ノ地位ニ立ツヘキコト
(三)龔心湛ハ同日辞表ヲ提出シ大總統ハ自分ヲシテ代理タラ
シメントスルモ財政上、田中陸軍大臣ノ尽力ニヨリ日本
ヨリ援助ヲ与ヘラルヘキコト確實トナラバ就任ノ上山東
問題其他日支協同ノ実現ヲ計ルヘキコト
ヲ述ヘ右尽力如何ニ關シ至急陸軍大臣ノ回答ヲ求ムル旨述
ヘタル趣ナリ

一六〇 九月二十二日 内田外務大臣ヨリ
在英國珍田大使宛(電報)

对中国借款供与ノ必要性ニ關シ銀行団幹部ヲ
説得スル様異ニ申聞ケ方指示ノ件

第三一八号

往電三一五号ニ關シ異ヨリ正金頭取宛電報ニ依レハ貴地銀

行団幹部ニ於テハ本件資金融通ハ北京政府ノ地位決定ノ節迄之ヲ延期スルコト然ルヘシトノ意見ナルモノノ如キ処異ト他団体代表者トノ間ニ本件ニ付尚協議ノ余地存スル次第ナルニ於テハ右翼來電ト行違ヒタル往電第三一五号ノ趣旨ニ從ヒ兎ニ角異ヨリ他団体代表者ニ對シ支那政局ノ不安定殊ニ財政窮迫ノ次第ヲ叙シタル上万一事端發生ノ場合ニハ領土接壤セル日本ハ勿論利害關係アル各国共甚大ノ影響ヲ蒙ル次第ニ付速ニ此ノ際財政ノ窮乏ヲ救ヒ災ヲ未然ニ防クコト得策ト思考スル旨ヲ説明シ他団体代表ニ於テ支那側申出ニ応スル様態應セシメラレ度尤モ右ニ不拘他団体代表者ニ於テ飽迄延期ノ意見ヲ固執スルニ於テハ已ムヲ得ザル次第ニ付多数ノ意見ニ從ヒ差支ナキ旨是非併セテ異ニ申聞ケ置カレ度シ

右為參考米仏ニ転電アリタシ。

一六一 九月二十四日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国首腦ノ日中協同決意如何ヲ青木及坂西ヲ
シテ打診セシムルニ至リタル事情ニ付回示ノ

時ニ外交統一ノ必要ナルハ勿論ナルモ前記ノ如キ關係成行ヲ顧ミズ此際貴官ヨリ支那側ニ交渉スルハ却テ面白カラザル次第ト考ヘタルニ付坂西ニ於テ電訓接到ノ上ハ先ツ以テ貴官ニ協議ニ及フ様特ニ陸軍大臣ニ注意シ尚可成秘密ヲ保タンガ為本大臣ヨリ本件ニ關シ別ニ貴官ニ發電スルコトヲ見合ハセタル次第ナリ 御含迄

(附記)

九月十五日在中国小幡公使宛内田外務大臣宛電報第一二五九号

中国財政援助問題ニ關シ徐總統等ニ對シ青木中将坂西少將ヲシテ申入ヲ行ハシメタル事情回示方稟請ノ件

第一二五九号

(九月十六日接受)

(前略)

支那財政援助ヲ山東問題等ノ懸案ト結付ケ動モスレハ其心底ヲ見透サルカ如キ事ヲ明ケ放シニ言及スルカ如キハ折角ノ我援助ノ精神ヲ没却シ先方ヲシテ我ヲ輕ンゼシムルニ至ルヘク本使ノ甚タ遺憾トスル処ナリ又若シ前以テ斯カル申入ヲ為スヲ必要ト認メラレ併カモ帝國政府若クハ外務大臣トシテ本使ヲ通スルコト面白カラザルガ為青木坂西ヲシテ内密右申込ヲ為サシムルヲ可ナリトセラルル場合ニ於テ

二 中国改革借款一件 一六二

件

附記

九月十五日在中国小幡公使宛内田外務大臣宛電報第一二五九号

第一一七三号

貴電第一二五九号ニ關シ支那政府財政窮迫ノ事情ニ付テハ貴官ヨリ電稟アリタル外靳雲鵬ヨリ坂西少將ニ、張志潭ヨリ青木中将ニ申出アリタル結果兩武官ヨリ陸軍大臣ニ稟報シ來リタル次第ニテ右ノ如キ行掛アル為今般帝國政府ニ於テ財政援助ノ方針ヲ決定スルニ際シ從來ノ親密關係ニ鑑ミ陸軍大臣ヨリ兩武官ヲ經テ支那側ニ何等回答ヲ為シ其好意ヲ示シ置クノ必要アルニ付コレヲ機會ニ同大臣個人ノ資格ニテ支那側決心ノ程度ヲ(陸軍大臣宛坂西來電ニハ我政府ヲシテ確信セシムルニ足ルベキ條件トハ例ヘバ如何ナルモノナリヤト記載シアルモ坂西宛陸軍大臣往電ニハ支那當局ニ堅キ決心アルコトヲ確信セシムルニ足ル証言トアリテ條件ニ非ズ)一應確メ置クコト得策ナルベシトノ事ヨリシテ首相トモ協議ノ結果陸軍大臣ヨリ發電スルコトトナリタル次第ナリ

右ハ本件發生当初ヨリノ行掛上不得已次第ト認メタルト同

ハ閣下ヨリ其旨本使ニ御訓令相成本使ヨリ夫々はヲ執行セシムル事トシ然ルヘク或ル特定ノ案件ニシテ仮令非公式ニセヨ全然外交ニ亘ル措置ニ關スル此種訓令ノ發受ハ必ズ外務大臣及在外使臣ニ於テ統一スルコト緊要ト思考ス就テハ本件ニ付電訓方総理大臣及閣下ニ於テ御承認相成タルハ事實ナリヤ若シ事實ナリトセバ御承認相成ルニ至リタル事情全然本使ノ含ミトシテ御電示相成リタシ右ハ他人ノ受ケタル訓令ニ付兎ヤ角申立ツルノ趣旨ニアラズ斯クノ如キハ素ヨリ甚ダ本使ノ忍ビザル処ナルモ本使職責上事ノ系統ヲ糺シ置クノ必要アリト認メ敢テ電報スル次第ナリ

一六二 九月二十七日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

中国財政援助ニ關シ日本ノ單獨借款ハ各国ヲ
承服セシメタル上ニテ行ハルベキ最後ノ措置
ナルヲ含ミ置カレ度旨指示ノ件

附記

对中国借款問題特ニ日本ノ單獨貸付問題ニ關スル政務局調査

第一一八六号

往電第一一七三号ニ關シ靳雲鵬ヨリ陸軍大臣ヘノ申出ニ付テハ同大臣ヨリ坂西少將ニ對シ我方ニ於テ十分方法ヲ尽シ

テ支那側ノ希望ヲ実現セシムル為メ努力ヲ辞セザル決心ナル旨ノ趣旨ヲ斬ニ伝達方回電(本電ハ支那側ニ伝達前坂西ヨリ貴官ニ内示スヘシ)アル筈ナルガ裏面ノ内談ハ之ヲ以テ一応終リヲ告ゲ其後ハ貴官ノ手ヲ經テ措置スルコトト相成次第ナルガ帝國政府ニ於テハ固ヨリ成ルベク四国団ヲ主トセル列国共同ノ事業トシテ本件借款ヲ引受クルノ方途ニ出デシコトヲ希望シ居レルモノニシテ從テ往電第一一五三號第三項決定日本单独ノ貸付ハ十分ノ方法ヲ尽シタル上最後ニ執ルヘキ措置ニシテ容易ニ行フヘキコトニアラザルハ勿論ニ有之殊ニ支那現下ノ政局並支那及諸外国ノ日本ニ對スル從來ノ誤解ニ顧ミ輕々单独貸付ヲ実行スルカ如キコトアラハ當ニ当初ノ目的ヲ達シ得ザルノミナラズ却テ不測ノ惡結果ヲ招クニ終ルヘキニ付本件借款引受ニ関シ四国団銀行側ノ議、纏ラザル場合ニハ帝國政府ヨリ關係各國政府ニ對シ支那ノ時局ニ對スル我所見ヲ腹藏ナク披瀝シ支那財政援助ノ緊要ナル所以並成ヘク各國協同ニテ之ヲ行フコトト致度旨提議シ其ノ協力ヲ勸説スル筈ニテ若其ノ結果關係各國ノ贊同ヲ得ザル場合ニハ已ムヲ得ザルニ付支那ノ擾乱ニヨリ最モ直接ニ危害ヲ蒙ルモノ日本ニ如クハナク從テ日本

ヘ置キタル趣ナリ御含迄

在英、仏、米大使ニ転電セリ。

(附記)

对中国借款問題特ニ日本ノ单独貸付問題ニ関スル政務局調書(大正八年九月二十二日)

一、對支借款問題ニ對スル倫敦四国団本部會議ノ情勢ニ徴スルニ四国団トシテハ北京政府ノ地位確定スルニ非スンハ支那政府申出ニ応スル能ハサル旨ヲ以テ一応之ヲ拒絕スルニ至ル虞アリ

右様ノ成行トナル場合ニハ或ハ直ニ過般ノ決定第三項ノ趣旨ニ拠リ日本ニ於テ他国ト關係ナク支那政府ヘノ貸付ヲ断行スヘシトノ議起ルナキヲ保セス

一、抑モ過般帝國政府決定ノ精神ハ政府部内ニ於テモ多少其ノ動機ヲ異ニスル向ナキニ非ルヘキモ要スルニ(一)給料不払ニヨリテ軍隊ノ動搖、暴動起リ且延ヒテ支那全土カ混亂ニ陥ルカ如キ不幸ヲ見ルニ至ルハ日支兩國隣接特殊ノ關係ニ顧ミ到底帝國ニ於テ默視スルヲ得サル事態ナルカ故ニ進テ之ヲ予防シ(二)且帝國ノ支那ニ對スル特殊ノ關係ニ鑑ミ右借款政策ノ微妙ナル軍用ニヨリテ徐總統ヲ初

トシテハ单独ニテモ支那時局救済ノ方途ニ出デザルヲ得ザルコトヲ力説シ各國ヲシテ十分事態ヲ承服セシメタル上ニテ始メテ单独貸付ヲ実行スルコトト致度意嚮ナルニ付右様御含置アリタシ

帝國政府ノ内意右ノ通り決定シタル処元來本件ニ付テハ張志潭ヨリ貴官ニ(貴電一二二〇號)申出デタル行掛モ有之ニ付幸ヒ今回斬カ國務總理代理ニ就任シタルヲ機トシ貴官ニ於テ直接斬ニ面会セラレ(尤モ此点ハ貴官ニ於テ他ノ方法ニ拠ルヲ可トセラルレバソレニテモ差支ナシ)支那政府財政狀態ニ付テハ帝國政府ニ於テモ深く同情ヲ表シ同政府當局ノ申出ニ對シテハ篤ト考慮ヲ加ヘタル次第ナルガ同政府誠意ノ存スル処モ判明シタルニ付(貴電第一二八〇號)兎ニ角先以テ四国団側ヲ經テ列国協調ノ立前ニテ借款ニ応スル様極力尽力スベク又万一系列國ニ於テ右ニ不拘到底我勸誘ニ応ゼザル場合ニモ何トカ支那政府ノ希望ヲ満足セシムル様可然方法ヲ講ズル所存ナル旨極メテ内密ノ含トシテ先方ニ告知セラレタシ尚ホ乍序異ヨリ正金宛電報ニ拠レバ在英代理大使來電第四二九號實際ハ日本ニテ引受クルコトトナルヘキカトノ「アデス」ノ問ニ對シ異ヨリ然ルベシト答

メ支那朝野ノ好感ヲ繋キ出来得ヘクンバ以テ我地歩ヲ益々確立スルニ資セントスルニアルベシ

一、然ルニ前記ノ如キ成行ニヨリ強ヒテ日本单独ノ貸付ヲ実行セムト図ル場合如何ニ想到スルニ現下ノ情況ニ於テハ右様ノ我单独貸付ハ結局前顯何レノ目的ヲモ達シ得サルノミナラス却テ支那ノ擾乱ヲ誘致シ且帝國ノ世界ニ於ケル地位及支那ニ對スル關係ヲ一層不利ナラシムル虞渺カラス其ノ理由左ノ如シ

(イ) サナキダニ參戰借款軍器供給乃至山東問題、日支二十一ヶ条交渉等ニヨリ最近對日反感高潮ニ達シ來レル支那一般特ニ學生其ノ他熱狂の運動者等ハ今回南方ヘノ借款一部分ヲ行フトモ尚日本ノ单独貸付ニ関スル動機ヲ誤解又ハ曲解シ(八月下旬広東軍政府ノ本借款反對電報參照右ハ四国団ノ倫敦宛往電中ニモ引照シアリ)或ハ之ヲ以テ形式ノ異リタル北方武斷派援助ナリトシ或ハ表面好意ニ名ヲ藉リタル日本ノ霸國の野心推行ノ一手段ナリト為スヘク之ニ又モヤ外國人側ノ對日反感煽動加ハルニ至リ又日本国内ノ輿論モ武斷派擁護又ハ北方援助ノ復活ナリトシテ反對ノ氣勢ヲ拳クルニ

至ルヘク遂ニハ北京山東辺ノ学生団、有志団等ノ反政府の暴動ヲ端緒トシテ再ヒ支那各地ニ擾乱ヲ生シ更ニ勢ヒ軍隊ニモ波及シ其ノ間過激主義者流ノ活躍ヲモ見ルコトアルベク遂ニ收拾スヘカラサル局面ヲ呈スルニ至ルノ虞アリ斯クテハ帝國独リ不測ノ悪名ヲ蒙リ支那一般ヨリ敵視セラルルカ如キ結果ヲ貽スニ至ルノミナラズ折角支那ノ動揺ヲ予防セムトスル我目的ニ全然相返スル事態ト成ルベシ

(ロ)況ヤ青木中将ヨリ徐總統ニ対シ今回ノ借款一件ヲ山東問題ト関連セシムルカ如キ口吻ヲ漏シ徐總統等ノ不快ヲ買ヒ折角ノ我好意ヲ不徹底ナラシメタル結果此際我ニ於テ単独貸付ヲ実行セムトスル如キ態度ニ出テナバ自然右青木中将関係ノ消息ハ誇大ニ外間ニ漏洩シ日本ハ又々細工ヲ弄スルモノノ如ク誤解セラレ一面為ニ借款談ハ行悩トナリ而モ他面右ノ消息ハ又対日反感ヲ助長スルノ有力ナル一原因タルニ至ルヘシ

而シテ斯ク諸因輻輳シテ結局前記ノ如ク却テ支那ノ擾乱ヲ誘発スルニ至ルトセバ独リ支那ノ動揺ヲ予防シ得サルノミナラズ徐總統等ノ好感ヲモ繋ク能ハス日支間

シムルヲ得ス却テ(一)支那ノ動揺ヲ誘致シ且又(二)帝國ノ對支並対列国關係ヲ極メテ不良ナラシムルノ虞多大ナリト思考ス

故ニ此ノ見地ヨリスレバ此際日本カ余リニ積極的ニ借款ノ斡旋ヲ試ムルコトスラ考ヘモノニシテ(特ニ前記青木中将ノ徐總統会见ノコトアリテヨリ愈々然リ)為ニ或ハ折角今日迄苦心ヲ重ネテ維持シ来レル我公正ノ態度ヲ傷クルニ至ルヘク要スルニ差当リテハ支那政府ニ我大体ノ好意ヲ示スニ止メ夫レ以上余リニ深入リスルコトナク一面更ニ支那財政並軍隊動揺裏面ノ実相ヲ細心考究ヲ遂クルト共ニ少クトモ(一)我貸付ノ為前記ノ如キ不測ノ反感動揺ヲ来サス且支那一般ヨリ意外ノ誤解ヲ招ク虞ナキ相当ノ成算立チ(二)又支那ノ時局愈々險惡ノ度ヲ加ヘ從テ關係列国トノ間ニモ相当ノ了解(歐洲戰爭中ニ於ケル正金銀行三千万円前貸ノ件参照)成ルヲ俟テ事ヲ進ムルヲ以テ得策トスベク將又若シ右様ノ順序ヲ經テ単独貸付ノ実行ト成ラバ或ハ以テ日支關係改善ノ一端ニモ資スルヲ得ヘシ

係ノ改善又ハ我對支地歩ノ進展ニモ何等資スル所ナク却テ予想ダモ及ハサル惡結果ヲ招致スルニ終ルベシ

(ハ)一面今回四国団拒絶ノ理由カ北京政府ノ地位確定ヲ借款応諾ノ前提ト為スニ至ラバ右ハ少クトモ表面ニ於テハ五国妥協勸告ノ行掛ヨリスルモ当然ノ歸結ト見ルベキ正論タルノミナラズ北方武断派援助ノ再ヒ来ラムコトヲ危惧シツツアル一般支那民衆ニ對シテハ此ノ態度ハ好感ヲ以テ迎ヘラレ夫レ丈日本ノ単独貸付ナル措置カ益々異常ノ反感ヲ誘致スルニ至ルベシ

(ニ)若シ四国団ノ決議ト無關係ニ北京政府ノ地位確定ヲ前提トセス我ニ於テ隣接特殊ノ關係ヲ理由トシテ単独貸付ヲ行フニ至ラハ列国ノ間ニ誤解ニ誤解ヲ重ネ来レル我日本ノ現地位ニ益々不利ナル影響ヲ来シ累ヲ将来ニ貽シ政治上經濟上国力ノ進展伸張ニ多大ノ障礙ヲ加フルニ至ルヘキハ詳説ヲ俟タス殊ニ新借款問題トノ關係上益々然リ

一、如上ノ理由ニヨリ目下ノ情勢ニ於ケル日本ノ単独貸付決定ハ借款ノ南方分与ヲ実行スルニ拘ラス一面(一)支那ノ擾乱ヲ未然ニ防ク能ハス他面(二)我對支關係ヲ進展改善セ

一六三 九月二十七日

田中陸軍大臣ヨリ
在北京坂西陸軍少將宛(電報)

四国団ガ借款供与ニ応ゼザル場合ニハ日本単独引受ノ所存ナル旨徐總統側ニ通知方訓令ノ件

九月二十七日陸第四七〇号 極秘

坂極秘電第九一号青木電及坂特電第三八号了承

支那大總統始メ当局ノ誠意ハ十分認ムルコトヲ得タルヲ以テ直ニ關係当局ト内協議ヲ遂ケタル結果我方ニ於テモ深く支那政府財政ノ現状ニ同情シ兎ニ角四国団側ヲ經テ財政的援助ヲ為ス様極力尽力スルコトニ内定セリ尤モ右ニ拘ラス万一四国団側ニ於テ到底我勸誘ニ応ゼザル場合ニハ日支協同生存ノ根本義ニ顧ミ相当ノ手続ヲ經タル上我方単独ニテモ借款ヲ引受クル所存ナリ就テハ不日我公使ヨリ改メテ此件ニ付支那当局ニ通知スル所アルベシ貴官ハ此ノ旨不取敢先方ニ伝ヘラレタシ既ニ此ノ如ク日支両當局カ誠意ヲ披瀝シテ肝胆相照ス以上ハ最早貴電第九一号ノ如キ形式ニ亘ル声明ノ如キハ寧ロ水臭キ処置ニシテ我方ノ所望スル所ニアラズ要ハ将来ノ事實如何ニアリト信ス、此ノ旨附ケ加ヘテ伝ヘ置カレタシ又此際先方ヲシテ安心セシムル為メ今回我

方ノ決心ハ全ク兩國ノ交誼ニ基ク友情ノ発露ニシテ何等支那ニ求ムル為ニアラサルコトヲ十分説明シテ年来ノ疑念誤解ヲ一掃スル如ク了解セシメラレタシ別シテ靳雲鵬ニハ毫モ躊躇スルコトナク進テ難局ニ就任セラレ益兩國協同ノ誼ヲ厚クシ以テ此ノ危険ナル極東ノ時局ヲ救済スルノ抱負ヲ実行セラレムコトヲ切望スル旨ヲ伝ヘラレタシ特ニ先方ニ注意スヘキハ単独貸付ニ関スル我政府最後ノ決心ヲ絶対ニ支那側ヨリ他ニ洩サザルコト是ナリ万一支那側ヨリ漏洩スルトキハ其結果本件ノ進行ニ大障礙ヲ来タスヘシ其ノ辺ハ念ヲ入レテ警告シ置カレタシ

此ノ電報ハ首相、外相トモ相談ノ上発スルモノナレバ先方ヘ通知前一応公使ヘ示シ置クヲ要ス。

註 右電報ハ九月二十八日内田外相ヨリ在中国小幡公使宛ニ電報第一一八九号ヲ以テ通報セラレタリ

一六四 九月二十八日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

对中国借款問題ニ関シ中国側ノ動向其他二付

意見提示方訓令ノ件

第一一八八号 至急

往電第一一八六号ニ関シ

貴電第一一四号「ラインシュ」公使ヨリ貴官ヘノ申出ニ對シ貴官ヨリ適當ノ機会ニ何等挨拶ニ及フヘキ關係有之ニ於テハ同公使ハ已ニ離任セル次第ナルモ同公使ヨリ或ハ同國代理公使ニ本件ヲ引継キ居レルヤモ図リ難キニ付貴官ハ同代理公使ニ面会ノ上先ツ同代理公使ニ於テ果シテ右引継ヲ受ケ居ルヤ否ヤヲ夫レトナク確メラレ果シテ引継ヲ受ケ居ル場合ニハ往電第一一六七号及第一一六八号ノ内容ヲ参酌シ此際支那財政援助ノ緊要ナル所以ヲ適宜説明セラレ米國側ニ於テ右協力ヲ希望スルニ於テハ我方ヨリ四國団側ニ可然協議ヲ遂クヘキ旨申入レラレ先方ノ応答振リ回電アリタシ、將又帝國政府ニ於テハ往電第一一六七号ノ通り方針ヲ決定シ其意向ヲ支那当局ニ内告スルト同時ニ本件ノ各方面ニ及ホスヘキ影響如何ヲ篤ト考究スルノ必要有之旁々本件ニ関シ我方ニ於テ今後執ルコトアルベキ措置ニ對スル参考ノ為メ左記条項ニ関スル貴官ノ腹藏ナキ御意見承知致度ニ付何分ノ儀至急御回電相成度シ

(一)貴電第一二八〇号坂西少將ニ對スル靳雲鵬申出ノ三ヶ条実行ニ関スル支那側決意ノ程度

(二)支那財政ノ窮迫ハ殆ド極度ニ近カラントスルヤニ察セラレ現ニ本年六月頃以來財政ノ窮乏甚タシク将来ノ形勢甚タ樂觀シ難キモノアル旨伝ヘラレ居ルモ其後今日ニ至ル迄相当ノ時日ヲ經過セルニ拘ラス未ダ兵變等ノ起ラザル事情

(三)從來ノ例ニヨレバ支那ニ不穩ノ狀況アレバ第一ニ憂慮ノ念ヲ抱クハ外國人ナルヲ常トス然ルニ現在此ノ点ニ付外國人ノ比較的冷靜ナル所以

(四)曩ニ廣東軍政府ヨリ首席公使ニ對シ二千四百万弗借款ニ反對ノ電報ヲ發シタルガ借款ノ一部ヲ南方ニ分与スルコトトナルモ尚軍政府側ニ於テ依然反對ナルベキヤ否ヤ右ニ関スル最近ノ実情乃至觀測

(五)參戰借款ハ一ヶ月分ヲ除ク外全部支那側ニ交付済ニテ而モ統借ノ見込ナキ為メ支那政府側ノ一部ニ於テ之カ補充ノ為メ特ニ本件借款ヲ促進セムトスルカ如キ事情ナキヤ

(六)貴電第一二五八号ニヨレバ英國公使ハ本件借款ハ結局軍閥一派ノ手ニ歸スルニ至ルヘキヲ懸念シ居リ且近來斯ル報道モ流布セラレ居ル処果シテ斯ル虞ナキヤ否ヤ

(七)四國団側ノ話合纏ラサル為我方単独貸付トナル場合ニ於

テ本件借款ノ使途ヲ嚴重ニ監督シ正当ノ使途ニ使用セシムル保障ノ方法如何

一六五 十月三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

李財政総長ヨリ四國団ニ申出アル借款額交付

方斡旋要望ニ付請訓ノ件

第一三一八号

(十月四日接受)

十月三日財政総長李思浩本使ヲ來訪シ二個ノ願アリト述ヘ支那政府ノ財政狀態非常ニ困難ナル事情ヲ説キ、第一、四國団ヘ申出アル借款月額四百萬元ノ交付方ニ付英仏側ヲシテ同意セシムル様日本政府ノ特別斡旋方ヲ願フ旨述ヘシニ付本使ハ支那財政ノ窮迫事情ハ日本政府ニ於テモ十分諒察シ居リ旁過般來既ニ倫敦巴里等ニ於テ英仏側ヲ動カシ之カ応諾方ニ同意セシムル様折角努力中ナル旨ヲ答ヘ置ケリ次ニ總長代理ハ第二ノ要件トシテ四洮鉄道前渡金五百万円至急交付ヲ受度ク右金額ハ差当リ京畿一帶ヲ初メトシ次ニ湖南、湖北次ニ浙江、上海、福建ノ各軍隊ノ給与未払並ニ北京ニ於ケル各機關ノ俸給未払ニ振宛ツヘク決定シ居ルモノニテ若シ右金額ヲ入手シ得ザルニ於テハ財政部ノミナラス

支那政府トシテ到底切脱ケ得サル難関ニ遭着スヘントテ尚ホ目下ニ於ケル各軍隊側支払停滞ノ実況ヲ懇ヘ居リタリ依テ本使ハ之ニ対シ本件前渡金ガ元々日支両当事者間ノミニ全ク内密ニ附セラルヘキ筈ナリシニ既ニ外間ニモ漏レタル模様ナルニ付テハ南方側ノ中央ニ対スル異議其他ノ関係上日本側トシテモ甚ダ工合悪キ羽目トナレル関係モ有之コトヲ指摘シタル処李代理ハ右金額ノ實際損員ニ付テハ尚十分責任ヲ以テ是ヲ秘シ得ルコトヲ保証スベシト述べ兎ニ角財政状態斯ク迄容易ナラサル場合ニ付既ニ数日ヲ残スノミナル中秋節季前迄ニ是非トモ入手シ得ル様折入リテ日本政府ノ援助ヲ求ムル旨繰リ返シ居リタリ要スルニ支那ノ財政窮迫ノ状ハ李代理本日ノ談ニ徴スルモ今ヤ焦眉ノ急ニ迫レル義ニテ右前渡金ニ対シテハ往電第一三一一号ヲ以テ申進シ置キタル次第モアル処此際支那政府ノ希望ヲ容レ之ガ援助ヲ与フルノ外ナカルヘク李代理ニ対シ其申入ニ付直チニ閣下ヘ電報スヘキ旨答ヘ置キタル義ニ付至急御詮議御決定ノ上結果御電訓相成度シ

一六六 十月三日 在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

第一三二〇号

(十月四日接受)

貴電第一一八八号前段ニ関シ

十月三日日本使米國代理公使ヲ訪問シ本件ニ関シ同代理公使ガ前公使ヨリ何等引継ヲ受ケ居ルヤ確メタル処同代理公使ハ何等ノ引継ヲ受ケ居ラズト答ヘタルニ付本使ハ前公使トノ談話ノ顛末ヲ詳細ニ説明シタル上対支財政援助ニ対スル其ノ所見ヲ叩キタルニ同代理公使ハ此ノ際必要ナル財政援助ヲナシ得ザルハ一ニ新借款団ノ成立遅々タルニ帰セザルヲ得ズトシ而カモ其ノ原因ハ日本ノ提出セル滿蒙除外ニ関スル条件ニアル次第ヲ指摘シ自分モ支那政府ノ窮迫セル財政状態及是ヨリ誘致シ来ル秩序ノ破壊兵乱ノ發生ノ頗ル憂フベキモノアリ此ノ際何等カノ援助ヲナスノ至当ナルハ貴下ト其ノ見ヲ同ウスル処ナリト述べ実ハ過日代理公使ニ就任以來既ニ数回モ本國政府ニ新借款団成立促進方ヲ建議シ当地ニテハ英國公使トモ意見ヲ交換シタル次第モアリ英國公使ノ滿蒙除外問題ニ関スル意見ハ自分モ大体賛成スル処ニシテ新借款団 operationノ範圍外ニ滿蒙ノ如キ大地域ヲ置カントスル general exemptionノ案ハ英國政府ニ於テモ強硬ニ反対(firmly opposed)ヲ表シツツアル趣ニテ一応

借款供与反対ノ広東軍政府ヨリノ申出ニ関シ
報告ノ件

第一七一号

(十月四日接受)

軍政府ハ十月一日外交部員ヲ本官ニ遣ハシ左ノ如キ覚書ヲ提出シタリ本官ハ唯非公式ニ之ヲ受領シ置ケリ。
本政府ニ於テ聞ク処ニ依レバ北京当局ハ銀行団ニ向ツテ善後借款項下ニ於テ先ツ前渡金ノ交付ヲ請求セシ由ナルガ唯北京政府ノ借款ハ其性質如何ニ論ナク内部ノ紛争ヲ延長シ南北和議ヲ阻害スルモノニシテ各国ハ既ニ一日モ早ク和平回復ヲ希望スル旨宣言セシ次第ナルヲ以テ軍政府ハ北京政府カ若シ果シテ前渡金ヲ請求スルモ或ハ其他何種ノ借款ニ論ナク(脱)ハ決シテ之ヲ允許セサルコトト深く信ズルモノナリ

尚右覚書ハ英米仏伊四國大使ニ交付セシ由ナリ、
在支公使、上海総領事ヘ電報セリ

一六七 十月三日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国財政援助及滿蒙除外問題ニ関シ米國代理公使ト意見ヲ交換セルニ付報告ノ件

尤ト思考スルモ同地域ニ於ケル日本特殊利権丈ハ之ヲ除外(specific exemption)スル位ノ程度ニテ新借款団モ円満ニ結了センコトヲ希望ス(本使惟フニ滿蒙除外問題ニ関シ英國政府ヨリノ諮問ニ対シ英國公使ハ前記ノ如キ意見ヲ答申セルニアラズヤト推察セラル)ト述べタリ依テ本使ハ所謂滿蒙除外ト称スルハ余リニ概括的ニシテ帝國政府ノ真意ヲ適當ニ表示スル言葉ニアラズ日本ハ滿蒙ニ全然外国ノ投資ヲ排斥スルモノニアラズ

只同地ニ関スル我特種ノ地位ニ顧ミ或ル種ノ投資ハ之ヲ外國ノ手ニ委スルヲ欲セサルモノアリ而シテ此種ノ投資ヲ新借款団ノ範圍ニ委スルヤ否ヤヲ決スルハ全然日本自身ノ判定ニ委セラレンコトヲ希望スルニ過キス兎ニ角新借款団組織申出ハ今正ニ關係各国ニ商議中ニアルモ果シテ予期ノ如ク直ニ成立スルヤ否ヤモ明ナラス而カモ一方支那政府ノ窮狀ハ一日モ看過シ得サル狀況ニアリ此上財政援助ヲ際限ナク遷延シ難キ様認メラルルニ付テハ此際日英仏ノ旧四國団員ニ米國ヲ加ヘ新借款団成立迄必要ナル援助ヲナスコト此際ニ処スル最良ノ方法ト思考スト述ヘタル処米國代理公使ハ夫レモ一案ト考フルニ付御請求トアラハ本國政府ニ電報

シ其意見ヲ問合スコトスルモ差支ナキ旨答ヘタルモ本使ハ右ハ元來本使限リノ私見ニテ何等本國政府ノ訓令ヲ帶ヒ居ル次第ニハアラザルカ故ニ本使ノ要求トシテ本國ニ打電セラルコトハ差控ヘラレタシ只對支財政援助問題ニ関シ貴下ト腹藏ナキ意見ノ交換ヲ遂ケタキ所存ニテ來訪セル次第ナリト述ヘ引取レリ要スルニ米國代理公使ハ財政援助ニ米國加入方請求トアラハ本國ニ意見問合スヘシト迄云ヘルニ見ルモ同代理公使ハ此際ノ財政援助ヲ以テ寧ロ已ムヲ得ズト認メ居ルカ如シ前記貴電後段ニ関シテハ別ニ電報ス

一六八

十月四日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

日本ノ單獨貸付問題ニ関連シ新雲鵬申出実行

ノ決意如何並中国財政窮乏狀態其他ニ関スル

諮問ニ對シ意見回示ノ件

第一三二五号

(十月五日接受)

貴電第一一八八号末段御下問ノ各項ニ對スル卑見大要左ノ通り

(一)支那政府当局者トシテハ從來トテモ日本ノ疎外スベカラ

ザルコトハ十分ニ感知シ居リ山東問題ノ如キモ今日ノ如キ何時迄モ不定ノ狀態ニ置クコトハ決シテ其本意ニアラズ其斷然タル処置ニ出デザルハ唯一般輿論ノ反動ヲ恐レ邁進ノ勇氣ヲ欠クニ依ルモノト見ルノ外ナキハ疾ク御了悉ノコトト存ゼラル、尤モ靳雲鵬ノ如キ其我方ニ對シ從來ノ關係ニ徴スルモ將又段祺瑞ヲ背景トスル其政治上ノ潛勢力ニ顧ミルモ同人ノ親日的決意及之ガ実行ノ手段ニ對スル自信ハ恐ラク龔心湛等ノ遠ク及ハサル処ナルベク從ツテ坂西ニ對スル言明ハ相当真摯ナル意義ヲ有スルコトト察セラルルモ而モ之ヲ現實ニ施サントスルニ至ラハ恐ラクハ幾多ノ障害続出シ彼等自身ノ決意如何ニ強クトモ之カ実行ハ其実力上蓋シ容易ノ業ニアラサルベシ元來今回ノ財政援助ニ付日本之ガ主動トナリ若クハ日本專ラ之ニ當リ以テ支那側ノ對日感情ノ一般の緩和乃至改善セラレンコトヲ望ムハ素ヨリ可ナルモ直ニ之ヲ山東問題其他當面ノ具體的案件ニ結び付ケ財政援助ノ之等ノ案件ニ及ボスベキ直接ノ効果ヲ期待スルカ如キハ本使ノ贊同致シ兼ヌル処ナリ右ハ往電第一二五九号等ニテ略明カナルモ尚為念申進ス

(二)最初漸ク財政窮乏ヲ伝ヘラルルニ至リタル頃ハ外交團側ノ態度モ頗ル強硬ナリシガ其後六月末以來外交團ノ方針モ變更シ(往電第八九一号参照)關稅剩余ノ引渡等ニ依リ一時財政上多少ノ融通ヲ生ジ支那政府ハ兎ニ角之ニテ一ト息吐キタル次第ニシテ此等一時ノ余裕ハ之ヲ各地軍隊中最モ動乱ノ起リ易キ地方其他不平最モ多カルヘキ中央及地方ノ官庁ヘ小刻ミニ振分け急場ヲ糊塗シ來リタルモノト推セラル然レトモ斯ル手段ハ到底際限ナク行ハルヘキニアラズ早晚絶對的窮乏ノ域ニ達スルコトアルベシ

(三)支那ニ於ケル變乱ニ對シ從來外國人カ神經過敏ナリシ例ハ事件突發スル場合ニ多クシテ事前ニ於テハ愈々トナル迄却テ吞氣ナルヲ常トスト存ス徳川カ御來示ノ趣旨ニ依リ夫レトナク二、三外國人ニ質問シタル際ニ於ケル彼等ノ答モ略ホ同様ナリ彼等モ軍隊給料不渡等ノ為危難ノ虞アルコトハ十分認メ居ルモ直ニ勃發スヘキヤ否ヤニ付テハ余リ考慮ヲ払ヒ居ラザルヤニ見受ケラル現ニ在英大使發閣下宛電報第四三一号「タイムス」通信ハ徳川「フレ

ザー」ニ就キ一見シタルガ右ハ可成リ切実ニ軍隊殊ニ湖南各軍ノ不穩ヲ報道シ居ルモノナルカ同人自身モ其勃發

ノ結果ニ関シテハ外國人ノ生命財産ニハ格別ノ危害ナカルヘシトテ非常ナル憂慮ヲ懷キ居ルトモ見受ケラレザリシ趣ナリ

(四)当地四國団代表者發倫敦本部宛電報中ニ軍政府反對党ノ件ヲ謠ヒアル魂膽ニ付テハ往電第一三一五号ヲ以テ本使ノ觀察電報致シ置キタルガ支那当局側ニ於テハ此点ニ付テハ既ニ南方側ト十分意思ノ疏通アルモノノ如ク龔心湛先ニ本使ニ對シ之ヲ洩シ昨三日李思浩來訪ノ際確メタルニ之又此点ハ懸念ニ及ハザル旨申述ヘ居リタリ

(五)參戰借款ニ付テハ坂西少將ト支那側トノ間ニ統借ノ話アル趣内聞ス右ニ付テハ同少將ト參謀次長及陸軍大臣トノ間ニ往復アル趣ニ付右ニテ御承知アリ度乍序右ニ關スル政府御意向伺ヒ置キタシ

(六)英國公使ノ所謂軍閥一派ノ手ニ歸ストノ的確ナル意義ハ稍々明瞭ヲ欠クモ現政府ガ軍閥ノ一部ヲ中心トシ又一方軍閥一部ノ後楯ヲ有スル安福系ト密接ナル關係ニ在ル以上本件借款使途カ直接又ハ間接中央軍閥側ノ方寸ニ左右セラルルノ結果トナルヘキハ寧ロ當然已ムヲ得ザル所ト云フヘク英國公使ノ如キハ軍閥ニ對スル借款ニ反對ト云

二 中国改革借款二件 一六九 一七〇

ハンヨリハ寧ロ軍閥ヲ中心トスル政治其者ニ嫌焉タラザルモノト見ルヲ当レリトスベク、其ノ動機モ蓋シ單純ナラズシテ北洋軍閥ガ比較的日本ト親善ナルコトニ対スル一種ノ反感モ交リ居ルヘキハ同公使談話中ノ口吻ニ依ルモ略推測セラルル節アリ一般外人側ノ感想モ惟フニ大同小異ナルヘシ若シ夫レ本件借款カ彼等ノ私腹ヲ肥シ若ハ其ノ党勢扶植ニ利用セラルルノ虞ナキヤ否ヤノ点ニ至リテハ四国団ニ於テ本件借款ニ応スルコトナル以上相当其ノ使途監督ノ方法ヲ立ツルヲ条件トスヘシ是等方法ニ付テハ後段(七)ニ譲ル尚四国団ガ二千四百萬元借款ニ応スベキヤ否ヤニ関シ「フレーザ」ハ徳川ニ対シ全然自分限リノ觀察トシテ目下英國政府内及英國銀行団側ノ意嚮ハ日本ヲ一員トスル新借款団ノ成立ノ見込立タザル内ハ日本ノ驥尾ニ附シ軍閥ヲ中心トスル現政府ヲ援助セントスル本借款ニハ応ズルヲ肯ゼザル方可然ト謂フニアラズヤト思ハルト語リタル趣ナリ序ヲ以テ申添フ

(七)日本单独貸附ノ場合ニ於ケル使途監督ノ方法ハ全然之ナキニアラザルベク例ヘバ借款金額ヲ銀行ニ保管シ之カ引出シニハ相当責任官吏ノ捺印アル信憑書類ノ提出ヲ必要

一六〇

トスルカ如キ一方法ナルヘキモ見方ニ依リテハ或程度以上ハ形式ニ了ハルト謂ハザルベカラザルヤモ計リ難シ右ハ都テ武内モ同感ナリ而シテ右四国団引受ケノ場合ニ於テモ同様ナルベシ

一六九 十月五日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

对中国借款問題其他ニ関スル諮問ニ対シ回答
方督促ノ件

第一二〇二号

往電第一一八六号及往電第一一八八号ノ件ハ其後如何相成居レルヤ右往電第一一八八号後段ニ対スル貴見ト共ニ成ルヘク速ニ承知致度ニ付回電アリタシ

一七〇 十月六日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

对中国借款問題ニ関シ外交ルートニ依ル申入
方ノ訓令未執行ノ事由等ニ付稟申ノ件

第一三二九号

貴電第一二〇二号拝承

貴電第一一八八号ニ対シテハ往電第一三二〇号及第一三二五号ヲ以テ電報シタルガ貴電第一一八六号ニ関シテハ本件帝國政府ノ決意ハ青木中將、坂西少將ヨリ既ニ十分支那側ニ通シ居リ此上改メテ本使ヨリ申入ルルハ却テ為ニスル処アリテ我好意ヲ押売スルカ如キ感触ヲ先方ニ与フルノ虞アリテ甚ダ面白カラズト思考セラレ一面倫敦四国団側ノ意向モ未タ判明セザル此際ニモアリ結局ハ或ハ日本单独貸附ノコトトナルトスルモ余リニ前触レノミ多キハ事ニ益ナシト認メ旁以テ本使ニ於テハ未ダ御訓令ヲ施行シ居ラザル次第ナリ

由來本件財政援助ヲ餌トシテ殊更ニ山東問題其他ノ具体的案件ニ対スル支那政府ノ態度ヲ我ノ有利ニ導カントスルハ偶々先方ニ面白カラザル感触ヲ起サシムベシト思考セラルルコトハ往電第一三二五号(一)中ニモ申進シタル通りナルノミナラズ帝國政府トシテハ先以テ四国団ノ關係ヲ顧慮シ若シ彼等ニ於テ借款ニ応スルヲ欲セザル場合ニ対シテハ尚我ニ於テ取ルベキ措置ハ多クアリテ動モスレバ单独貸附ハ容易(不明)ニアラサルコト洵ニ当然ナル処陸軍大臣ノ訓令ニ基ク青木、坂西ノ申入ガ余リニ早カリシ為其後数週ヲ経

ルモ四国団ノ意向サヘモ判明セズ日本側ノ所謂尽力ノ効果一向ニ現ハレザル為我方トシテ決シテ徒ニ遅延シ居ル訳ニアラザルベキモ支那側トシテハ幾分待チアグミノ氣味アリ此ノ辺ノ呼吸モアリト思考セラルルニ付御訓示ノ次第申入ノ義ハ今少シ先ヘ寄リテ之ヲ為スコトト致シタク其ノ時機ハ本使ノ裁量ニ御一任アランコトヲ請フ

尚序ナガラ四国団拒絶ノ場合ニ日本单独貸付ノ用意アリトノ報道或ハ日本新聞ノ転載トシ或ハ転載トセズシテ弗々支那新聞ニ見エ居ル処日本側ヨリ右意向ヲ支那政府ニ内告セリトノ説外部ニ伝ハリ居ル趣ニテ今六日路透通信員ヨリ徳川ニ実否問合セ来リタル趣、四国団ノ意向サヘモ判明セサル今日斯ル噂ノ漏ルルハ甚ダ面白カラズト存ス

因ニ徳川ハ右内告云々ハ全然事実ニアラザル旨答置キタル趣ナリ(六日)

一七一 十月九日 在本邦英國大使館ヨリ
日本外務省宛

日本ノ对中国单独借款説ニ対スル所見並列国
共同ニ依ル五百万磅借款ニ関スル英國側提案
ニ付申越ノ件

British Embassy,
Tokio.

Confidential.

MEMORANDUM.

On October 7th His Majesty's Minister made enquiries of the Japanese Vice-Minister for Foreign Affairs respecting a report in the "Japan Advertiser" to the effect that a loan of Yen 24,000,000 was to be made by Japan to China in pursuance of an understanding arrived at between Japan, Great Britain and France. Another rumour attributed to Japanese financiers the intention of making monthly advances of \$4,000,000 to the Chinese Government for a period of six months.

Mr. Hanihara stated that there was absolutely no truth in either of the above reports and, after describing the recent discussions respecting the request of the Chinese Government for a loan of \$4,000,000 assured Mr. Alston that the Japanese Government had no intention of acting independently

of other Powers concerned.

His Majesty's Minister did not fail to report the above conversation to His Majesty's Government, but his telegram has crossed one from the Foreign Office in London referring to the above reports and instructing him to dissuade the Japanese Government from making any independent advance to China or from permitting any Japanese Banks from doing so, should either the one or the other contemplate such a step, until His Majesty's Government have had time to submit to the Japanese Government and to the other Governments concerned certain alternative proposals which are to the following effect:—

1. That the Japanese, British, American and French groups should, with the official support of their Governments and without delay, make an immediate loan (not exceeding £5,000,000) to China.
2. That it should be made without prejudice to the conditions which may be attached to future loans or to discussions now proceeding respecting the ex-

clusion from the scope of the Consortium of specific areas.

3. That the loan should be secured on the surplus salt revenue and be applied solely to meeting the urgent needs of China.

4. That two conditions should be attached to the loan, namely (a) that the negotiations between the Northern and Southern parties should be resumed without delay; and (b) that a large number of unnecessary troops should be disbanded, including those of the War Participation Bureau and these raised for the purpose of the expedition into Mongolia.

5. That the four Governments and the four groups should control the application of the proceeds of the loan and the disbandment of the troops in question.

His Majesty's Minister is moreover instructed to point out to the Japanese Minister for Foreign Affairs that the proposal of the American Government for the formation of a new Consortium to in-

clude the Four Powers, in lieu of the existing one, has been accepted unreservedly by the French and British Governments, whilst the Japanese Government themselves have accepted it subject only to reservations which are now being discussed in respect of certain specific areas. His Majesty's Government therefore consider that it would not be right that an advance, which would presumably have to be repaid eventually out of the proceeds of the loan the new Consortium proposes to issue, should be made independently to the Chinese Government by one of the groups of the Old Consortium.

His Majesty's Minister is also instructed to draw the attention of the Imperial Minister for Foreign Affairs confidentially to the fears felt by His Majesty's Government that any independent action by the Japanese group, taken without the assent of their colleagues in the Old Consortium and of the American group, might have the very undesirable result of forcing other Governments and groups to proceed

without Japanese Cooperation to make independent arrangements with the Chinese Government, a course to which they would be impelled for the protection of their own interests.

In view of the assurances given by Mr. Hanihara, to which reference is made in the second paragraph of this Memorandum, His Majesty's Minister feels confident that there is no intention on the part of the Japanese Government or Japanese financiers to make independent advances to the Chinese Government; but in compliance with his instructions he ventures to communicate the views of His Majesty's Government on this subject as set forth above.

October 9th, 1919.

(欄外註記)

「大正八年十月九日英代理大使来談手交（エリオット同伴）」

(右和訳文) (註 仮訳文ナリ)

覚書

日本ハ日英仏三国ノ了解ニ基キ支那ニ対シ二千四百万円ノ

ベキコト

二、前記借款ハ将来ノ借款ニ附加セラルヘキ条件ニ対シ又ハ一定ノ地域ヲ借款団範圍ヨリ除外スル懸案商議ニ対シ何等影響ヲ与フルモノニ非ザルコト

三、該借款ハ塩税剩余金ヲ担保トシ且単ニ支那ノ緊急必要ニ応スルモノタルベキコト

四、該借款ニハ二個ノ条件ヲ附加スヘキコト即チ(イ)南北和平会議ヲ遲滞ナク再開スベキコト及(ロ)多数ノ不必要ナル軍隊ハ之ヲ解散スヘキコト但シ参戦軍籌備処所屬兵並蒙古出征ノ目的ヲ以テ徵募シタル兵ヲ含ム

五、四国政府及四国団ハ借款資金ノ用途及当該軍隊ノ解散ヲ監督スヘキコト

英国公使ハ現借款団ニ代ルヘキ四国ヨリ成ル新借款団ノ組織ニ関スル米國政府ノ提案ガ仏英兩國政府ニヨリ何等ノ保留ナク承認セラレ且ツ日本政府モ亦一定地域ニ関シ現ニ論議セラレ居ル保留ノ外之ヲ承認セルコトヲ日本外務大臣ニ指摘スヘキ旨ヲモ訓令セラレタリ故ニ英國政府ハ新借款団ニ於テ発行セムコトヲ提議スヘキ借款ノ資金中ヨリ結局償還セラルルコトトナルヘキ前渡ヲ旧借款団所屬ノ一団体カ

借款ニ応スヘントノ「ジアパン、アドヴァタイザー」ノ記事ニ関シ十月七日英國公使ハ日本外務次官ニ対シ問合ス所アリ尚他ノ風説ニ依レバ日本財業者ハ支那政府ニ対シ六ヶ月間毎月四百万弗ノ前渡ヲナスノ意思アリト云ヘリ

埴原氏ハ右ノ報道ハ何レモ全然其根拠ナキモノナルコトヲ述ヘ尚支那政府ノ四百万弗借款要求ニ関スル近来ノ商議ヲ述ヘタル後「オルストン」氏ニ対シ日本政府ハ関係諸國ト離レ单独ニ行動スルノ意思毫モ之レナキコトヲ確言セリ

英國公使ハ前記会談ノ次第ヲ英國政府ニ報告シタリ然ルニ右電報ト行違ニ倫敦外務省ヨリ電報ニ接シタル処該電報ハ、前記ノ報道ニ関連シ同公使ニ対シ、英國政府カ日本政府及其他ノ関係國政府ニ対シ之ニ代ハルヘキ左記要領ノ提議ヲ為スニ先チテ、日本政府ニ於テ支那ニ対シ单独前渡ヲ為シ若クハ日本銀行家カ同様ノ措置ニ出ヅルヲ許可スルコトナキ様(日本政府又ハ日本銀行家ニ於テ斯カル措置ヲ執ルノ計画アラバ)日本政府ニ忠告スヘキ旨ヲ訓令シタルモノナリ

一、日、英、米、仏國団ハ各自政府ノ援助ノ下ニ遲滞ナク支那ニ対シ即時借款(五百万磅ヲ超過セザル)ニ応ス

单独ニ支那政府ニ融通セントスルハ正当ニアラズト思考ス英國公使ハ、更ニ英國政府ハ日本団体ニ於テ旧借款団ノ團員及米國団体ノ同意ナク单独ノ行動ヲ取ルトキハ他國政府及団体ヲシテ其ノ利益保護ノ為メ余儀ナク日本ト協力スルコトナク支那政府トノ間ニ独立ノ協定ヲ為サザラ得ザラシムルカ如キ甚タ好マシカラザル結果ヲ誘致スルニ至ラムコトヲ虞ルルモノナル旨内密ニ日本外務大臣ノ注意ヲ喚起スヘキ訓令ヲ受ケタリ

本覚書ノ第二段ニ指摘セル埴原氏ノ証言ニ顧ミ英國公使ハ日本政府及日本財業者ニ於テ支那政府ニ対シ独立ノ前貸ヲ為スノ意嚮ナキコトヲ確信ス乍去英國公使ハ其ノ受ケタル訓令ニ従ヒ上述ノ通り本問題ニ関スル英國政府ノ所見ヲ通告セムトスルモノナリ

千九百十九年十月九日

一七二 十月十一日 在本邦中国学生總會ヨリ
内田外務大臣宛

二千四百万元及五百万元ノ对中国借款供与ニ
反对ノ旨申出ノ件

二 中国改革借款一件 一七三 一七四

(十月十三日接受)

敬啓者抛内外新聞所宣伝

貴国又将貸給敵国北京政府以二千四百万元及五百万小借款
当此敵国南北和議未告竣以前敵總會認此種借款為殺我中華
民国五億国民之利器中日借親善弥增危險茲特敬懇
閣下中止此種借款交涉以免重傷友誼是為至幸
大日本帝国内田外相閣下

大中華民國留日學生總會(印)

(東京市神田區三崎町一ノ五)

大中華民國八月十一日

一七三 十月十七日

在広東太田総領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二千四百万元借款ニ反对ノ旨日本政府ニ伝達

方岑春煊ヨリ依頼ノ件

(欠号)

(十月十八日接受)

今十七日岑春煊ヲ訪問セル処最近新聞ニ北京政府ハ日本ヨ
リ二千四百万円ノ借款ヲ受クルトノ記事アリ目下南方ノ一
部ニハ非法政府討伐ヲ主張スルモノアルモ軍政府ハ南北統
一ヲ熱望スル為彼等ニ対シテハ軍資ナキヲ口実ニ之ヲ慰撫

処所屬兵及蒙古出征ノ目的ヲ以テ徵募シタル兵ヲ含ム)並
匈ノ内四国政府及四国団ニ於テ該軍隊ノ解散ヲ監督スヘ
キコトノ二点ハ帝國政府ノ所見ヲ以テスレハ右ハ或ハ支那
ノ利益ヲ考慮セル親切ナル動機ニ出デタルヤ難計モ苟モ一
独立国家ニ対シ其軍隊ノ解散及監督方ヲ借款ノ条件
トシテ強要セントスルガ如キハ明ニ内政干涉ノ範圍ニ入ル
モノニ有之現ニ昨年十二月二日ノ支那南北首腦者ニ対スル
五国勸告文中ニ

『日、英、仏、伊、米ノ各国政府ハ南北双方ニ於テ從來
其乖離ヲ招キタル各種難件ノ解決ヲ図ラントスル努力ニ
深厚ナル同情ヲ表スルニ当リ五国政府ハ何等干涉ノ企圖
ヲ有セズ』

云々ト有之參戰軍解散ノ如キハ明ニ南北両者和平會議ニ於
ケル難件ノ一ニシテ當時五国政府ハ右ニ対シ干涉ノ企圖ヲ
有セザルコトヲ声明シタルモノニ相違ナキニ不拘借款問題
ニ関連シテ此際之ヲ翻サントスルカ如キハ帝國政府ノ遽ニ
同意シ難キ処ナリ将又之ヲ實際ノ方面ヨリ攷フルモ軍隊ノ
解散ニハ相当ノ費用ヲ要スルコト勿論ニシテ所謂不必要
ナル軍隊ノ兵数ハ未ダ帝國政府ニ於テ承知セザル処ナルモ

二 中国改革借款一件 一七五

シ居ル有様ニシテ軍資ノ有無ハ和議ノ進行ニ非常ナル影響
アル次第ニ付日本政府ハ右様借款ニ応ゼザル様本官ヨリ其
ノ意ヲ伝達方依頼アリタリ本件先方ノ誤解ヲ解ク為御差支
ナキ限り回示ヲ謂フ
在支公使ヘ転電セリ

一七四 十月十八日 閣議決定

列国共同ニ依ル对中国五百万磅借款案ニ関ス

ル英国提議ニ対シ回答ノ件

覚書

帝國政府ハ支那財政援助問題ニ関スル千九百十九年十月九
日附英国公使閣下覚書ヲ受領セル処右覚書ニ依レバ英国政
府ハ本問題ニ付追テ關係各国政府ニ対シ提案セラレムトス
ル趣ナルモ帝國政府ハ此際先以テ右英国政府提案ノ趣旨ニ
対シ帝國政府ノ所見ヲ開陳スルヲ以テ有益ナリト思考ス
前記英国公使覚書所載提案ノ趣旨ハ大体ニ於テ帝國政府ノ
考案ニ合致スルモノト認メラルル旨ヲ回答スルハ帝國外務
大臣ノ欣幸トスル処ナリ但シ同提案列記事項中(四)即チ
多数ノ不必要ナル軍隊ハ之ヲ解散スヘキコト(參戰軍籌備

之ガ解散ニ付テハ莫大ノ費額ヲ要スヘク然ルニ本件五百万
磅以内ノ借款案ニシテ仮ニ二千四百万弗借款(支那政府ヨ
リノ申入ニ基キ目下四国団ニ於テ協議中ニ係ル)ニ基クモ
ノトセバ該借款ハ右ノ如キ軍隊解散ノ使途ニ充ツルノ余地
ナキハ明白ナル次第ナルニ付旁々此ノ点ハ英国政府ニ於テ
更ニ篤ト考慮セラレムコトヲ希望ス

尚ホ爰ニ一言附言センニ日本ハ領土接壤ノ結果特ニ支那ノ
治安保持ニ付緊密ノ關係ヲ有スルヲ以テ自然其ノ執ルベキ
措置ニ付特異ノ考慮ヲ為サザルヲ得ザルカ如キ場合之ナキ
ヲ保セズト雖將來若シ右ノ如キ場合ニ遭遇スルコト有之ニ
於テハ帝國政府ハ予メ特ニ關係各国政府ニ知照ヲ遂グベキ
所存ナリ

(欄外註記)

「大正八年十月十八日閣議決定(内田外相印)」

註 右対英回答案ニハ後ニ若干ノ修正ヲ加ヘ十月二十八日英国

大使館ニ送付シタリ後出一二七四文書参看

一七五 十月十八日

内田外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛(電報)

列国共同ニ依ル对中国五百万磅借款案ニ関ス

一六七

ル英国提議並我方回答ニ付通報ノ件

第三六二号

十月九日英国公使「オルストン」ヨリ大要左ノ趣旨ノ覚書ヲ提出シタルヲ以テ十月二十一日外交調査会ニ附議シタル上大要別電第三六三号ノ通り同公使ニ回答ノ答ナリ不取敢御含迄

『英国公使ハ日本カ支那ニ対シ单独ニ二千四百万弗借款ヲ為スヘシトノ報道ニ関連シ本国政府ヨリ同政府ハ関係各国政府ニ対シ左記要旨ノ提議ヲ為サムトスルニ先チ日本ニ於テ支那ニ单独前渡ヲ為スコトナキ様日本政府ニ申入ルヘキ旨訓令ヲ受ケタリ

一、日、英、米、仏国団ハ各自政府ノ援助ノ下ニ遲滞ナク支那ニ対シ即時借款(五百万磅ヲ超過セザル)ニ応スベキコト、

二、前記借款ハ将来ノ借款ニ附加セラルヘキ条件ニ対シ又ハ一定地域ヲ借款団範圍ヨリ除外スル懸案商議ニ対シ何等影響ヲ与フルモノニ非サルコト

三、該借款ハ塩税剰余金ヲ担保トシ且単ニ支那ノ緊急必要ニ応スルモノタルベキコト

英国提議ノ借款条件タル軍隊解散及監督問題

二 関シ稟申ノ件

第一三八四号 至急

貴電第一二二九号ニ関シ

更ニ熟慮スルニ軍隊解散及之ガ監督ヲ借款ノ条件トスルニ反对セラレントスル主タル動機ハ恐ラク從來我勢力ノ下ニアリト称セラルル所謂参戦軍ヲモ解散スルコトナル場合ニ鑑ミ予メ之ニ備ヘントスルニアルコト察セラルル処財政上將又一般政事上軍隊解散ノ必要ハ一般外人ノ齊シク唱道スル所ニ係リ軍隊解散ノ伴ハサル政事借款ハ殆ト無意義ニシテ真ニ支那ヲ救フ所以ニアラズトハ彼等ノ夙ニ一致セル処ナルハ疾ク御承知ノ通ナルノミナラズ、支那有識階級亦之ヲ是認シ居ルハ勿論ナルモ其実行ニ至リテハ之ヲ支那人ノ手ニ任スニ於テハ百年河清ヲ俟ツト一般到底望ミ難キ処ナルハ中外共等シク之ヲ認ムル処ナリ從テ必スヤ外人ノ監督ニ俟タザルベカラサルヤ又論ヲ俟タズ曩ニ第一改革借款実行ノ場合ニ軍隊解散ノ実ヲ擧ゲ得ザリシモノニ外國資本家側ニ於テ之カ監督ノ途ヲ講ゼザリシニ因ルハ今日明ニ四国銀行団代表者ノ自認スル所ナリ旁以テ英国政府

四、該借款ニハ二個ノ条件ヲ附加スヘキコト即チ、(イ)南北和平會議ヲ遲滞ナク再開スヘキコト及(ロ)多数ノ不必要ナル軍隊ハ之ヲ解散スヘキコト但シ参戦軍籌備処所属兵並蒙古出征ノ目的ヲ以テ徵募シタル兵ヲ含ム

五、四国政府及四国団ハ借款資金ノ用途及当該軍隊ノ解散ヲ監督スヘキコト

又英国政府ハ新借款団ニ於テ發行セラレントヲ提議スヘキ借款ノ資金中ヨリ結局償還セラルルコトナルヘキ前渡ヲ旧借款団所屬ノ一団体カ单独ニ支那政府ニ融通セムトスルハ正当ニアラスト思考ス尚英国公使ハ曩ニ埴原次官カ前記報道ニ関連シ同公使ニ対シ日本政府ハ関係諸国ト離レ单独ニ行動スルノ意思ナキ旨確言セラレタルニ顧ミ日本ニ於テ独立前貸ノ意嚮ナキヲ確信スルモ本国政府ノ訓令ニ基キ右ノ通り通告セムトス』

右別電ト共ニ米仏ニ転電アリタシ

註 別電第三六三号ヲ省略ス該電報ハ前掲ノ閣議決定案ノ大要ナリ

一七六 十月二十一日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ガ軍隊解散及之ガ監督ヲ借款ノ条件トシテ提出シタルハ蓋シ偶然ニ非ズト信ズ而シテ日本ニシテ此際内政干涉ヲ避ケンガ為ト称シ之ニ同意セザランカ外国側ハ之ヲ唯サヘ論難ノ種トナリ居ル日本對支那軍閥ノ關係ニ結ビ付ケ帝國政府ノ底意ヲ邪推スヘク少クトモ日本ハ財政上支那ヲ救ハントスル誠意ナキモノト為スコ大局上甚ダ面白カラズト思考ス而シテ一方参戦軍ニ関シテハ帝國政府ハ英国政府ニ対シ虚心坦懷ニ参戦軍ノ如キハ殆ド支那唯一ノ新式軍隊ニシテ斯クノ如キハ最モ解散ノ必要尠キモノニ属スル事ヲ説示シ先方条件(四)括弧内参戦軍ハ之ヲ含ムトノ趣旨ハ之ニ賛成シ難ク少クトモ最後ニ解散セラルヘキモノト信セラルル旨回答スルカ若ハ裁撤スヘキ軍隊ノ種類ハ余リニ内政ニ立入り過クルノ見地ヨリ全然支那政府ノ裁量ニ一任スル方可能然旨ヲ言明セラレ然ルヘシト信ス本件ハ既ニ外交調査会ノ御決定ヲ經タル後カトハ思料スルモ更ニ御再考ヲ仰キ度卑見稟申ス

註 外務大臣宛在英珍田大使宛往電第三六三号全文ヲ転電セルモノナリ

二 中国改革借款一件 一七七 一七八

一七七 十月二十三日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

英国提議ノ所謂独立前貸ノ意義ニ関シ回訓ノ
件

第一二四五号

貴電第一三三七号ニ関シ

往電第一二三八号英国公使宛書末段ニ所謂独立前貸云々ハ
日本カ関係国ト何等協議スルコトナク独立ニ前貸ヲ為サザ
ルヘキヲ云為セル意味ニテ正金銀行カ曩ニ第二次改革借款
前貸トシテ行ヒタルカ如ク各国側トノ間ニ了解成立ノ上ニ
テ資金全部ヲ日本单独ニテ引受クルカ如キ場合ヲ意味スル
モノニハアラザルニ付此ノ点ハ御来示ノ如キ懸念之ナシト
思考ス為念

一七八 十一月一日 内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛 (電報)

英国提議ノ借款条件タル軍隊解散及監督問題

ニ関スル措置ニ付通報ノ件

第一二七四号

貴電第一三三八号ニ関シ

一七〇

御来示ノ次第ハ篤ト考慮セルモ何分他国軍隊ノ解散乃至解
散ノ監督ヲ強要セムトスル如キハ明ニ一国ノ独立権ヲ犯ス
モノニテ如何ニ辞ヲ設クルモ内政干涉ノ範圍ヲ脱スルヲ得
ズ然ルニ各国政府ハ客年十二月二日南北妥協勧告ヲ為スニ
当リ何等右ノ如キ干涉ノ企図ヲ有セサルコトヲ声明シ爾来
此ノ方針ヲ持シテ諭ラザルニ拘ラズ今遽ニ本件借款問題ニ
関連シテ之ニ背反スルカ如キ措置ニ出デムトスルハ帝国政
府ノ同意スルヲ得ザル所ナリ尤モ将来支那政局ノ推移其他
ノ事情如何ニ依リテハ大局ノ見地ヨリ軍隊解散乃至其ノ監
督ノ問題ヲ考慮セザルベカラザルガ如キ事態ニ立至ルコト
之ナキヲ保セザルニ付将来ノ余地ヲ存シ置ク為メ往電第一
二三九号「オルストン」公使宛書中「親切ナル動機ニ出
デタル」云々ヨリ「南北首腦者ニ対スル五国勧告文中
ニ」迄ヲ「親切ナル動機ニ出デタルモノナルヘク又軍隊ノ
解散乃至其ノ監督問題ニ関シテハ今後支那時局ノ發展如何
ニ依リテハ関係各国政府ニ於テ慎重ナル考慮ヲ払ハザルヲ
得サル場合ニ立至ルコトナシトセザルモ今回ノ借款ニ関連
シ解散及ヒ監督ヲ以テ借款条件トナスコトハ昨年十二月二
日ノ支那南北首腦者ニ対スル五国勧告ノ趣旨ニ背反シ内政

一七九 十一月三日 在米出淵臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛 (電報)

米國側ノ对中国二千五百万弗借款成立及滿蒙

除外問題等ニ関シ國務省當局ト会谈ノ件

第七八五号

(十一月三日接受)

往電第七七三号ニ関シ

三十日第三次官ト往談短時間会见ノ機会ヲ得タルニ付二十
七日談話ノ続キトシテ「シカゴ」借款ニ付質問シタル処次
官ハ二千五百万弗借款成立ノ事実ヲ確認シ右ニ関シテハ既
ニ「モリス」大使ニ向テ帝國政府ニ内報方委細電訓シタリト
語リ且米國政府ニ於テ今回ノ措置ニ出デタルハ支那財政窮
乏ト国内不安ノ実況トニ顧ミ遲滞ナク救済ノ必要ヲ認メタ
ル結果ニシテ支那ニ於ケル此ノ事態ハ小幡公使ヨリ米國代
理公使ニモ語ラレタル次第ナリ日本政府ニ於テモ同感ナル
可シト信シタル旨ヲ特ニ附言セリ (「シカゴ」借款其モノ
ニ対シ且又十八日「モリス」ヨリ五百五十万弗借款ノ通告
ヲナシ間モ無ク二十八日ノ新通告ヲ為スニ至リタル前後ノ
關係等ニ付テハ探聞ノ時間ナク且帝國政府ヨリ追而何分ノ
申入アルヘシト存シ論議ヲ見合セ置キタリ) 次テ本官ヨリ

滿蒙除外問題ニ関スル米國政府ノ回答ニ言及シ米國側ガ我主張ヲ容レザルハ頗ル遺憾トスル処ナルモ屢々論議ヲ繰リ返シタル事柄故本日ハ根本問題ニ触ルコトハ見合ス可キガ米國政府ニ於テ吉会鉄道除外ニ同意セラレタルハ表面ノ理由ハ兎モ角實際我ガ国防等ノ關係ヲ顧慮セラレタル結果ナラズヤト輕ク質問シタルニ次官ハ同鉄道ハ未ダ「サブスタンスナル」プログレス」ヲ為シタルモノニ非ザルモ地理上ノ關係ヨリシテ吉長線ノ延長ト看做スヘキモノト認メ且同線ガ既ニ日本ノ資金ニ依リ完成シ居ル事實ニ顧ミ之ヲ除外シタル迄ニテ米國政府ハ新借款團ノ事業ト政治又ハ国防ノ問題ト飽迄分離シテ考慮スル方針ナリト語レリ、滿蒙除外ヲ固執スルコトノ不得策ナルコトニ就テハ往電第四七三號ヲ以テ縷々卑見ヲ申請シ置キタルニ付此際重ネテ繰リ返スコトハ差控ユヘキガ今回米國政府ノ回答ニ徴スルニ此ノ上論議ヲ重スルモ我ガ希望貫徹ノ望ナシト認メラルルニ付辛ニシテ吉会鉄道予期ノ通り除外セラレタルニ顧ミ帝國政府ニ於テ篤ト四囲ノ狀勢ヲ熟慮セラレ實際の見地ヨリシテ再応本問題ニ対シ深甚ナル詮議ヲ遂ゲラレンコトヲ切望ス。

英仏伊ヘ転電セリ

坂極秘電第一〇四号

小官ハ第一、第四兩師機動演習ノ査閲ヲ終リ今十三日北京ニ歸リ直ニ督弁タル靳總理ヲ往訪シ其ノ情況ヲ語リタル後時局ニ関シ斬ハ左ノ如ク語レリ

一、煙酒借款二千五百万弗數日前成立セリ貴官不在ノ為メ其ノ當時語ル能ハサリシモ予テヨリ屢々貴國ニ向ヒ希望セル借款成立ノ望ミナク而モ財政ノ困難日ヲ追フテ益甚敷ヲ以テ止ムナク之ヲ承認セリ人或ハ之ヲ以テ直ニ予ヲ目スルニ親米派ヲ以テスルニ至ルヲ畏ルルモ予カ日支ノ提携團結ヲ必要トスル素志ニハ何等変化ナク予ハ寧ロ貴國人カ借款ニ応スル余力アルニ係ラス英米ノ反対ヲ受ケ躊躇シツツアル現状ニ対シ借款ニ応セラルヘキ道ヲ開キタル積ナリ誤解ナキヲ望ム云々トテ露骨ニ述ヘ尚ホ煙酒借款ハ最初煙酒税ノミノ单独ニテハ不足ナル故塩税ノ剩余ヲ加フヘシトノ要求アリシモ財政部ニテ之ヲ拒絕シ米國代表者モ概ネ煙酒税ノミニテ承諾スル筈トナリ不取敢五百万弗ヲ交附スルモノナリト

二、國務各総長ハ今尚ホ安福派ノ折合ハサル為メ決定セス財政ニハ周自齊ヲ以テ充ツル予定ナリト

一八〇 十一月十一日 内田外務大臣ヨリ 在英國珍田大使宛 (電報)

对中国二千四百万弗借款ニ対スル借款团本部ノ詮議狀況電報セラレタキ件

第三九〇号

往電第三二八号ニ関シ

本件二千四百万弗借款ニ対スル借款团本部ノ詮議ハ其ノ後如何相成居レルヤ英仏代表者側ノ意嚮如何ニヨリテハ我方ノ執ルヘキ態度ニ付考慮セザルヲ得ザルコトトモ相成ルベク当方ニ於テモ特ニ重ヲ置ク次第ニ付右至急巽ニ確メラレ結果電報相成度シ

一八一 十一月十三日 在北京坂西陸軍少將ヨリ 田中陸軍大臣宛 (電報)

米國ノ对中国借款成立及日中關係ニ関スル靳

總理ノ内話報告ノ件

大正八年十一月十四日

電報 十一月 十三日 午後八時〇分發 十四日 午前十四時四十三分着

陸軍大臣宛

坂西少將

三、西南要人トノ關係ハ漸次良好トナリ昨今陸榮廷莫榮新ノ如キハ電報ニアリテモ靳總理ノ称号ヲ用ヒ居レリ

四、夙ニ吳光新ヲ派遣シ各省督軍ト協議ノ結果先ツ歲費二千万弗ニ相当スル軍事費ヲ裁決スルコトニ同意セシメタリ

要スルニ一般ノ狀況ハ困難ナカラモ良好ノ方ニ向ヒツツアリ此ノ際予カ就職中ニ於テ是非共予カ多年ノ素志タル日支結合ノ基礎ヲ極メテ鞏固ナラシメタク貴國当局ノ了解ヲ求メ速ニ意義アル財政的援助ヲ受ケ予ヲシテ止ムナク欧米ノ資力ヲ借リテ一時ヲ凌クカ如キコトナカラシメシヲ望ムヤ切ナリ云々

以上靳ノ言ハ一々小官ノ腦裡ヲ刺激シ小官ハ日ニ帝國ノ对支諸施設カ事毎ニ機宜ヲ失シタルヲ感シ切齒扼腕禁スル能ハサルモノアリシモ強テ之ヲ抑ヘ辭シ去レリ敢テ閣下等ノ同情ヲ求ムルコト頻リナリ

去ルニ臨ミ靳ハ更ニ曰ク予ハ何処迄モ欧米ニ対シテハ一時の姑息手段ヲ採リシモノナル故能ク諒セラレタシト繰リ返ヘセリ

二 中国改革借款一件 一八二 一八三

一八二 十一月二十日 在英国珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

英国提議ノ五百万磅借款案ニ仏米兩國同意ナ
ル旨英国極東部長談話ノ件

第五一二号 (十一月二十三日接受)

十九日極東部長ノ談ニ依レバ五百万磅対支借款ニ関シ仏米
兩國政府モ主義上同意ヲ表シ来リタリ只仏国ハ全額ヲ四百
万磅ニ減シタク米國ハ本借款事務ノ中心ヲ紐育ニ置キタク
希望ヲ回示セルモ右ハ何レモ理由ナキ申出ナルニ付之ヲ退
ケ我政府ニ対シテハ本件再考ヲ求ムル為四五日前在東京代
理大使ニ電訓シタル由ナルガ軍隊解散ヲ条件トスルハ英、
仏、米三国政府ノ等シク絶対必要視スル処ナル趣、
米、仏、伊へ転電セリ

一八三 十一月二十四日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二千四百万弗借款年末迄ニ成立ノ見込アリヤ
曹汝霖ヨリ問合アリタルニ付請訓ノ件

第一四九四号(至急) (十一月二十五日接受)

十一月二十四日曹汝霖新総理ノ依頼ニ由リ本使ヲ来訪シ予

為スヘシト約シ置ケリ就テハ本件ニ関スル回答振リ至急御
回示ヲ請フ

一八四 十一月二十五日 在本邦英国大使館ヨリ
日本外務省宛

对中国五百万磅借款供与ノ条件タル軍隊解散
ガ中国改革ノ必須条件タル所以ヲ強調ノ件

覚書

去ル十月九日在日本英国公使ハ日英米仏四国銀行団ヲシテ
各本国政府支持ノ下ニ支那ニ提供セシムトスル五百万磅
ヲ超エサル応急借款問題ニ関シ英国政府ヨリ日本国政府及
他関係国政府ニ提議セムトスルノ意図アルコトヲ日本外務
大臣ニ通告スルノ光榮ヲ有シタリ尚ホ右提議ノ委曲ニ就テ
ハ同日「オルストン」氏ヨリ内田子爵ニ手交シタル覚書ニ
開列スル所アリタリ

日本外務大臣閣下ハ其ノ十月二十八日附覚書ニ於テ前頭英
国政府ノ提議カ現ニ日本政府ノ考量シツツアル考案ト其
質ニ於テ合致スル旨ヲ指摘セラレタルモ只支那軍隊ノ解散
及其監督ヲ本件借款ノ一条件トセムトスル英国ノ提案ハ日
本政府ニ於テ聊カ異議アリ旁々英国政府ニ於テ本問題ハ此

ヲ日本政府ノ斡旋ニ依リ関係国間ニ協議中ナル二千四百万
弗借款ハ陽曆年末迄ニ調達ノ見込アルヤ否ヤ日本政府ノ確
実ナル見込一応承知シ置キ度ク実ハ日本政府ノ右ニ対スル
確答如何ニ依リ煙酒借款ニ対スル支那政府ノ態度ヲ決スル
コトトシタキ所存ニシテ最近米國側ヨリ頻リニ該借款契約
ニ対シ支那政府ノ承認ヲ迫リツツアルモ元来支那政府トシ
テハ該借款契約ハ米國ヲシテ煙酒稅行政ノ全權ヲ握ラシム
ル虞アルニ因リ出来得ルナラバ之ヲ断ハリタキ希望ナルモ
目下年末ヲ控ヘ予テ四国団ニ話シアル二千四百万弗借款成
立ノ見込之ナクバ、支那政府トシテハ脊ニ腹ハ替ヘラレス
支那ノ為ニ不利益ト知リツツ残念ナガラ已ムヲ得ス煙酒借款
ヲ承認セサルヲ得サル立場ニアリ就テハ右煙酒借款ニ対ス
ル政府最後ノ決定ヲ為ス必要上兩三日内ニ四国団借款ハ陽
曆年末迄ニ成立ノ見込アルヤ否ヤ日本政府ノ確答ヲ得タシ
ト述ヘタルニ付本使ハ四国団借款ニ関シテハ目下日本政府
ニ於テ極力関係国政府ト接洽中ニ付不日必ス成立ヲ見ルヘ
シトハ思考スルモ果シテ陽曆年末迄ニ間ニ合フヤ否ヤハ政
府ニ問合サザル限り何等明言シ難ク兎ニ角来意ノ次第ハ早
速政府ニ電報シ其ノ意嚮ヲ問合セ兩三日中ニ何分ノ回答ヲ

上ノ考慮ニ付セムコトヲ希望セラレタリ

「オルストン」氏ハ遲滞ナク右内田子爵覚書ノ主旨ヲ英国
外務大臣ニ申報シタル処今回「カーゾン」伯ヨリ十月九日
付英国公使覚書所掲ノ提議ヲ公式ニ日本政府ニ提出シ且同
時ニ英国政府ノ提議カ現ニ東京ニ於テ日本政府考量中ノ考
案ト一致セルヲ承知シタルハ英国政府ノ欣快トスル所ナル
旨ヲ表陳シ且ツ左ノ通附言スヘキ旨ノ訓令ニ接セリ

英国政府ハ現ニ考量中ノ借款カ少額ナルニ顧ミ右資金ヲ以
テ支那軍隊ノ解散費ニ充当スルニ足ラサルコトヲ承認スル
モ之ト同時ニ「オルストン」氏ノ十月九日付覚書ニ指摘セ
ル如ク不必要ナル軍隊ノ解散ヲ以テ本件借款ノ一条件タラ
シメムトスルニ対シ日本政府ニ於テ同意ヲ難ンセララルハ
英国政府ノ遺憾トスル所ナリ

英国政府ノ得タル報道ニ依レハ支那ノ軍費ハ同国政府ノ凡
ユル努力ニモ拘ハラス尚ホ殆ト毎月一千万弗ニ上レル趣ニ
シテ一面軍隊ノ給与ハ益々延滞額ヲ増加シ若シ右延滞額ニ
シテ支払ハルコト能ハスンハ或ハ此等軍隊ノ背反ヲ見ル
ニ至ルノ虞無ギニ非ス支那一部官人ノ軍事的野心ノ為メ其
国富ヲ蕩尽シツツアルハ事実ニシテ斯カル野心ヲ抛擲セシ

メサル限り如何ニ前貸ヲ行フモ其財政ノ平衡ヲ回復スルニ由ナシ

事情前頭ノ通ニ付英国政府ニ於テハ解散ハ徐々ニ実行スルノ可ナルヲ認ムルモ北方軍隊ノ解散ヘ支那改造ノ計画ニ取リ極メテ緊要ノ問題ニシテ又実ニ其主要ノ目的ナリト思考ス

改造自体ハ畢竟支那ニ於ケル秩序公安維持ノ必須要件ニシテ此要件タルヤ日本政府カ領土接壤ノ關係上死活的緊切ノ利害ヲ有スルモノタルヲ宣明セラレタル所ナリ

一九一九年十一月二十五日

英国大使館

註

右ハ大正八年十一月二十五日オルストン公使外務省来訪ノ際内田大臣ニ手交セラレタル英文覚書ノ仮訳文ナリ

尚右英文覚書ニハ左記ノ通りノ欄外註記アリ

(欄外註記)

一 「我方ト参戦軍トノ關係(陸相ヨリ送り来リタルモノニヨリ調製スヘシ)ヲ明カニシタルモノヲ送付スヘキ旨オルストンニ約束セリ(内田外相印)」

二 「八年十一月二十九日仏大使来談本國政府ノ電訓ニ依リ英ノ提議ヲ賛成スル旨申出デ我態度ヲ尋ネタルニ付英ニ対スル我回答ノ趣旨ヲ述ヘ置ケリ」

例ハ中国側ノ自発的措置ニシテ借款供与国側ヨリ強要セルモノニ非ザル旨説示ノ件

第四一〇号

貴電第四九八号ニ関シ

Addis へ軍隊解散並監督ノ先例ハ改革借款ノ際ニモアリト述ヘタル趣ノ処改革借款ノ費途中ニハ軍隊解散費ヲ含ミ又其ノ費途ヲ監督スヘキ機關ヲ作り外人ヲ入レタルコトハ事実ナルモ當時ハ借款団ヨリ軍隊ノ解散ヲ借款ノ条件トシテハ勿論其ノ他何等ノ方法ニ依リテモ支那側ニ要求シタル次第ニハアラズ支那側ニ於テ自ラ軍隊ヲ解散セムカ為之ニ要スル資金ヲ其他ノ行政費ト共ニ借款団ニ求メタルモノニ外ナラズ又借款団ニ於テ軍隊ノ解散ヲ監督シタルニアラズ其ノ使途カ正當ニ支出セラルルヤ否ヤヲ監督シタル迄ニテ右ハ対支借款ニハ通常ノコトナリ就テハ適當ノ機會ニ於テ為念、異ヨリ右ノ次第 Addis ニ篤ト説明スル様取計ハレ度シ右米仏伊各大使ニ転電アリタシ

一八七

十二月六日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使宛(電報)

二千四百万弗借款問題ニ関シ曹汝霖ヘノ回答

二 中国改革借款一件 一八七

三 「八年十二月四日米大使来談ノ折語次本件ニ及ヒ米國政府ハ heartily in favour of British proposal ナル旨ヲ述ヘタルニ付我態度ヲ説明シ置ケリ」

一八五 十二月二日

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二千四百万弗借款成立ノ時期ニ関シ再請訓ノ件

件

第一五二三号

(十二月三日接受)

往電第一四九四号ノ件曹汝霖ニ挨拶ノ都合モ有之ニ付折返シ何分ノ儀回電ニ預リ度ク過日米先方ヨリ度々催促アリ返答ニ窮シ居ル様ノ次第ナリ將又最近米國大使ガ貴方ヘ交渉ノ五千万円借款ノ件モ有之支那側ノ慣手手段タル掛引ナルヤモ計ラレザルモ武内正金取締役ガ確実ナル話ナリトテ財政部員ヨリ再三承知スル処ニ依レバ煙酒借款ハ依然確実ニ進行シ新曆年末ニ米金五百万弗旧曆年末ニ五百万弗受領ノ内約既ニ成立セリトコトナリ

一八六 十二月三日

内田外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛(電報)

軍隊解散及監督ニ関シアデイスノ指摘セル先

振回訓ノ件

第一五〇二号

貴電第一四九四号ニ関シ

往電第一二七四号帝國政府覚書ニ対シ十一月二十五日「オルストン」公使ヨリ別電第一五〇三号ノ通り申出アリタルヲ以テ別電第一五〇四号ノ通り同公使ニ回答スルコトニ決シタルガ「オルストン」ニ対シテハ英文調製ノ上一両日中ニ發送ノ予定ナリ(尚右發送ノ上ハ直ニ電報スベシ)就テハ右貴官限リ御含置ノ上曹汝霖ニ対シテハ先般来支那政府申出ニ係ル二千四百万弗借款ニ付テハ目下日英兩國政府間ニ折角商議中ノ次第アル処帝國政府ニ於テハ支那ノ利益ヲ害スル事ナキ様慎重考慮ヲ尽スト同時ニ出来得ル限リ速ニ本問題ヲ解決セムコトニ努メ決シテ等閑ニ付スルカ如キコトナキハ勿論ニテ右日英兩國政府間ノ所見モ遠カラス一致ヲ見ルニ至ルヘシト期待シ居レル次第ナル旨程能ク且ツ内密ニ説明シ置カレタシ

註

別電第一五〇三号及別電第一五〇四号ヲ省略ス、前者ハ一八四文書全文ニシテ又後者ハ次掲ノ一八八文書全文ナリ

二 中国改革借款一件 一八八

一八八 十二月七日 日本外務省ヨリ
在本邦英国大使館宛

英国側ノ对中国借款供与ノ条件タル軍隊解散
問題ニ関シ日本政府ノ見解回答ノ件

覚書

帝国政府ハ支那財政援助問題ニ関スル千九百十九年十一月二十五日付英国公使閣下覚書ヲ受領セル処本件対支借款ニ関スル考案カ大体日英兩國政府間ニ合致セルコトハ帝国政府ノ欣快トスル処ナリ

右英国公使覚書ニ拠レバ英国政府ニ於テモ帝国政府所見ノ如ク五百万磅ノ借款額ハ支那軍隊ノ解散ニ使用スル為ニハ余リニ少額ナリトセラルル趣ニテ即チ該借款金ハ軍隊解散ノ為ニ非ズシテ差向ノ応急費用ニ供セラルヘキ考案ナルモノノ如クニ有之果シテ然ラハ帝国政府ト其所見ヲ一ニスルモノト謂フヘシ將又英国政府ニ於テハ北方軍隊ノ解散ヲ以テ支那改革案中ノ最要義トセラルルト同時ニ解散ノ手續ハ徐々ニ之ヲ行フヲ可トセラルル趣ナル処帝国政府ニ於テモ不必要ナル支那軍隊ノ解散其物ハ最モ必要ノ儀ト思考スルモ既ニ前回ノ帝国政府覚書ニモ記載シタル通り軍隊ノ解散

一七八

ヲ借款ノ条件トシテ支那政府ニ要求スルハ昨年十二月二日ノ五国勸告文ノ趣旨ニ反シ内政干涉ノ嫌アリテ事体穩当ナラサルニ付軍隊ノ解散ヲ借款ノ条件トシテ提出スルコトハ之ヲ見合ハセ十一月二十二日大總統令ヲ以テ支那軍隊二割裁撤ヲ公布シタル例ニ從ヒ支那側自発的の行為トシテ徐々ニ解散スルコトヲ勸告スルコトト致度シ尤モ支那政府ニ対シ該勸告ヲ為スニ際シ解散スヘキ軍隊ヲ列国ヨリ指定スルカ如キ措置ハ明カニ内政干涉ニ亘ルヲ以テ如此ハ之ヲ避クル方可然モ借款金ノ使途ニ対スル(即チ借款金ヲ軍隊解散ノ為メ使用スルニ対シ行フベキ)監督ニ至テハ之ヲ要求シ得ヘキハ論ヲ俟タサル処ナリ

尚ホ前記ノ通り英国政府ニ於テハ北方軍隊ノ解散ニ重ヲ措カルルモ南北紛争ノ現状ニ顧ミ一方ノ軍隊ノミノ解散ヲ図ラムトスルハ公平ヲ失スルノ措置ニ付北方側軍隊ノ解散ニ次キ南方側軍隊ヲ解散スルコト必要ト思考ス

要スルニ今回支那政府希望ノ資金ハ軍隊ノ給与其他急迫ノ費用ニシテ且ツ時恰モ歳末ニモ迫リ居ル為メ此上支那側トノ交渉ヲ遅延セシムルニ於テハ延イテ如何ナル事變ヲ惹起セシムヘキヤモ難計此点ハ支那ニ利害關係ヲ有スル各国ノ

均シク懸念スヘキ所ニシテ殊ニ日本トシテハ十月二十八日付帝国政府覚書ニモ指摘セル通り接壤ノ關係上一層ノ憂慮ヲ禁ゼザルヲ得ザル次第ナリ
事情右ノ次第ニ付唯本件應急的の借款ハ軍隊解散ニ関スル支那政府トノ交渉ノ為メ遅延セシメラルコトナク速カニ成立ニ至ラシムルコトヲ希望ス

大正八年十二月七日

日本外務省

一八九 十二月十五日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ对四国団借款申出ニ関シ財政総長ヨリ
四国団代表者ニ対シ声明スル所アリタルニ付
右代表者ヨリ倫敦本部ニ請訓シタル件

第一五六八号 (十二月十六日接受)

往電第一五五七号ニ関シ

十二月十三日財政総長ハ四国団代表者ヲ招致シ会談スル所アリタルカ其ノ結果四国団代表者ヨリ倫敦本部ニ宛テ左ノ通電報セリ委細郵報

二 中国改革借款一件 一八九 一九〇

四国銀行代表者十三日財政総長ノ招致ニ依リ会見シタルニ同総長ハ前任者ノ四国団ニ対スル借款申出ヲ Confirm シ財政状態ハ目下從前ヨリモ一層ノ窮乏ヲ加ヘ殊ニ旧年末ヲ控ヘ此際資金ヲ得ルニアラザレバ如何ナル不測ノ事變ヲ生スルヤモ知レザルニ付四国団ニシテ速ニ援助ヲ与ヘラレズンバ他ノ方面ヨリ金策ヲ為スノ已ムヲ得ザルニ至ルベシ依テ本日ノ会見ハ之ヲ以テ最終ノ申出ト了解セラレタシト声言セリ尚代表者ノ質問ニ対シ同総長ハ米國「シンデケート」ト三千万弗借款ヲ締結セルコトヲ「アドミット」セリ

因ミニ右末段「尚」以下ハ米國借款ニ対シ四国団ヨリ抗議ノ余地アルベキモ本部ノ意嚮ニ依リテ行動シタシトノ当地代表者ノ内意ヲ含メテ附記シタルモノナリトノコトナリ

上海、広東、漢口、南京ヘ転電シ天津ヘ暗号ノ儘郵送セリ

一九〇 十二月十九日 内田外務大臣ヨリ
在英国珍田大使宛(電報)

英国提議ノ五百万磅借款至急成立ノ為尽力セラレ度旨異ニ指示方ノ件

第四二八号

本省発在米大使宛往電第八六八号ニ関シ
曩ニ往電第四二四号ノ通り新借款団問題ニ付テハ多少ノ時
日ヲ要スル次第第二付五百万磅借款問題ハ之トハ關係ナク別
ニ商議ヲ進捗セシムルコトト致度旨英国代理大使ニ答ヘ置
キタル次第ニテ帝國政府ニ於テハ五百万磅借款問題ノ速進
ヲ希望スルノミナラズ右往電第八六八号ノ通り支那政府ヨ
リハ頻リニ督促シ来レル次第ニモアリ此ノ上遷延スルコト
ハ面白カラザルニ付右ノ次第異ニ申含メラレ支那政府申出
ニ対シテハ四國団ニ於テ好意的考慮ヲ加ヘ速ニ応諾ノ運ニ
至ル様尽力セシメラレタシ尙貴官ニ於テモ右ノ趣旨ニ基キ
英国政府勸誘方可然取計ハレ度シ

一九一 十二月二十日 在本邦英国大使館ヨリ
日本外務省宛

英国提議ノ对中国借款条件タル軍隊ノ解散ニ
関スル日本政府ノ見解ハ理解シ難キ旨申越ノ
件

覚書

英国公使ハ支那軍隊ノ解散ヲ以テ今回提議ノ対支応急借款

ノ条件ト為スコトニ反对セラレタル本月七日付日本政府覚
書所載ノ主張ハ直ニ英国外務大臣ニ通報シタリ
「オルストン」氏ハ今般本國政府ヨリ左ノ通日本政府ニ通
報スヘキ旨ノ訓令ニ接シタリ即チ英國政府ハ日本政府ノ覚
書ニ対シ慎重考慮ヲ加ヘタル結果軍隊解散ハ徐々ニ実行ス
ヘキコトニ同意スト雖直ニ之ニ著手スヘキモノト思考スル
ニ於テ依然踰ルコト無シ且又英國政府ハ各國カ資金供給者
トシテノ權利ヲ行使スルニ當リ軍隊解散ヲ以テ借款応諾ノ
条件中ニ加ヘムトスルハ何故ニ支那ノ内政ニ対シ不当ノ干
渉ヲ為スモノナリトノ非難ヲ受クヘキヤ其理由ヲ發見スル
ニ苦シム次第ナリ以上ノ主義ハ他ノ關係三國政府ノ已ニ
承認セル所ニシテ仏國政府ハ之ヲ以テ借款ノ一条件ト為ス
ヘキモノトスルノミナラズ該借款資金中ヨリ第一ニ充当セ
ラルヘキモノナルコトヲ提議セル程ナリ加之南北和平會議
ノ再開ハ已ニ本借款ノ一条件タリ

英国公使ハ同時ニ前記ノ主義ニ絶エズ反对シツツアル日本
政府ノ態度ハ甚シキ誤解ヲ生シ易キモノナルコトヲ指摘ス
ヘキ旨ノ訓令ニ接シタリ日本政府ハ旧式ニシテ且破滅的ノ
獨立借款ノ方法ニ依ルコトナク本件借款ヲ速ニ締結スルコ

覚書

トハ支那ニ対シ即時ニ援助ヲ与フル唯一ノ方法タルコトハ
熟知シ居ラルル所ナリ而シテ此ノ事實ニ鑑ミ英國政府ハ最
モ熱心ニ日本國政府ニ対シ日本政府カ支那ノ福祉ノ為一般
ニ必要ナリト認メララルル改革ニ対シ主義上ノ承認ヲ一条件
トシテ与フルヲ欲セラレサルコトニ依リ本件借款ヲ此上遲
滯セシメラレザランコトヲ訴フルモノナリ
英國政府ハ軍隊解散ハ公平ニ行フヘク且北方軍隊解散ニ次
キ南方軍隊ヲモ解散スヘキモノナリトノ日本政府ノ所見ニ
対シ全然同意ス

千九百十九年十二月二十日

東京ニ於テ

英国大使館

註 右覚書ハ大正八年十二月二十日英国代理大使オルストン内
田大臣ヲ來訪手交シタルモノノ仮訳文ナリ

一九二 十二月二十三日 日本外務省ヨリ
在本邦英国大使館宛

对中国借款ハ当面ノ急需ニ充当スルヲ本義ト
スルモ一部資金ヲ不必要軍隊ノ解散着手ニ充
当スルニ同意ナル旨回答ノ件

二 中国改革借款一件 一九二

然ルニ今回右十二月二十日付英国公使閣下覚書ニ依リ日英
兩國政府ノ間ニ支那軍隊ノ解散ハ徐々ニ実行スヘシトノ点
ニ於テ所見一致シ從テ本件借款ノ大部分ハ支那政府申出ノ
応急費途ニ充当セラレ其ノ一部分ヲ以テ軍隊解散費ニ充当
セラルルコトナル次第ニテ曩ニ帝國政府ノ指摘セル前記
第二点ノ懸念ハ除去セラレタルモノナリ將又英國政府ハ軍
隊ノ解散ハ公平ニ行フヘク北方軍隊ノ解散ニ次キ南方軍隊
ヲモ解散スヘキコトニ同意ヲ表セラレタルニ付此ノ点ニ関
スル兩國政府ノ所見モ茲ニ其ノ一致ヲ見ルニ至レリ
日本政府ニ於テモ不必要ナル支那軍隊解散ノ主義ニ対シテ

ハ素ヨリ同感ニシテ右ハ前回ノ覚書ニ依リ已ニ英国政府ノ諒解セラレタル所ナル可シト思考ス蓋シ軍隊解散ノ如キハ国家ノ重大ナル内政事項ナルカ故之ヲ借款ノ条件トスルハ支那カ如何ニ窮乏ノ状態ニ在ルニセヨ其ノ体面上同意ヲ難ンズベキハ帝国政府カ支那ノ為メニ憂慮シタル所ナリ

然レトモ既ニ他ノ三国政府ニ於テ軍隊ノ解散ヲ以テ借款条件トナスノ主義ヲ採用シ単ニ日本政府ノ異議ニ依リ本件借款ノ成立ヲ見ザルニ於テハ其ノ結果ノ重大ナルニ顧ミ帝国政府ニ於テ篤ト考慮ヲ遂ケタル上英国政府ノ提議ニ從ヒ支那政府ニ於テ此際南北共幾分ニテモ其ノ不必要ナル軍隊ノ解散ニ着手スルコトヲ以テ本件応急借款ノ一条件トシ其ノ資金ノ一部ヲ之ニ充当スヘキコトニ同意ス尤モ十二月七日付日本政府覚書所載ノ通り関係国政府乃至銀行団側ヨリ支那政府ニ対シ解散スヘキ軍隊ヲ指定スルコトハ明ニ内政干渉ニ亘リ物議ヲ醸シ事態ヲ紛糾セシムル虞アルニ付斯ル措置ハ之ヲ避クルコト緊要ニシテ此ノ点ニ付テハ英国政府ニ於テモ勿論異存ナキヲ信ス

將又右英国公使覚書所載仏国政府意見ノ如ク本件借款資金ヲ最先ニ軍隊解散費ニ充当セムコトハ当面ノ急需ヲ充サム

カ為メ本件借款ヲ申出テタル支那政府ノ趣旨並關係国側ニ於テ本借款ガ焦眉ノ急タル性質ニ顧ミ之ニ応セムトスル精神ニ反スル次第ニ付帝国政府ニ於テ之ニ賛同スルニ躊躇セザルヲ得ズ

大正八年十二月二十三日

日本外務省

註

右在本邦英国大使館宛覚書ノ案文ハ大正八年十二月二十二日外交調査会ニ於テ決定セラレ次デ翌二十三日閣議ニ於テ其儘決定セラレタルモノナリ尚右對英回答ノ大要ハ十二月二十四日内田外務大臣發往電第一五四七号ヲ以テ在中国小幡公使宛通報セラレタリ

一九三 十二月二十四日

在英国珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国ノ軍隊解散及監督問題ニ関シ永井参事官

ニ対シ英国当局談話ノ件

第五五九号

(十二月二十八日接受)

貴電第四二八号ニ関シ

客遇当館参事官ヲシテ極東部長ニ軍隊解散条件ニ関スル我方反對理由ヲ説明セシメタル処部長ハ支那軍隊解散必要論並ニ債主トシテ相当条件ヲ要求スルハ何等不可ナカルヘキ

ヲ主張シ他面仏国政府ヨリ本借款条件トシテ借款第一回渡シ金ハ必ス軍隊解散費途ニ充ツヘキコトヲ提議シ来レルニ對シテハ必スシモ其必要ナキヲ認メ且又斯ル条件ハ到底支那ニ於テ実行シ兼ヌルモノナルヲ予見シ仏国政府ノ再考ヲ求メンカ為ニ英国政府ニ於テ右ニ反對ナル旨ヲ通シタル様ノ次第二ニ英国当局トシテハ斯ル過重ナル条件ニハ賛同セザルモ軍隊解散ヲ条件中ヨリ除クニ至リテハ承諾シ兼ヌル所ナル旨覆説シタル由ナリ然ルニ同部長ハ客週末ヲ以テ他ニ転シ新部長代理其ノ職ヲ襲フコトナリ將又貴電第四二八号接到シタルニ付二十三日重ネテ参事官ヲシテ部長代理ヲ訪ハシメタルカ部長代理モ大体上記部長所述ノ論旨ヲ繰返シタリ但シ兩人談話中参事官ハ在本邦代理大使ヨリ貴電第四一五号回答覚書全文ヲ電報シ居ラザルヲ確メ將又軍隊解散並監督条件ト客年十二月二日共同勸告ノ抵触ニ関シ十分報告サレ居ラザルヤノ印象ヲ得タルニ付回答覚書ヲ示シテ要点ニ付縷述セル処代理モ右ニ関シ何等カ考慮ヲ運ラスノ必要ナルヲ首肯シタルヤニ認メタルガ貴電第四二九号末段「オルストン」ノ電報未著ノ模様ナリシニ付参事官ハ至急考量決定ヲ望ム旨申入ルルニ止メ置キタル旨本使ニ

復命セリ、二十五日ヨリ四日間休日ニ付二十四日更ニ問合セノ結果電報スヘシ尚軍隊解散監督ノ意義ニ付質問シタルニ對シ前部長代理共ニ監督ト云フモ特ニ監督員ヲ派シ実地ニ就キ照合スルノ意味ナラズ支那政府ヲシテ解散セシメ之レカ履行ト共ニ追時報告ヲ提出セシムル程度ヲ以テ大体満足スヘキ考ナリト述ヘ米政府ノ本件ニ對スル態度如何トノ質問ニ對シ代理ハ右ニ関シ未ダ知ル所ナキモ英仏ノ決定ニハ米モ異議ナカルベシト答ヘタル由

米仏伊ニ転電セリ

一九四 十二月二十五日

在英国珍田大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

中国軍隊解散問題ニ関スル妥協案ヲ案出シテ

商議進捗ヲ計ルヲ得策トスル旨稟申ノ件

第五六三号

(十二月二十七日接受)

往電第五五九号ニ関シ

二十四日極東部長代理ハ在英日本大使館側ニ就キテ解スル処ニ依レバ軍隊解散監督ヲ条件トスルハ日本政府ニ於テ不同意ナルヘキモ解散ノミナレバ必スシモ然ラサルヤニ察セラルル処右ハ果シテ然ルヤ確メ方前日在日本英国代理大使

ニ電訓セル旨ヲ永井ニ告ケタリ右ハ永井ガ二十二日会見ノ
節解散監督ノ明ニ内政干渉ナルヲ指摘シタル後解散自体ニ
関シテハ之カ実行ヲ支那ニ勧告スルハ我政府モ異議ナキ所
ナレハ日英両政府ノ意見接近シ居リ私見トシテハ其間ニ妥
協点アルヤニ考ヘラルル旨ヲ述ヘタルモノニ基クモノニシ
テ正鵠ヲ欠ケルモ右電訓ヲ発スルニ至レルニ徴シ監督ニ関
シテハ之ヲ撤回シ差支ナキ内意英國側ニアルヲ推知スヘク
既ニ英國当局ニ於テ右譲歩ヲ為サントスルニ至レル此際解
散自体ニ関シ共同勧告ト矛盾セサル何等カノ「フオーシェ
ラ」ヲ案出セラレ速ニ本件商議ノ進捗ヲ計ルコト得策ナル
ヤニ思考セラレ

「オルストン」ヨリ前記問合アルヘキニ付御回答振リ本使
ヘモ同時ニ電報アリタシ

尚本件ニ関シ日英間ノ協議ダニ成ラバ仏国政府ハ同意シ来
ル見込ナリト代理述ヘ居リタル趣

米仏伊ハ転電セリ

一九五 十二月二十七日 在本邦米国大使館ヨリ
日本外務省宛

太平洋開発会社ノ对中国二千五百万弗借款ニ

realize that the United States Government is power-
less to prevent, and would be loath to interfere
with, the activities of its citizens abroad, unless
the consortium should be organized. The United
States Government has guaranteed to the American
group in the proposed international consortium com-
plete and exclusive diplomatic support, but un-
fortunately, it seems to the Government of the United
States, the consortium has not yet been organized,
and until it is in operation the American Group
will not be in a position to avail itself of the
promised support.

In the meantime the Government of the United
States has done all within its power to effect an
accommodation between the three other Powers con-
cerned with the consortium. Of these Powers Eng-
land and France are in perfect accord with the United
States, while the Government of Japan alone seems
to have been unable to agree entirely. The United

関シ釈明ノ件

MEMORANDUM

The American Ambassador presents his com-
pliments to the Department of Foreign Affairs of
the Imperial Japanese Government and acknowledges
receipt of the latter's confidential memorandum under
the date of December 19th, referring to a contract
for a loan of twenty-five million dollars concluded
between the Government of China and the Pacific
Development Corporation of America; and in reply
thereto he has the honor, under instructions of his
Government, to report as follows:

The Government of the United States has with-
held diplomatic support from the loan of the Pacific
Development Corporation and is still withholding
such support, though the information comes to the
United States Government that the parties to the
contract are proceeding to execute it notwithstanding
that position. The Government of Japan will

States Government must in all frankness say that,
unless the consortium will be organized, it will
not be justified in withholding diplomatic support
from the individual efforts of American citizens
abroad, whether in China or elsewhere. On the con-
trary the United States Government will feel that
its citizens have a right to expect from it full
diplomatic support when engaged in proper activi-
ties. The United States Government is keenly sensi-
ble to the embarrassing circumstances this situation
may develop, and desires to remind the Government
of Japan that one of the objects of the consortium
is to replace the uncontrolled activities of individual
enterprise in China by a cooperative organization, in
which the citizens of the four Powers most interested
in China will join in a spirit of friendliness, which
can be such a potent factor for the welfare of China
and forward the good relations of the four Powers
concerned. The United States Government has been

entirely frank in its professions to the Government of Japan, and fully realizes that the Government of Japan is cognizant of that fact and well aware that the present situation has developed in spite of the efforts of the United States Government, and certainly not because of them.

Further, the hope can only be expressed that the Government of Japan will in the near future indicate its adherence to the consortium proposals. In that case the United States Government will be in a position to act with some degree of authority over the activity of its citizens in financial matters in China and will be able, it is certainly expected, to direct the loan of the Pacific Development Corporation through the American Group into the Consortium Syndicate.

Tokyo, December 27, 1919.

(欄外註記)

「八年十二月二十七日米大使来談手交(内田外相印)」

一九六 十二月二十九日 内田外務大臣ヨリ 在米国幣原大使宛(電報)

太平洋開発会社ノ对中国借款問題ニ関スル米 国大使トノ会談ニ付通報ノ件

第九〇六号

往電第八八〇号ニ関シ

十二月二十七日米国大使来訪 Pacific Development Corporation 借款問題ニ関スル右往電第八八〇号所載帝國政府覚書ニ対スル回答書ヲ本大臣ニ手交シタルカ其要旨ハ米 国政府ハ Pacific Development Corporation ニ対シテハ先般其締結セル二千五百万弗借款ニ付承認ヲ与ヘサルニ拘ラス同会社ニ於テハ着々実行ノ歩ヲ進メ居レル趣ニテ対支借款ニ関スル独占的援助ヲ享有セル新借款団成立前米 国政府トシテハ此上如何トモ致シ難ク畢竟日本ニ於テ尚新借款団ノ組織ニ異議ヲ挟マルルカ為スル事実ヲ見ルニ外ナラサル次第ニ付速ニ日本政府ニ於テ新借款団組織ノ議ニ賛同セラ ルルニ至ラムコトヲ希望スト云フニ在リテ米 国大使ハ更ニ右ノ趣旨ヲ口頭ニテ説明シタルニ付本大臣ハ仮令新借款団ノ組織成ル場合ニ於テモ此ノ種借款ハ往々ニ其成立ヲ見ル

右英仏伊ニ転電アリタシ

一九七 十二月二十九日 中村正金副総支配人ヨリ 内田外務大臣宛

二千四百万弗借款及烟酒借款ニ関スル在北京

武内取締役ヨリノ来信提出ノ件

附屬書一 十二月十五日付在北京武内取締役ヨリ梶原本

店頭取宛来信亨

二千四百万弗前貸ニ関シ倫敦向ケ發電内容ノ件

二 十二月十八日付在北京武内取締役ヨリ梶原本

店頭取宛来信亨

烟酒借款ニ関スル聞込報告ノ件

大正八年十二月二十九日

横浜正金銀行

副総支配人 中村錠太郎(印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

拝啓左記ノ件ニ関シ別紙写ノ通り在北京武内取締役ヨリ報告有之候間玆許供御内覧候 敬具

左記

一、二千四百万弗前貸ニ関シ倫敦向發電ノコト
(十二月十五日附頭第八/一二二号)

二 中国改革借款一件 一九七

一、烟酒借款ノコト

(十二月十八日附頭第八/一二四号)

(附屬書一)

頭第八/一二二号

大正八年十二月十五日

於北京支店

取締役 武内金平

本店

頭取 梶原仲治殿

拜啓

二千四百万弗前貸ニ関シ倫敦向發電ノコト

去十三日財政総長ト代表者会见ノ上倫敦団体本部ヘ向テ發電スルコトニ決定シタル次第ハ前便弊信頭第八/一二〇号ヲ以テ電文案添付御報告申上置候処其後右電文中左ノ通追加シ本日發電スルコトに相成候

On enquiry minister of Finance admitted conclusion of agreement with American Syndicate for loan G\$30,000,000

別紙電信全文添付致置候間御参照被成下度尚本電信全文公

一八八

使館ヨリ外務省宛發電相成候ニ付疾ク御了承ノコト存シ本便ヲ以テ右追加ノ件書信及御報告候

前述米国側借款ニ付テハ四国団代表者ハ立処ニ細目ヲ追窮シ抗議ヲ申込ムヘキ筋合ノモノニ御座候ヘ共当日会见ハ已ニ総長ニ於テモ最後ノ依頼ト言フカ如キ場合ニモ有之一応本部ノ意向ニ拠リテ行動ヲ取ル趣意ニテ事実ヲ電信末段ニ追加シタル次第ニ御座候右当用及御報告候 敬具

(別紙)

TELEGRAM FOR LONDON

Following for the Four Groups.

Referring to our telegram of 11th September, on appointment new Minister of Finance requested interview with Four Groups Representatives on 13th instant and confirmed request of his predecessor for advances on scale already mentioned. He stated that Chinese Government are still in urgent need of funds and that situation would become extremely critical at approaching Chinese New Year. Should financial assistance not be forthcoming at an early date, he

will be reluctantly compelled to borrow from any other sources which offer, and he requested the Groups Representatives to consider this his final application.

On enquiry Minister of Finance admitted conclusion of agreement with American Syndicate for loan G\$30,000,000.

(附屬書二)

頭第八/一二四号

大正八年十二月十八日

於北京支店

取締役 武内 金平

本店

頭取 梶原仲治殿

拜啓

烟酒借款ノコト

烟酒借款ニ関シテハ其後又々中止シタリトノ説モアレドモ事實ハ然ラザルモノノ如ク而シテ或露国人ノ信頼スヘシト称スル消息ニ拠レハ以前当地米国代理公使ノ子息ナリトカ

二 中国改革借款一件 一九八

Louis Williams ナルモノガ烟酒事務署ニ入り会弁トナル契約、支那当局者ト調印セラレタリトノ事ニ有之已ニ公使ヨリ外務省宛電報相成候得共聞込ミタル儘右為念御報告申上候 敬具

一九八 十二月三十一日 在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛

中国ノ対四国団借款申出ニ関シ財政総長ヨリ
四国団代表者ニ督促シタルニ付右代表者ヨリ
倫敦本部ニ報告ノ件

機密第五四一号 (大正九年一月八日接受)

大正八年十二月三十一日

在支那

特命全權公使 小幡西吉 (印)

外務大臣子爵 内田康哉殿

(附屬書添付)

財政援助問題ニ関シ四国団代表者

財政総長ト会见ノ件

財政援助問題ニ関シ十二月十三日李財政総長ハ四国団代表

一八九

者ヲ招致シ会谈スル所アリタルガ其結果ヲ代表者ヨリ倫敦本部ニ打電セル次第ハ往電第一五六八号ヲ以テ不取敢及電報置候処別紙^(註)右代表者発倫敦本部宛電報原文写茲ニ差進候条御査閲相成度此段申進候也

註 別紙ヲ省略ス該別紙ハ前掲一九七文書附属書一ノ別紙ト同文ナリ

事項三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件

一九九 一月二十日

在米國石井大使ヨリ
在紐育矢田総領事
在シカゴ来栖領事 各宛

アボット中国行ノ用向及米國ノ对中国借款成

立説ニ関スル件

紐機密第二号

市機密第一号

大正八年一月二十日

在米

特命全權大使子爵 石井菊次郎

在紐育 矢田総領事

在市俄古 来栖領事

支那借款ニ関スル件

市俄古大陸商業銀行副總裁アボット (John Jay Abbott, Vice President of the Continental and Commercial Trust and Saving's Bank of Chicago) ハ支那財政事情調査ノ為メ國務省ノ承諾ヲ得近日渡支ノ筈ナル旨「モルガ

三 对中国新借款团組織ニ関シ米國提議ノ件 一九九 二〇〇

ン」会社ノ談トシテ最近各新聞紙ニ掲載セラレタル次第ハ既ニ御承知ノ義ト存候処右ニ関シ國務省当局ハ「アボット」ハ過般成立セル米國財団(約三十ノ銀行ヨリ成リ旧米國財団ヲモ含ム)ヲ代表シ支那南北妥協後ニ於ケル資金需要ノ狀況等調査ノ為國務省トモ相談ノ上支那ニ赴クコトニ決定シタル次第ニテ本月下旬出發日本經由渡支ノ予定ナリト内話致候然ルニ「モルガン」会社ヲ筆頭トスル銀行団ハ支那ニ対シ約五千万弗借款締結方決定シタリ云々ノ報道在紐育華盛頓ポスト通信員ニ依リ一昨十八日ノ同紙上ニ伝ヘラレ候右ハ米國団ニ於テ右金額以内ノ対支借款ハ何時ニテモ必要ニ応ジ引受クルコトノ内規ニテモ有之結果ナルベキカトモ被察ニ付貴地米國財団關係ノ向ニ就キ夫トナク内探ヲ遂ケラレ其結果本省及当方ヘ報告相成様致度此段申進候也

写送付先 本省

二〇〇 一月二十四日

内田外務大臣ヨリ
在中国小幡公使
在米國石井大使 各宛 (電報)